

14-01

研究報告書第 33 号

特殊教育に関する研究

個別指導計画に基づく指導方法の在り方

それぞれの障害に配慮した
個別指導計画の実践事例集

平成 9 年度

茨城県教育研修センター

刊行にあたって

ノーマライゼーションの理念の浸透など最近の社会状況の急速な変化の中で障害児の教育に対する関心も高まってきております。特に障害者が参加できるような社会づくりは、今後一層進展するものと予想されますが、このような中で、障害児の可能性を最大限に伸ばし、社会参加・自立の基盤となる「生きる力」を培うことがますます重要になってきています。

この「生きる力」を培うための具体的課題として、すでに現行の学習指導要領においても、「個に応じた指導など指導方法の工夫改善に努めること」が強調され、個に応じた指導の重要性が指摘されています。また最近では、平成7年に総理府が策定した「障害者プラン～ノーマライゼーション7か年戦略～」の中で、特に特殊教育については、「障害の特性に応じたきめ細かい教育体制を確保する」とし、より質の高い教育の在り方を求めています。さらに同時期に出された「いばらき教育プラン」の特殊教育に関する項目の中でも、児童生徒一人一人の心身の障害の状態や特性等に応じた教育の内容・方法の改善を図り、個に応じた指導を強調するなど具体的な改善の努力を求めています。

このような状況の中で、本教育研修センター特殊教育課では、平成7年度から2か年にわたり「個に応じた指導方法に関する研究」を進め、個別指導計画のモデルを作成し、提示してきました。本年度の研究は、さらにこの提示を受けて「個別指導計画に基づく指導方法の在り方」という研究テーマで実践的に個別指導計画を作成し、それぞれの障害に配慮した指導方法の在り方の研究に取り組みました。この報告書は、その成果をまとめたものです。

平成9年の11月に公表された教育課程審議会の「中間まとめ」は、特殊教育については、「個に応じた指導の一層の充実を図るため、個別の指導計画の作成の必要性をより明確に示すことについて検討する」と提言し、個に応じた指導と個別指導計画の作成について一歩踏み込んだ表現で具体的な方法に触れていますが、今回の本研修センターの研究はまさに新学習指導要領が目指す特殊教育の方向に沿うものであります。この研究が、各学校における個に応じた指導の一層の改善・充実に役立てば幸いです。最後に、本研究を進めるにあたり、御協力いただきました関係学校及び研究協力員に対して、心から感謝申し上げます。

平成10年3月

茨城県教育研修センター所長

増 田 一 也

研究概要及び索引語

障害の重度・重複化，多様化に適切に対応するために個別指導計画を作成するなど，個に応じた指導の一層の充実を図る必要がある。

そこで，本研究では，実際に障害種別に事例を選んで，前年度の研究で提示された個別指導計画のモデル（4様式）に基づいて個別指導計画を作成した。さらに指導方法を個別指導目標との一貫性や支援の在り方，また形成的評価の観点などから検討し，学習指導案の中で個別指導目標達成の具現化を図った。

索引語（キーワード）：特殊教育，特殊教育諸学校，特殊学級，個に応じた指導

目 次

刊行にあたって

第 1	研究の概要	1
1	研究の趣旨	
2	研究の内容・方法	
3	研究の経過	
第 2	個別指導計画の基本的考え方	2
1	個に応じた指導における個別指導と集団指導	
2	どこでも、だれでも、長続きするシステム	
3	個別教育計画（I E P）との基本的な違い	
第 3	個別指導計画の作成と実践にあたって	4
1	各学校によるアレンジ	
2	スクラップ&ビルド	
3	学習指導案と個別指導計画	
第 4	個別指導計画による指導の実際	6
1	精神薄弱特殊学級	6
(1)	作成マニュアル	6
(2)	対人関係を広めたい児童（小学校第 6 学年）の事例	7
(3)	物事を最後までやりぬく力を育てたい生徒（中学校第 3 学年）の事例	14
2	難聴・言語障害特殊学級，通級指導教室	21
(1)	作成マニュアル	21
(2)	言語力を伸ばしたい児童（小学校第 4 学年）の事例	22
(3)	言葉の表出を促進したい児童（小学校第 4 学年：通級指導教室）の事例	29
3	情緒障害特殊学級	36
(1)	作成マニュアル	36
(2)	言語表現力を高めたい児童（小学校第 2 学年）の事例	37
(3)	多くの人と会話ができるようにしたい生徒（中学校第 3 学年）の事例	44
4	盲学校	51
(1)	作成マニュアル	51
(2)	情報を適切に読み取る力をつけたい生徒（中学部第 1 学年）の事例	52
5	聾学校	59
(1)	作成マニュアル	59
(2)	意欲的にコミュニケーションさせたい児童 （小学部第 1 学年）の事例	60

6	肢体不自由養護学校	67
	(1) 作成マニュアル	67
	(2) 人や物へのかかわりを深めたい生徒（高等部第3学年）の事例	68
7	病弱養護学校	75
	(1) 作成マニュアル	75
	(2) 学習空白を補いながら自己解決力を高めたい生徒 （中学部第2学年）の事例	76
8	精神薄弱養護学校	83
	(1) 作成マニュアル	83
	(2) 友達や教師とかかわりがもてるようにしたい生徒 （中学部第3学年）の事例	84
	(3) 意思の伝達能力を高めたい生徒（高等部第3学年）の事例	91
第5	研究のまとめ	98
	研究協力員，センター職員一覧	99

第1 研究の概要

1 研究の趣旨

最近のノーマライゼーションの理念の浸透など社会状況の変化の中で、特殊教育を取り巻く状況も大きく変わってきており、特殊教育諸学校や特殊学級等での障害の重度・重複化、多様化に対応した指導の在り方が大きな課題になってきている。

このような状況を背景に、平成元年に改訂された盲学校、聾学校及び養護学校の学習指導要領の第1章総則の第2節第6「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の中では、「個に応じた指導など指導方法の工夫改善に努めること」と示し、個に応じたより質の高い教育の必要性を提起した。さらに平成9年11月に出された教育課程審議会の「中間まとめ」では、「養護・訓練については、個別の指導計画の作成の必要性をより明確に示すことを検討する。」と提言するなど、個に応じた指導や個別指導計画の作成についての関心が高まってきている。

このような中で、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばし、社会的な自立を可能な限り実現していくために、その障害の種類や程度等に応じて指導内容や方法を個別化するための在り方を究明することが必要になってきている。

以上のことをふまえて、今年度は、前年度（平成7・8年度）までの研究「個に応じた指導方法に関する研究」で提示された個別指導計画のモデルにそって実践的に個別指導計画を作成し、それぞれの障害に配慮した指導方法の在り方を研究することにした。

2 研究内容・方法

- (1) 校種・障害種別に指導事例を選び、個別指導計画のモデル（4様式）に基づいて個別指導計画を作成し、運用上の諸問題を究明する。
- (2) 個別指導計画に基づいて学習指導案を作成し、それぞれの障害に配慮した指導方法の在り方、特に支援と形成的評価の在り方を究明する。
- (3) 校種・障害種別に研究協力員（18人）を委嘱し、研究協議会を開催して研究を進める。

3 研究の経過

第1回	6月17日(火)	(1)研究概要の説明、(2)個別指導計画作成上の諸問題の検討
第2回	9月9日(火)	(1)講義「個別指導計画に基づく指導について」 講師 成蹊大学助教授 牟田悦子 (2)個別指導計画及び学習指導案の検討
第3回	11月11日(火)	(1)個別指導計画及び学習指導案の改善
第4回	12月4日(木)	(1)研究のまとめと反省 (2)報告書原稿の作成及び検討

第2 個別指導計画の基本的な考え方

1 個に応じた指導における個別指導と集団指導

(1) 個別指導計画の必要性

個に応じた指導は、障害のある子供の教育のねらいを達成するための重要かつ不可欠な手段である。そして、障害等に応じたきめ細かい教育を行うために、1学級当たりの児童生徒数や教職員定数などが特別に配慮されている。

また、文部省の特殊教育に関する改善・充実に関する調査研究協力者会議の第二次報告では障害の重度・重複化、多様化への対応として、「個別の指導計画を作成するなど、個に応じた指導の一層の充実を図る必要がある」という提言がされている。また、教育課程審議会でも同様の中間まとめが出されている。

一方、近年ノーマライゼーションの考え方などが広く深まり、一人一人に適切な教育をということから、保護者の間にも個に応じた指導に対する期待や要求がこれまで以上に高まっている。

このようなことから、個に応じた指導の手だてとして個別指導計画を作成して指導に当たることは、今後ますます必要性が高まると考える。

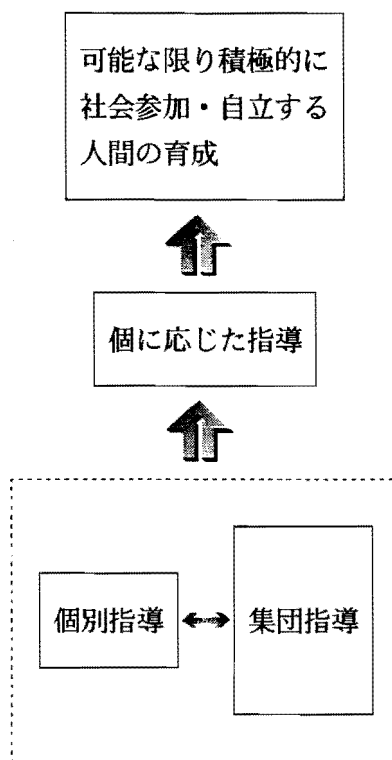
(2) 個別指導と集団指導

個に応じた指導には、個別指導と集団指導（小集団指導や一斉指導の中で個を配慮した指導）の2つの指導の場があると考えられる。

日々の指導では、領域・教科を合わせた指導や教科別、領域別の指導などそれぞれの指導の形態の特色や単元・題材の内容によって指導の場を適宜選択する必要がある。

言い換えれば、集団指導が望ましいものまで改めて、必要以上に個別指導を増やしたりすることはない。

また、個別指導と集団指導のウエイトは、児童生徒の発達段階や課題によっても異なるが、基本的には個別指導よりも集団指導が多くなるものと考えられる。



(3) 教育課程と個別指導計画

個別指導計画は、教育課程における指導の形態別の年間指導計画に基づいて作成されることを原則とする。

また、個別指導計画に基づく指導において重要なことは、児童生徒一人一人の実態やニーズに応

じて指導目標・指導内容・指導方法・評価の方法等を個別化し、個別指導と集団指導の二つの側面から総合的に計画し、指導に当たることである。

2 どこでも、だれでも、長続きするシステム

(1) 個別指導計画のモデル作成の基本方針

個別指導計画のモデル作成の基本方針は、次の3点である。

- 学級・学校種別に応じたモデルを作成する。
- 大きな負担にならずに実践できるものにする。
- 指導場面を学校と家庭とする。

(2) 個別指導計画のモデル

個別指導計画のモデルは、次に示すようにA4サイズ4枚で構成している。

<様式1>

<様式2>

<様式3>

<様式4>

プロフィール

長期個別指導
目標

個別年間指導
計画

短期個別指導
目標・計画・
評価

(3) どこでも、だれでも、長続きするシステム

手続きや様式をできるだけ簡便なものにし、特定の学校や学級でのみ実践できるものではなく、「どこでも、だれでも、長続きするシステム」を目指した。言うなれば、様々なものが揃っている「百貨店型」ではなく、必要なものがそれなりに揃っている「コンビニ型」とした。

3 個別教育計画（IEP）との基本的な違い

(1) 個別教育計画と個別指導計画

アメリカ合衆国における個別教育計画（Individualized Education Program）は、1975年に制定された全障害児教育法（その後改定され現在は個別障害者教育法）において策定が義務づけられている公文書である。そして、計画の作成会議には保護者の参加（本人も可）が保障され、インフォームド・コンセントやアカウンタビリティの考え方に基づく子供の教育についての契約システムとすることができる。また、最少制約環境での教育というノーマライゼーションの考え方に基づくものでもある。

このようなノーマライゼーションやインフォームド・コンセントなどの考え方については、今後我が国においても参考になるところが多いが、社会的背景やニーズ、条件整備等の違いから、個別教育計画ではなく個別指導計画と位置づけた。

第3 個別指導計画の作成と実践に当たって

1 各学校によるアレンジ

(1) 様式などのアレンジ

個別指導計画のモデル作成の基本方針にあるように、「どこでも、だれでも、長続きするシステム」として、各学校で大きな負担にならずに実践できるものを目指した。

従って、モデルとして示した様式1から様式4はあくまでも参考モデルであり、各学校の実態（人的・物的諸条件など）によって、以下に示すように様々にアレンジして取り組むことが望ましい。その際、指導の一貫性や系統性の立場から学校あるいは学部内での大まかな統一を図る必要がある。

<様式1>

プロフィール

○各項目については、加除訂正してもよい。（特に「実態」の欄の領域の内容や数）

<様式2>

長期個別指導
目標

○例えば8領域全部を、あるいは8領域の中から1～数領域を選択して1枚に記入してもよい。

<様式3>

個別年間指導
計画

○8領域全部や選択した1～数領域を1枚に、あるいは1領域各1枚として2～8領域を作成してもよい。

<様式4>

短期個別指導
目標・計画・
評価

○8領域全部や選択した1～数領域を1枚に、あるいは1領域各1枚として2～8領域を作成してもよい。

また、個別指導計画に基づく指導の実践に当たっては、最初から児童生徒全員を対象として取り組むことだけでなく、実践上の諸問題を明らかにし、検討・改善を加えるということから対象とする児童生徒を絞って取り組むことも考えられる。

2 スクラップ&ビルド

(1) 現行システムのスクラップ&ビルド

アメリカ合衆国における個別教育計画（IEP）では、作成に要する時間や経費等に関する問題点が指摘されている。そこで、個別指導計画のモデル作成に当たっては「どこでも、だれでも、長続きするシステム」を目指し、手続きや書式をできるだけ簡便なものとした。しかしながら、現在の様々なシステム（教育活動）に加えてこのシステム（個別指導計画）を導入すると負担増が予想される。そこで、運用に当たっては現行システム（教育活動）を整理・統合する中で、新しいシステムを導入するというスクラップ&ビルドの発想が必要であると考えられる。そして、具体的に何をどうスクラップ&ビルドするかは、各学校の実態に即した創意工夫に委ねられる。

次に示すものは、そのための観点の具体例である。

(2) 書類作成と個別指導計画

学級経営案

通知票

ケース会議

教育相談（個別面談）

これらの書類等と個別指導計画の様式1～4との関連（リンク）を図ることで、事務処理に要する時間の削減を工夫する。

(3) 会議等と個別指導計画

日々の教育活動の中で、学習指導や校務分掌等の共通理解、連絡調整のための会議の削減及び短縮等の検討を行う中で、個別指導計画の作成や見直しのための時間を生み出す工夫をする。

3 学習指導案と個別指導計画

(1) 支援と形成的評価

個別指導計画は、児童生徒一人一人の実態やニーズに即して、指導目標・内容・方法・評価等を個別化し、個別指導や集団指導の場で指導に当たることである。言うなれば、一人一人の指導（支援）を最適化することであり、そのためには指導（支援）と評価（形成的評価）の一体化を図る必要がある。

支援は、その量を減らして質を高めることが重要であると共に、形成的評価は、客観的な評価基準や方法、対象を明確にすることが重要であると考えられる。

第4 個別指導計画による指導の実際

1 精神薄弱特殊学級

(1) 作成マニュアル

ア 個別指導計画について

① プロフィール

(様式1)

- ・標準化された各種検査のデータから情報を得て考察する。
- ・本人や保護者の願いは、アンケートや面接を行い記入する。
- ・現在の様子は保護者や交流学級の担任と情報交換をして記入する。
- ・領域のコミュニケーションは要求の伝達・指示理解・挨拶などを取り上げ、社会性は集団での課題参加・移動・交流などを取り上げる。

② 長期個別指導目標

(様式2)

- ・プロフィールをもとに子どもの将来について見通しを考えながら、今年度中に達成可能と思われる目標を領域別に設定する。
- ・発達的に弱い面を改善する目標ばかりでなく、今備えている力をさらに発揮できる目標を検討して、指導目標と指導の場を決定する。

③ 個別年間指導計画

(様式3)

- ・指導目標の優先順位に従って、指導期間と指導の場を領域別に設定する。
- ・学習する課題をスモールステップ化する。

④ 短期個別指導目標 ・計画・評価

(様式4)

- ・長期個別指導目標と個別年間指導計画から教科、領域ごとの1学期間の指導目標と指導計画を作成する。
- ・学期の終わりには、児童・生徒の実態から指導計画の見直しをする。

イ 学習指導案について

- (ア) 単元設定の理由の中で、プロフィールや短期個別指導目標について触れる。
- (イ) 短期個別指導目標を受けて単元の中でも個別指導目標を立てることによって、個に応じた指導が明確になってくる。
- (ウ) 学習指導案の中にも、発達的に落ち込んでいる部分を伸ばす工夫や障害を補う工夫ばかりではなく、子供のよさや可能性を伸ばす工夫も書くようにする。
- (エ) 支援は、子供の主体性を大事にした表現として「励ます」「言葉かけをする」「促す」などの言葉を使い、「…させる」という表現はできるだけ避けるようにする。
- (オ) 評価は全体と個別について行い、評価の観点と方法を明確にして記録方法などを工夫する。

(2) 対人関係を広めたい児童（小学校第6学年）の事例

ア 実践の概要

(ア)指導計画を作成するにあたって

- 本児のプロフィール作成にあたっては、交流学級の担任、保護者、特殊学級担任それぞれの立場から情報を出し合い、総合的に実態把握ができるようにした。
- 長期個別指導目標を設定するにあたっては、コミュニケーション能力と社会性を高めることを課題として目標を設定した。本児は、相手を考えずに一方的なかかわり方をすることから、対人関係がうまく行かなかったり、周囲への意識の低さや関心のもち方の偏りなどから集団適応がスムーズでなかったりという状態である。このような実態から対人関係を円滑にするための手段を学び、それらを集団の中で生かすことで集団適応が改善されるものと考えた。
- 個別年間指導計画、短期個別指導目標・計画を立てるにあたっては、まず、本児ができることと支援すればできること、なぜ改善しなければならないことの3つの視点から分け、具体的な目標を年間を見通して立てた。1学期には、「声かけをしたら」、「教師と一緒に」、2学期は達成状況をみながら「自分から」とか「進んで」などの表現で、段階的な目標・計画になるように配慮した。

(イ)実践にあたって ----- 学習指導案の作成

- 本児が、興味を示したすごろくを生活単元学習の中で取り上げ、ルールや順番を守ったり、順位を意識したりすることでゲームを楽しみながら、友達とのかかわり方を身に付ける事をねらいとして単元の個別目標を設定した。
- 小集団での対人関係作りのために交流学級の児童との交流を指導計画に位置付けた。
- 本児がすごろくの作り方や遊び方、ルールなどを理解できるように、順番の決め方、コマの進め方、コースの選び方など遊びの具体的な内容については、個別で指導し、できる状況を作り、集団の中で生かせるようにした。
- 支援については、できなかった時の支援の仕方としてすぐに声掛けや援助をするのではなく、しばらく待って周りの様子から気付かせるようにし、できるだけ自力でできるような支援を心掛けた。また、できた時には、みんなで拍手や声援を送ることにより、周囲に意識が向けられるよう配慮した。

(ウ)まとめと今後の課題

- プロフィールを作成するにあたり、児童を多面的に見ることができ、実態や課題がより明確になった。
- 学期毎、年度毎に加筆・修正して引き継いでいくことにより、情報が共有でき、連続的に一貫した指導ができる。
- 個別指導計画を作成するにあたり、全職員共通理解の基に学校全体として取り組めるような体制作りの必要性を感じる。また、個別指導計画は教師側からの一方的なものであってはならないと思う。保護者の教育への参加という面から、保護者と教師のかかわり方はどうあるべきかを考えていきたい。

プロフィール

(様式1)

記入者		〇〇 〇〇	記入日	平成9年〇 月〇 日	
氏名	〇〇 〇〇	学年	小学6年	生年月日	昭和60年〇月〇日(11歳)
保護者名	〇〇 〇〇	住所	〇〇郡〇〇村〇〇〇	電話	〇〇-〇〇〇〇
現在の心身の状況 肥満傾向にある。 情緒が不安定になり、こだわりが強くなることもある。			各種検査 田中ビネー知能検査 IQ(71) SM社会生活能力検査 SQ(54)		
家庭状況 父(〇〇〇)母(〇〇〇) 弟(小6双子)祖父祖母			生育歴・教育歴 H3年4月~H4年3月 〇〇幼稚園在園 H4年4月〇〇小学校入学 H7年4月〇〇小学校特殊学級入級		
本人の願い 飛行機が大好きで、パイロットか飛行機にかかわる仕事をしたい。			保護者の願い 落ち着いて人の話を聞けるようにしたい。		
領域	現在の様子				
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの整理・整頓ができない。 時間に合わせた行動ができず、遅れがちである。 				
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶されても、すぐに挨拶が返せないことがある。 会話はできるが、内容が断片的であったり、話題が急に変わったりする。 気になる事があると、分かっているにもかかわらず何度も同じ事を聞くことがある。 				
教科	<ul style="list-style-type: none"> 2年生程度の漢字が読め、簡単なものは自分から書こうとする。 簡単な文章は読めるが、発音がはっきりせず、内容の理解も不十分である。 買い物はできるが、おつりが出る場合のお金の出し方で戸惑うことがある。 				
社会性	<ul style="list-style-type: none"> 遊びのルールが分からないため、友達と一緒に遊ぼうとしない。 友達や教師の支援を受けながら、集団での課題に取り組むことができる。 集会や行事などに参加できる。 				
運動	<ul style="list-style-type: none"> ジョギングを毎日続けている。 縄跳び、鉄棒など、励ますと一生懸命に取り組む。 ゲーム的な運動は、ルールは分からないが、支援をすれば参加する。 				
作業	<ul style="list-style-type: none"> 手先が器用で、切ったり貼ったりすることは丁寧にできる。 清掃は、雑巾かけがきちんとできる。 作業中に他のことに気を取られて中断してしまうことがある。 				
余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> 家族でゲームセンターに行ったり旅行をしたりしている。 スイミングスクールに通っている。 CDを聞くことが好きである。 				
家庭の様子 子どもにいろいろな体験をさせている。 熱心に子どもを理解しようとしている。			配慮事項 強い興奮状態の時は、気持ちが治まるのを待って静かに話してやると理解できる。		

平成 9 年度 長期個別指導目標

(様式 2)

6 年	氏 名	○○ ○○	作成者	○○ ○○	作成日	平成 9 年 ○ 月 ○ 日
領 域	指 導 目 標					場
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムに合わせた学校生活を送ることができる。 ・授業の準備や後始末，机の中や周囲の整理，整とんができる。 					学 校 学校・家庭
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から，元気に挨拶することができる。 ・相手の方を見て最後まで話をしたり聞いたりすることができる。 ・昨日の事を一まとまりの話として，順序よく話すことができる。 ・指示された事が分かり，行動することができる。 					学校・家庭 学校・家庭 学校・家庭 学校・家庭
教 科	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な物語を，聞き手を意識して音読することができる。 ・経験したことを順序よく簡単な文章に表すことができる。 ・身近な物の値段が分かり，一人で買い物をするすることができる。 ・簡単な計算や計量の仕方が分かり生活の中で使うことができる。 					学校・家庭 学校・家庭 学校・家庭 学校・家庭
社 会 性	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に，ルールを守って遊んだり簡単なゲームをすることができる。 ・集団の中で自分の役割が分かり，それを果たすことができる。 ・集団の流れに沿って，みんなと一緒に行動できる。 					学校・家庭 学 校 学 校
運 動	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールのゲームや運動ができる。 ・目標に向かって，持久走や縄跳びの練習をすることができる。 					学 校 学 校
作 業	<ul style="list-style-type: none"> ・話をよく聞いて作業に取り掛かり，最後まで飽きずに続けることができる。 ・場所に応じた掃除の仕方ができる。 ・バザーの準備作業に進んで取り組むことができる。 					学 校 学 校 学 校
余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びやゲームのルールを知り，友達と仲よく遊ぶことができる。 ・自分で好きな本やCDを選んで読んだり聞いたりすることができる。 ・外出した時，親に頼らず，自分の意志で行動することができる。 					学 校 学校・家庭 家 庭

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

6年 領域	氏名○○ ○○	作成者	○○ ○○	作成日	平成9年○月○日	場							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日常生活	← 時間割を確かめる(朝の会) →				← チャイムを聞いて行動する。自分で移動する →				学校				
	← 指示を聞いて学習の準備や後始末をする 教師と一緒に机の中を整理する(日常) →				← 休み時間に学習の準備・後始末をする 帰りの支度をする時、机の中を整理する(帰りの会) →				学校				
コミュニケーション	← 元気に挨拶を返す(生活全般) →				← 朝・帰りの挨拶をする →				← 丁寧な言葉遣いをする →				学校 家庭
	← 話しかけられた相手を見る(生活全般) →				← グループの中で話し手を見て話を聞く →				← 大きな集団で話し手に注目して聞く →				学校
	← 教師と昨日の事を話す(朝の会) →				← いつ・だれと・どこで・何をしたかを話す(国語) →				← 昨日の事を順序よく話す(朝の会) →				学校
	← 交流学級の先生の伝言を伝える(生活全般) →				← 指示通りに行動する →								学校
教科	← 簡単な物語を劇にする 体験したことを書く(国語) →				← 音読の練習をする 出来事を順序よく書く →				← 文集の原稿を書く →				学校
	← 指示された金額を出す(算数) 計算の練習をする →				← 買い物ごっこでおつりのやりとりをする 長さ・量・重さを量る →				← 一人で買い物をする(生活単元) 生活場面で使う →				学校 家庭
社会性	← トランプの遊び方を覚える →				← トランプやすごろくで遊ぶ →				← 大縄跳びをする →				学校 家庭
	← 集会で自分の場所に一人で並ぶ →				← 運動や宿泊学習でみんなと一緒に行動する(行事) →				← 卒業関係の行事に参加する →				学校
	← 中学生とカレー作りをする →				← 中学校で交流会をする →				← バザー(作業・生単) →				学校
運動	← 毎日、ジョギングをする →				← 村民マラソン参加 →								学校 家庭 学校
	← 手つなぎ鬼やサッカーをする →				← 自分からボールを追いかけて蹴る(体育) →								学校
作業	← 陸上記録会で100mに出場 →				← 運動会の種目を練習する →				← 縄跳び検定に挑戦 →				学校
	← 農園にいもや野菜を育てる(種蒔き、草取り、収穫、切り干し大根作り、バザー) 教師と一緒に清掃をする →				← 自分から清掃場所に行き、分担箇所を掃除する →								学校 学校
余暇活動	← プレーヤーの操作を覚え、CDを聞く →				← 好きな本を読む →				← CDを聞いて歌う →				家庭
	← 休み時間や放課後、友達とゲームや運動をして遊ぶ(休み時間) →												学校

()は主たる指導の形態

平成9年度第2学期短期個別指導目標・計画・評価

(様式4)

学年 6 年		作成者	作成日	平成 9 年 ○ 月 ○ 日	
氏名○○ ○○		評価者	記入日	平成 9 年 ○ 月 ○ 日	
領 域	指 導 目 標	指 導 計 画	評 価		場
			達成状況	備 考	
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割を確かめ、チャイムの合図で行動できる。 ・授業毎に、学習の準備と後片付けができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に時間割をはり、チャイムの合図で行動できたらシールをはる。 ・休み時間に準備をし、学習が終わったら、きちんと片付ける。 			学校 学校
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て、はっきりと挨拶ができる。 ・伝言ができたり、指示通りに行動できる。 ・丁寧な言葉遣いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や交流学級の先生に自分から挨拶する。 ・先生方や保護者に担任の話を伝える。 ・「～です。」「～ですか。」の言い方で話す。 			学校 学校 家庭 学校
教科	<ul style="list-style-type: none"> ・音読発表会で紙芝居の発表ができる。 ・日記や行事の作文を書くことができる。 ・買い物でお釣りをもらう金額の出し方ができる。 ・量についての単位を知り、量り方ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少し長めの文章を大きな声ではっきり音読する。 ・やったことを順序よく書く。 ・実際に買い物をしてお釣りをもらう金額で支払う。 ・ものさしやはかりの使い方を練習する。 			学校 学校 家庭 学校 家庭
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なゲームや遊びのルールが分かり、友達と楽しく遊ぶことができる。 ・学校行事にみんなと一緒に参加できる。 ・中学校との交流会に喜んで参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級の友達と一緒に遊ぶ機会をもつ。 ・運動会や宿泊学習でみんなと一緒に行動する。 ・ナシ狩り、文化祭見学、陶器作りなどの合同学習に進んで参加する。 			学校 家庭 学校 学校
運動	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のジョギングが自分からできる。 ・サッカーをみんなと一緒にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばりカードにシールをはる。 ・攻める方に走ったり、ボールを蹴ったりする。 			学校 家庭 学校
作業	<ul style="list-style-type: none"> ・大根の種蒔きやとうもろこしの収穫ができる。 ・ほうきの使い方がきちんとできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種蒔きや収穫を最後までやりとげる。 ・場所に合ったはき方を練習する。 			学校 学校
余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に外で遊ぶことができる。 ・室内での遊びができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこで何をして遊ぶか決めて遊ぶ。 ・トランプやすごろくなどのゲームをする。 			学校 学校 家庭

達成状況は、◎(十分達成) ○(ほぼ達成) △(達成不十分)で記入。達成不十分の場合は、状況などを備考欄に記入する。

第6学年3組 生活単元学習学習指導案（交流学級と一部交流）

指導期日・時間 ○月○日○校時
指導場所 6年3組教室
指導者 ○○ ○○

1 単元 すごろく大会をしよう

2 単元設定の理由

本学級は、6年男子（双子の兄弟）2人と、体験入級という形で通級している2年男子1人の計3人の構成である。そのうち、6年の男子2人は自閉的傾向があり、友だちとの会話がうまくできないことや、遊びやゲームのルールが分からないなどからあまり友だちと遊ぶとしない。また、集団で課題に取り組むにあたっては、依頼心が強く自ら行動するという事が少なく、コミュニケーションや社会性の面で課題をもっている。2年の男子は、学力面での遅れはあるが、明るく素直で、友だち関係や集団のかかわりにおいては特に問題はない。

このような実態を踏まえ、交流学級の児童との交流を取り入れた生活単元学習を展開し、6年の男子が喜んで遊んだすごろくを取り入れることにした。友だちと一緒にすごろくを作ったり、遊んだりすることを通して、ルールに従ってゲームをしたり、自分の役割を果たしながら集団で楽しく遊んだりすることによって、コミュニケーション能力や社会性を高めていきたいと考え、この単元を設定した。

3 目標

(1) 全体目標

- 見通しをもって計画や準備に当たり、できるだけ自分たちの力ですごろく大会をすることができる。
- 遊び方やルールを知り、自分の役割を果たしながら、友だちと仲よくすごろく大会をすることができる。
- 友だちとすごろくを作ったり遊んだりしながら、集団の遊びの楽しさを味わうことができる。

(2) 個別目標

氏名	短期個別指導目標	単元における個別指導目標
A	ゲームや遊びに進んで参加し、いろいろな友だちと仲よく遊ぶことができる。	ルールを守り、友だちと仲よくゲームをすることができる。
B	簡単なゲームの方法やルールが分かり、友だちと楽しく遊ぶことができる。	すごろくのやり方やルールを知り、自ら進んでゲームに参加することができる。
C	簡単なゲームの方法やルールが分かり、友だちと楽しく遊ぶことができる。	すごろくのやり方やルールを知り、順位を意識してゲームをすることができる。

4 指導計画（18時間取り扱い）

段階	次時数	学習内容・活動
計画	第1次	○すごろく遊びをして、やり方やルールを覚える。(2) (休み時間・放課後) ○すごろく大会について、話し合う。(1)
	第2次	
	第3次	
準備	第1次	○すごろく作りをする。(6) (交流学級の児童と一緒に) ・すごろく ・さいころ ・成績表 ○招待状を作る。(1) ○買い物をする。(2) ・おやつ ・商品
	第2次	
	第3次	
実践	第1次	○会場作りをする。(1) ・ゲームの用意 ・商品の準備 ・飾りつけ ○リハーサルをする。(1) ○すごろく大会をする。(1) (交流学級の児童と一緒に) (本時)
	第2次	
	第3次	
反省	第1次	○すごろく大会をふり返る。(1) ・楽しかったこと ・自己評価カード ○すごろく大会のまとめをする。(2) ・写真 ・絵 ・作文
	第2次	
	第3次	

5 児童の実態

氏名	性別	実態
A	男	・ゲームは大好きで、どんなゲームにも喜んで取り組むが、文字への抵抗があるので支援が必要になることがある。 ・自分の役割を理解し、一生懸命にやろうとする。
B	男	・ゲームの順位とか勝敗にあまり関心がなく、友だちに頼りがちで、積極的に取り組むことは少ない。 ・繰り返し練習することで、自分の役割を一人で果たすことができる。
C	男	・ゲームはやろうとするが、やり方やルールが分からないため、途中で飽きてしまうことがある。 ・言葉掛けが必要になることもあるが、何度も練習することで、自分の役割を果たすことができる。

6 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標 ゲームをする順番やルールを守ったり、自分の役割を果たしたりしながら、友だちと楽しくすごろく大会をすることができる。

イ 個別目標

A	・できるだけ自分の力で文字を読み、こまを動かすことができる。 ・始めの言葉や終わりの言葉が、一人ではっきりと言える。
B	・順位を意識し、友だちに頼らず自分でこまを動かしながら、ゲームをすることができる。 ・成績発表や終わりの言葉が、はっきりと大きな声で言える。
C	・自分のこまの位置や順位に関心を持ち、約束を守ってゲームをすることができる。 ・司会の役をできるだけ支援を受けずに、最後までやり遂げることができる。

(2) 展開

学習内容・活動	支 援 と 評 価	
	全 体	個 別
1 本時の学習について話し合う。 内容・順序を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> プログラムや成績表を黒板にはり、見通しがもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> Cにはマイクを持たせ、司会の役が最後までできるように励ます。
2 開会式をする。 (1) 始めの言葉 (A) (2) めあて(全員) やくそくを守って、楽しいすご ろく大会にしよう。 (3) やくそく (A, B, C) (4) 賞品の説明 (5) 終わりの言葉 (B)	<ul style="list-style-type: none"> 各々の役割が、きちんと果たせるように励ます。 3つの約束のカードを用意しておき、目当てが具体的に分かるようにしておく。 賞品を前面に並べて置き、ゲームへの意欲を高める。 <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 開会式で、自分の役割が最後まできちんと果たせたか。(行動観察) A…始めの言葉が、大きな声で最後まで言えたか。 B…終わりの言葉が、一人ではっきりと言えたか。 C…プログラムを見ながら、司会が一人でできたか。 <ul style="list-style-type: none"> 各々の役割が果たせた時はみんなで拍手をしてほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に十分練習しておき、できるだけ一人でできるように見守る。 3人が約束のカードを1枚ずつ読むことにより、目当てについての意識を高める。 各自、どの賞品が欲しいかを決めてからゲームに入るようにする。 A, Bがすぐに言葉が出ない場合はしばらく待ち、様子を見て、声掛けをする。 Cが司会でつまづいているときは、プログラムで確かめるよう助言する。
3 すごろくゲームをする。 Bチーム (B, A, 6の2児童3名) 「ビクトリすごろく」 Cチーム (C, 6の1児童4名) 「ANAすごろく」	<ul style="list-style-type: none"> H, Tは同じ学級の児童と一緒にできるようにチームを配慮する。 ゲームの順番はじゃんけんで決め、成績表に名前を書き込むようにする。 ゴールした友だちには、みんなで拍手を送るように約束しておく。 <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 順番やルールを守って、楽しくすごろくゲームができたか。(行動観察) A…できるだけ、自分の力で文字を読んでこまを動かすことができたか。 B…自分の順位が分かり、ゴールに向かって自分でこまを動かせたか。 C…自分や友だちのこまの位置に関心を持ち最後までゲームができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> B, Cには、自分の順番を確認する意味で成績表に名前を書く役割を与える。 Aがすごろくに書いてある文字が読めない時は、周りの児童が教えてあげるようにし、簡単な文は自力で読めるよう励ます。 B, Cにはゴールの順番が後になっても、最後まで頑張るように励ます。また、早くゴールした時は、友だちのをよく見て応援するように助言する。 順番ややり方を間違えたときには、きちんとやり直しをさせ、ルールを守ってゲームができるように促す。 Aが文字が読めない時は、一緒に読んでやる。 B, Cには、賞品やこまの位置を話題にして順位を意識付ける。 ゲームが楽しくできたことをほめ、最後まで役割が果たせるよう励ます。 Cが司会を忘れていたような時は、声を掛けて促す。 A, Bには終わりの言葉が大きな声ではっきり言えるように励ます。
4 開会式をする。 (1) 成績発表と賞品の授与 (2) 交流学級の先生の話 (3) 終わりの言葉 (A, B)	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に拍手を送り、楽しくゲームができたことを喜び合う。 すごろく大会についての感想を話してもらい、約束を守って、楽しくできたことをほめてもらう。 <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 閉会式での役割が最後まできちんとやり通せたか。(行動観察) A, B…終わりの言葉が大きな声で最後まで言えたか。 C…司会を一人でできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> A, Bが終わりの言葉をはっきり言えた時は拍手をしてほめる。 Cが司会の役をやり返したことをみんなに知らせ、頑張りを認める。 友達に任せてしまっているような時は、声をかけ、友達の様子を見てどうしたらいいのか考えさせてから行動を促す。
5 後片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に拍手を贈り、できたことを認めるようにする。 役割を忘れてしまっているときは、声を掛けて行動を促す。 グループ毎に協力してできるようにする。 自分から後片付けをしている児童を取り上げて大いにほめる。 <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 後片付けが、友達と協力して最後まできれいにできたか。(行動観察) A…自分から進んで後片付けができたか。 B, C…友達の様子を見て後片付けに取り掛かり、最後までできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> Aが後片付けをしていることをほめ、B, Cにも行動を促す。
6 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 3つの約束について振り返り、楽しかったことを発表したり、賞品を見せ合ったりしながら、友達と遊ぶ事の楽しさを味わわせる パネル作りをしているいろいろな友達とすごろく遊びができることを話し、次時への意欲につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が約束を守り、自分の役割をしっかりと果たせたことを十分に称賛する。
7 次時の課題を知る。 すごろく大会のことをパネルに してみんなに知らせよう。		<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に「なかよしクラブ」のカードを作り、1ゲーム毎にシールを貼っていくことを知らせ、意欲を高める。

(3) 物事を最後までやり抜く力を育てたい生徒（中学校第3学年）の事例

ア 実践の概要

(ア) 指導計画を作成するにあたって

- まず長期個別指導目標を作成するにあたっては、本児を、この1年間指導する上で、どのような点で配慮していけばよいのかという観点から行った。本児の話によると何をするにも自信がなく、現在までいろいろなことから逃避し、出来るだけ何もやらずにすませてきたと言う。このような生徒が少しでも自分自身に自信をもつことができ、楽しい思い出と共に巣立つことができれば、と考えた。また欲ばらないよう気を付けながら目標を考えた。今できないものを、少しずつ出来るようになれるような課題を設けた。
- 個別年間指導計画・短期個別指導目標・計画・評価については、1年間の学習内容を考え、本児の検査結果などを見直しながらか立ててみた。特に作業については、一つのことを、始めたら最後までやり通すことを念頭においた。このようにして作成した計画であるが、1学期が終わり、評価をし、反省したとき、訂正せざるえないものも出てきた。

(イ) 実践にあたって ----- 学習指導案の作成

- 個別指導計画に基づいて学習指導案を作成するにあたって、作業学習を取り上げた。作業学習を取り上げた理由は、一つ一つの進捗、結果がはっきり見えるので、本人にとっても、指導者にとっても目標を達成しやすく、また社会での自立という事を考えた時、作業活動を中心とする実際的な経験が必要であると思われるからである。
- 作業内容としては、電動糸のこを使って、パズルを作ることにした。電動糸のこは、前年の作業の折にも使っているもので、安心して使うことができ、最後までやり抜くこともできるだろうと考えた。
- 1学期の作業学習では農耕・園芸・調理・リサイクルによる紙工などを行い、いずれの時も最後まで行うことを中心課題としてきた。その過程の中で時間がかかってしまったこともあったが、励ましながらか活動することで、仕上げまで行うことができた。

(ウ) まとめと今後の課題

- 今年度、個別指導計画を作成してみて、最もよかったと思われる点は、生徒の実態が的確に把握できた点である。そしてどんな面で力がついていて、どんな面が力不足かも見えてくるので、課題設定がしやすかった。
- 今まで思いが及ばなかった「余暇活動」では、本児の好きな歌の歌詞をワープロで打つ学習を生活単元学習の中で行い、意欲的に行うことができた。
- この個別指導計画という書式があることによって、担当者が変わる時の引き継ぎや他の指導者に理解してもらう上でたいへんよい資料となると思った。
- 今後の課題としては、学校内で取り組む課題等は、比較的取り組み易かったが、家庭との連携を取りながら指導していかなければ改善されないものもあり、家庭との連携の取り方を考えていかなければならない。

プロフィール

記入者		〇〇	〇〇	記入日	平成9年 〇月 〇日	
氏名	〇〇 〇〇	学年	中学3年	生年月日	昭和57年 〇月〇〇日(14才)	
保護者氏名	〇〇 〇〇	住所	〇〇郡〇〇町〇〇〇		電話	〇〇-〇〇〇〇
現在の心身の状況 精神薄弱 コミュニケーションをとりにくい。 独り言を言っていることがある。			各種検査 田中ビネー知能検査 IQ(58) SM社会生活能力検査 SQ(47)			
家庭状況 父() ・別の棟に 兄() 義姉() 姪			生育歴・教育歴 幼稚園には通わなかった。 H元年4月, 〇〇小学校入学 H6年4月, 〇小特殊学級入級 H7年4月, 〇〇〇〇中入学, 特殊学級入級			
本人の願い 中学校卒業後は, 養護学校高等部に行きたい。			保護者の願い 本人にあった適切な進路決定を考えたい。			
領域	現在の様子					
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムが鳴って, しばらくしてから教室移動ができる。 ・休み時間などは, 校庭を見たり, 花壇を見たりしながら, 一人で過ごしている。 ・そうじの時間は教師に声を掛けられ, 付いていると言われた事はやる。 					
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に話しかけられれば多少の返事はするが, 自分から話し掛けたりはしない。 ・質問に答えることができ, 敬語で返答することができる。 ・テレビのアニメなどの話はするが, 自分のことは話したがない。 					
教科	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が丁寧で上手に書けるし, 難しい漢字がなければ文章を読むこともできる。 ・たし算やかけ算はゆっくりではあるが, 間違わずにできる。 ・英語の学習に積極的である。 					
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・集団参加能力・意志交換能力が不十分である。 ・交流学級の友達と共に活動することが難しい。 ・買い物などはできる。 					
運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム的な内容になると, 徐々にその場から離れてしまう。 ・走る練習などでは, 皆がやっても, 疲れるとやめてしまう。 					
作業	<ul style="list-style-type: none"> ・糸のこや鋸をゆっくりではあるが, 上手に使える。 ・畑を耕したり, 草花や野菜を植えたり, 途中休みながら作業することができる。 ・作業に取り掛かるまでに時間がかかる。 					
余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後, 花に水をやったり, ベランダなどに座ってゆっくりとしている。 ・テレビのアニメやお笑い番組を見るのが好きである。 					
家庭の様子 家庭でもあまり話さない様子である。 放任的である。			配慮事項 母親がいないので, 身の回りのことなどへの気配りをする。			

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

3年	氏名	〇〇 〇〇	作成者	〇〇 〇〇	作成日	平成9年 〇月 〇日
領域	指導目標					場
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の準備や教室移動が自発的にできる。 ・掃除の時間に、自分から取り掛かることができる。 					学校 学校
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人々に声を掛けられた時、適切な受け答えができる。 ・アニメ以外の話にも耳を傾けたり、話したりすることができる。 					学校 学校
教科	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み、感想を言うことができる。 ・簡単な計算を暗算で解くことができる。(お金の計算) ・簡単な文章問題を解くことができる。 					学校 学校
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級での授業時間に遅れず行くことができる。 ・友達と共に行動ができる。 					学校 学校
運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ムカデ競争やサッカーなどでその場から離れずに参加することができる。 ・卓球を楽しく行い、汗をかくぐらい体を動かすことができる。 					学校 学校
作業	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から作業に取り掛かることができる。 ・一定時間、作業を続けられる。 ・一つの作業を最後までやり抜くことができる。 					学校 学校
余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな本を自分で選んで、読むことができる。 ・カセットテープやCDを自分で操作して聴くことができる。 					雑誌 雑誌

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

3年	氏名		作成者		作成日		平成9年			場		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月
日常生活	授業の準備を休む時間にする。				予定表を見て教室移動できる。							学校
	掃除の場所に自分で来ることができる。(清掃)				掃除にきて、教師の指示で掃除にとりかかる。 (清掃)				自発的に掃除にとりかかる。 (清掃)			学校
コミュニケーション	挨拶ができる。(生活全般)				話しかけられたら、返事ができる。(生活全般)							学校
	アニメの話や糸口にいろいろな話をする。 (生活全般)				アニメ以外の話も楽しく話す。(生活全般)							学校
教科	文章を読んで質問に答える。(国語)				登場人物の気持ちを考える。(国語)				感想文を書くことができる (国語)			学校
	お金の計算ができる。(数学)				簡単な計算を暗算する。 時刻と時間の関係がわかる。(数学)				文章問題が解ける (数学)			学校
社会性	指示されて、交流学級へ行く。				チャイムと共に教室へ入る。							学校
	学校行事などで友達と行動がとれる。 :(生活単元・行事)				合同学習で友達と話をしたり、行動できる。いろいろな場で友達と楽しく過ごす 文化祭に楽しく参加できる。(生活単元・行事)				ことができる。			学校
運動	スポーツテストの練習に参加し、記録を取る。(体育)		体育祭に皆と協力して参加することができる。(体育)		柔道の学習に取り組むことができる。(体育)		皆のそばで運動に取り組むことができる。(体育)			学校		
	楽しく卓球をする (生活単元・休み時間)											学校
作業	教師と共に作業をする。 (畑を耕し、種をまき、苗を植える) (ベニヤ板に絵を描く) (リサイクル工作) (調理) (作業)				自分の分担の仕事をもって行う。 (収穫し、それを調理する) (畑を耕し、次の野菜を作る) (焼き板・ジグソーパズル作り) (廃油のリサイクル) (調理) (作業)							学校
	CDラジカセの操作を覚え、音楽を聴く。 (生活単元)				カセットテープに録音ができる。 (生活単元)				一人で操作し、音楽を聴く。 (生活単元)			学校 家庭
余暇活動												学校 家庭
	図書館や本屋に行き、好きな本を選び、それを学校や家で読む。(生活単元)											学校 家庭

() は主たる指導の形態

平成9年度第1学期 短期個別指導目標・計画・評価

(様式4)

学年	中学3年	作成者	〇〇 〇〇	作成日	平成 9年 〇月 〇日
氏名	〇〇 〇〇	評価者	〇〇 〇〇	記入日	平成 9年 〇月 〇日
領域	指導目標	指導計画	評価		場
			達成状況	備考	
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> 授業の準備を休み時間にできる。 掃除の場所に自分で行く事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の言葉掛けで次の授業の準備をし、教室移動をする。 そうじをさぼらずやるように教室掃除に固定する。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 授業の準備がまだできない。 時々そうじをさぼることもあった。 	学校
			△		学校
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の人々にあいさつをすることができる。 アニメの話から他の話に発展させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をされたら挨拶を返す。 自分から挨拶をする。 大好きなことから話し始め、他のことへも話が広がる。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> まだ定着しない。 	学校
			△ ○		学校
教科	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んでその内容をとらえることができる。 千・万円など大きな金額の計算ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 物語や簡単な説明文を読む。 内容についての質問に答える。 模擬貨幣を用いて大きな数のお金を数える。 	◎		学校
			○ ○		学校
社会性	<ul style="list-style-type: none"> 時間割を意識させ、遅れないように交流学級に行ける。 行事に友達と楽しく参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の予定を話し、時間割を意識する。 言葉掛けをし、遅れないようにする。 友達と共に行動をする。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> チャイムが鳴ってから行動することが多かった。 	学校
			△		学校
運動	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストの練習ができ、記録をとることができる。 卓球を楽しく行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストの種目の練習をする。 記録をとる。 壁打ちをする。 続けて打ち合う。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 練習時は、その場からだんだん離れがちになってしまった。 一人で練習することはなかった。 	学校
			◎ △ ○		学校
作業	<ul style="list-style-type: none"> 教師に支援されながら作業を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明を聞き、畑を耕し苗を植える。 板を切り、ペンキを塗り、絵を描く。 繰り返し行う。 (調理・工作) 	○	<ul style="list-style-type: none"> 板を切り、ペンキを塗ることは、よくできたが、絵はなかなか進まなかった。 	学校
			△ ○		
余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に親しむことができる。 好きな本を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> CDラジカセの操作を覚える。 好きな曲を聴く。 図書館や本屋に行き、好きな本を選ぶ。 	◎		学校
			○ △		家庭
					学校
					家庭

達成状況は◎（十分達成）○（ほぼ達成）△（達成不十分）の記号で記入。達成不十分な場合は備考欄に。

第3学年4組 作業学習指導案

指導期日・時間 ○月○日 ○・○校時
 指導場所 3年4組教室
 指導者 ○○ ○○

1 単元 木工 パズルを作ろう

2 単元設定の理由

電動糸のこを使い、木のパズルを作るには、目と手の協応動作が必要とされる。切っている最中は刃の動きと切ろうとする線から目が離せない。その集中した動作の中からでなければ作品は生まれてはこない。このような特性をもつ道具なので、集中力をつけるには打ってつけのものである。そして電動糸のこさえ使うことができるようになるれば作ることもできるので、取り組みやすい教材でもある。また本生徒は、電動糸のこや鋸を使うことを得意としているので、制作に対しても自主的に取り組めるものと考えられる。

さらに出来上がった作品については、文化祭や手をつなぐ子らの作品展に出品したり、卒業に際しては、お世話になった方々へプレゼントしたりしたいと考えている。
 以上のような一連の作業を通して、集中して一つのことをやり遂げることの満足感を味わうと共に、作品として展示することや、他の人々に使っていただくことにより、自信にもつながるのでと考へ、本単元を設定した。

3 目標

(1) 全体目標

- パズルを作ることを通して、意欲的に作業に取り組み、成就感を味わうことができる。
- いろいろな種類の動物のパズルを、工夫し楽しく作ることができる。
- 繰り返し実習を重ねることで作業に慣れ、自信をもち、進んで作業しようとする態度を身に付けることができる。
- 安全面、身支度、準備や後始末など、作業をするときの基本的な生活習慣を身に付けることができる。

(2) 個別目標

氏名	短期個別指導目標	単元における個別指導目標
A 男	教師に支援されながら、作業を行うことができる。	パズル作りを自ら始められると共に、作業を集中して行うことができる。

4 指導計画 (37時間扱い)

段階	次	学習内容・活動
計画	第1次 (2)	○木のパズル作りの計画を立てよう。 ・作業工程を知り、制作意欲をもつ。(1) ・学習計画を立て、見通しがつけられる。(1)
準備	第2次 (1)	○木のパズル作りの準備をしよう。 ・どんな材料を使えば適切かを調べ、材料を用意する。 ・制作に必要な用具を知り、準備をする。 } (1)
実践	第3次 (24)	○木のパズル作りをしよう。 ・わく板と底板を寸法通りに切る。(1) ・わく板にコピーした図柄をはり、線上を切り抜き、底板をつける。(2) (本時) ・ブロック用の板に図柄を写し、各ブロックを切り抜く。(3) ・染色をし、仕上げをする。(2) ・同じ方法で形の違うパズルを作る。(16)
反省	第4次 (10)	○木のパズル作りのまとめをしよう。 ・作品制作上がったところを記入し、手をつなぐ子らの作品展に出品する。(1) ・作品展見学に出かける。(6) ・作り方の説明書を作り、お世話になっている方にプレゼントする。(2) ・包装も工夫し、行う。(1)

5 生徒の実態

氏名	性別	実態
A	男	ノコギリを使ったり、電動糸のこを使っての作業を昨年も実施しており、時間はかかるが、道具類に慣れており、作業も丁寧に取り組む。図柄を描くことはできないのでコピーしたものを使い、写す。

6 本時の指導

- (1) 目標
 ○安全に気を付けながら、パズル作りをすることができる。
 ○わく板に、丁寧に図柄をはり、切り抜くことができる。

(2) 展開

学習内容・活動	支援と評価
<p>1 本時の作業内容を知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">わく板に図柄をはり、切り抜こう。</p> <p>2 作業の準備をする。 (1)身支度を整える。 (2)材料・道具類の確認をする。</p> <p>3 作業活動に入る。 (1) コピーした図柄を、9ミリの板にのりではりつける。</p> <p>(2) 刃を通すための穴を輪郭線上にあける。</p> <p>(3) 糸のこ刃を穴に通し、刃をセットする。</p> <p>(4) わく板を切り抜く。</p> <p>(5) 紙をはがし、板の表面や切断面をサンドペーパーでみがく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分がどんな作業をするのか計画表を見ながら、確かめると共に、安全な作業ができるように意欲付けをする。 作業に適した動きやすい服装であるかどうか自分で点検するが、気付かない時は、一声掛ける。 本時の作業に必要な道具類を自分で用意するようになるが、一通り用意したら、確認カードで確かめる。 コピー機で、事前にコピーをしておく。教師が助言し、A男がコピーを行う。 貼りつける紙が大きいので、板との間に空気が入りしわにならないように丁寧にはりつけるよう助言する。 この図柄はブロックを作る時も使うので、貼ってはがせる糊を使う。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">[評価] しわにならないように丁寧に貼ることができたか。 (作品)</p> <ul style="list-style-type: none"> うまくいかなかった時は、貼ってはがせる糊なのでもう一度やってみようという励ます。 錐で穴をあける時、板に対して垂直になるように話し、一人では難しいので、教師も板をおさえ、手伝う。 昨年の作業でも使った経験があるので、A男が自分でセットするように励ます。一人でできたときは、覚えていたことを賞賛する。忘れてしまっていた時でもあまり早く教師が支援するのではなく、ヒントを与えながら行うようにする。 <p><特に注意する点></p> <ul style="list-style-type: none"> 吊り上げ筒は、左手でしっかりと押さえながらネジを締める。 加工中、板がおどらないよう板押さえを、しっかりつける。 図面の輪郭線に沿うようにして、心持ち外側を切った方が、ブロックの組みこみや取り外しがしやすいことを伝える。 糸のこの動きが速いに対応しきれないので、スピードを自分で対応できる速さに調節させる。 スイッチを入れたら、絶対によ見しないことを確認する。 サンドペーパーでみがく時、裏側に出る糸のこのバリも取るときれいになることに気付かない場合、示唆する。 図面はあとでブロックを切る時に、再度使うので捨てないよう気を付ける。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">[評価] 安全に気を付け、わく板を丁寧に切り抜くことができたか。 (作品)</p>
<p>4 後片付けをする。</p> <p>5 自己評価カードに、本日の作業の反省を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多少の曲りがあっても、作業中の集中力を賞賛し、自信をもたせる。 次時に使う時に使いやすいように片付けるよう促す。 自己評価カードはチェック項目を作っておき、記入しやすいものとする。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">[評価] 楽しく作業をすることができたか。 (自己評価カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> マイナスの評価をしているような場合は、よくやっていった場面を思い起こさせる。

2 難聴・言語障害特殊学級・通級指導教室

(1) 作成マニュアル

ア 個別指導計画について

① プロフィール

(様式1)

- ・初回面接時に、「プロフィール」を参考に情報を収集する。
- ・本人に必要と思われる各種心理検査を実施し、その結果の分析と観察から指導方針を決定する。
- ・保護者・本人、通常学級担任の願い等を記入する。
- ・所見欄には将来を見通しての指導方針の記入もする。

② 長期個別指導目標

(様式2)

- スタッフ会議をもつ（校長，担任，担当者，保護者等）。
- ・長期的な見通しの中で、今年度中に達成可能と思われる目標を領域別に話し合い，決定する。
- ・優先指導目標と指導の場を決定する。

③ 個別年間指導計画

(様式3)

- スタッフ会議をもつ。
- ・長期個別目標を基に，学期ごとに具体的な指導内容を検討して決定する。
- ・指導時期と指導期間を決定する。
- ・スタッフ間での共通理解を図る。

④ 短期個別指導目標

・計画・評価

(様式4)

- スタッフ会議をもつ。
- ・発達段階を十分考慮し，今現在必要な課題を優先して指導目標や指導計画を作成する。
- ・スモールステップでできるだけ具体的な計画を立案する。
- ・必ず学期の終わりに指導経過と評価について話し合いを行い，指導計画の見直しをする。

イ 学習指導案について

- (7) 短期個別指導目標は、「題材における個別指導目標」の欄でできるだけ具体的に記入しておく。
- (4) 指導計画については，児童の実態を踏まえて指導期間と指導内容を考慮して立てる。また指導が長引くことが予想される場合は，「継続観察指導」の欄を設けておく。
- (7) 実態には題材における実態と現在までの変容についても記入する。
- (5) 「支援と評価」の欄には，課題ができたとき，できないときの，具体的な手だてを記入しておき，活動が円滑に進められるようにする。
- (6) 「評価」は，本時の目標に添って評価方法とできなかった場合の支援方法等を記入し，次への指導につなげる。

(2) 言語力を伸ばしたい児童（小学校第4学年）の事例

ア 実践の概要

(7) 指導計画を作成するにあたって

- プロフィール作成にあたっては、多方面からの情報を得ることによって、児童の実態やニーズがよりよく把握できた。また得た情報をもとに、スタッフ会議で関係者が共通理解を図ることができ、個別目標を設定しやすくなった。
- 長期個別指導目標では、児童の実態に基づき年度末には達成すると考えられる目標、興味・関心を育て、主体的に学習活動ができる目標を設定した。また、本人や保護者の願いを尊重し、将来社会自立を目指すために身に付けておきたい課題も目標設定の際に配慮した。
- 短期個別指導目標では、長期目標の一つ一つについて課題分析を行い、スモールステップ化して設定し、目標を達成していくための指導内容を検討した。
- 評価では達成状況を把握し、場合によっては指導目標を変更できるように書き込み、細かい指導の実践のために活用した。

(4) 実践にあたって … 学習指導案の作成

- 児童にとって、今何が必要なのかを考え、主体的に活動できる目標を設定した。自分で判断したり、発言したりすることにためらいがあることから、興味・関心がもてる目標、進んで取り組める目標を考えた。
- 将来社会自立するために、今身に付けておきたいことなどを考慮して、発達段階に応じた指導内容を目標に設定した。
- 日常生活において、写真や絵などの視覚による情報が多いことから、身の回りのいろいろな物に興味・関心がもてるように教材を工夫した。
- 具体的な支援策や評価の点では、あくまでも児童が主体と考え、自分で気付くことを重点とした。できなかった場合の支援策も具体的に記述し、状況把握に努め、次時の学習につながるように配慮した。

(7) まとめと今後の課題

- 児童の実態やニーズに応じて個別指導計画を具体的に設定するので、児童のよさや可能性を発見できた。より明確な目標を設定することにより、児童が生き生きと学習活動を行うことができると思われる。
- 個別指導計画を作成することによって、関係者の共通理解を得ると共に、実際にきめ細かい指導を行うことができる。
- 評価を学期ごとに行うことによって、達成不十分な目標については適切に修正し、個々の指導に生かすことができる。
- 個別指導計画に基づく指導は、具体的なきめ細かな指導が要求されるので、今後、指導方法の改善や多様な指導方法の蓄積が課題である。

プロフィール

		記入者	〇〇 〇〇	記入日	平成9年 〇月 〇日	
氏名	〇〇 〇〇	学校名・学年	〇〇〇小4年	生年月日	昭62年〇月〇日(10歳〇月)	
保護者名	〇〇 〇〇	住所	〇〇郡〇〇町〇〇〇		電話	〇〇-〇〇〇〇
療育手帳	()	年 月 日交付	身障手帳	種 級	年 月 日交付	
障害名	難 聴		身体状況	両耳耳掛け式補聴器装用		
発作：無・有(回数：毎日・週・月 位)			服薬：無・有1日 回(朝・昼・晩・就寝前)			
病院名・主治医	〇〇病院〇〇医師		親の会活動	無		
生育歴	胎生期(胎児・母体の異常等) 特に異常なし			乳児より現在に至まで (相談歴, 治療歴等)		
	出産時： 熟産・早産(か月) 体重(1934g) 分娩の異常(無) その他			<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇〇病院で高度感音難聴と診断される。(2歳) ・〇〇小ことばの教室に通級する。(小1～現在) 		
家族構成	父 母 弟 本児 計 4人		家庭環境	(親の職業, 教育的理解等) <ul style="list-style-type: none"> ・父：〇〇 ・母：〇〇 母親は教育熱心 		
<p>学校生活の様子(学力, 交友関係, 性格, こだわり等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的な遅れは見られない。 ・コミュニケーション手段の主体は, 聴覚よりも読話による場合が多い。 ・友達と遊ぶ約束をするなど, 積極的に友達とかかわろうとしている。 ・性格は明るく人なつっこい。 						
<p>諸検査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中ビネー知能検査 IQ ・S-M社会生活能力検査 平成9年6月実施 CA () SQ () SA () ・WISC-R知能検査 平成9年7月実施 VIQ (89) PIQ (102) IQ (95) ・聴力 右 102dB 左 98dB ・発音の状態 ほとんどが母音になった発音 						
<p>本人・保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活経験を豊かにして, 健常児と共に日常生活を送ってほしい。 ・学校生活を友達と一緒に楽しく過ごしたい。 						
<p>通常学級担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の中で, 友達と楽しく学習したり遊んだりしてほしい。 						
<p>所 見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度難聴のため補聴器による情報収集が難しい。従って, 傾聴態度・意思を伝えようとする態度を育て, 集団の中でコミュニケーションを図りながら, よりよく適応できるようにする必要がある。 ・自分で判断して意欲的に行動したり, 発言したりできるように指導を進める。 						

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

4年〇組	氏名	〇〇〇〇	作成責任者	〇〇〇〇	作成日	平成9年〇月〇日
領域	指導目標					場
基本的 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことで、できることは自分です。 ・日常生活において、できることを増やす。 					通常 家庭
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲よく遊んだり、活動したりすることができる。 ・地域の行事に進んで参加することができる。 					通常 家庭 地域
教科学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習中、他の人の話を注目して聞くことができ、わからないことは身近な人に尋ねることができる。 ・自分の意見や考えをみんなにわかるように話すことができる。 ・経験したことや思ったことについて、正しい文法で日記や作文に書くことができる。 ・物語や文章を読んで、内容を理解することができる。 ・文章問題を読んで、内容を理解し問題を解くことができる。 ・小数や分数などの計算問題に、進んで取り組むことができる。 					通常 言語 言語
運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動に楽しく取り組むことができる。 ・簡単なルールにしたがって、ゲームを楽しむことができる。 					通常
養護・ 訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器の正しい取り扱いができる。 (イヤ・モールドの着脱、スイッチの入れ方切り方、ボリュームの調整、聞こえ方のチェック、電池の交換等) ・対面での話しかけを聞き取ることができる。わからないことは、その場ですぐ聞き返すことができる。 ・正しい構音方法がわかり、日常会話の中でも正しい発音で話をするることができる。 ・物語や説明文を読んで、新しいことばを理解したり使えることばを増やしたりすることができる。 ・写真や絵を見て、物の名前や場面の様子を理解することができる。 (公共の施設、工場等) 					言語 家庭 言語

(作成スタッフ 〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇)

平成9年度第1学期 短期個別指導目標・計画・評価

(様式4)

学年・組	4年〇組	作成責任者	〇 〇 〇 〇	作成日	平成9年〇月〇日
氏名	〇〇〇〇	評価者	〇 〇 〇 〇	記入日	平成9年〇月〇日
領域	指導目標	指導計画	評価		場
			達成状況	備考	
基本的 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことで、できることは自分でする。 ・日常生活でできることを増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に必要な教材を自分で用意する。 ・連絡事項をメモにとる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・うっかりして忘れることがある。 	通常 家庭
			△		通常
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲よくする。 ・地域の行事に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と連絡を取り合う。 ・お楽しみ会に参加したり、公民館を利用したりする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶ約束を進んで行っている。 ・児童館の行事に楽しく参加する。 	通常 家庭
			◎		通常
教科学習	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話を聞くことができる。 ・友達の前で自分の意見や考えを話すことができる。 ・物語や文章を読んで内容を理解することができる。 ・季節の生き物や植物の様子が分かる。 ・文章題が分かる。 ・簡単な計算が正確にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注目して話を聞く。 ・経験したことなどを朝の会で話す。 ・学習の中で挙手をして意見を言う。 ・国語の教科書や童話などの本を読み、大体的内容をつかむ。 ・春、夏の生き物や植物の様子がわかる。 ・立式や筆算ができ、問題を解く。 ・小数の加減乗除 ・単位 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・他のことに気を取られる。 ・質問が分からない。 ・興味・関心が高い。 ・計算は速く正確だが、文章題が苦手である。 	通常
			○		
			△		
			○		
			◎		
			○		
運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動を楽しくすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操（リズム体操）をする。 ・マット運動、跳び箱運動の練習をする。 ・ボール遊びをする。ドッジボール 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで、楽しく活動している。 	通常
			○		
			◎		
養護・訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器の扱いになれる。 ・話を聞き取ることができる。 ・日常生活の出来事を話すことができる。 ・新しい言葉を覚え、使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器の聞こえをチェックする。 ・質問の内容を理解して答える。 ・行事の様子を理解する。 ・教科書の中で、分からない言葉の意味を知る。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・分かった表情だが、話せない。 	言語
			○		
			○		
			△		

※ 達成状況は◎（十分達成）○（ほぼ達成）△（達成不十分）等の記号で記入し、達成不十分の項目については、特に具体的に記述する。

言語障害特殊学級 養護・訓練学習指導案

指導期日・時間 平成9年9月○日○校時
 指導場所（教室名） ことばの教室
 指導者名 ○○ ○○

1 題材 町の身近な様子

2 題材設定の理由

日常生活において、耳の聞こえが十分でないことから、その年齢の子供として知っているであろうと思われる知識が不足していたり、何気なく伝え合っている情報が十分でないことがある。また、普段は通常の学級で学習しており、集団の活動の中でコミュニケーションを行っているが、耳の聞こえが十分でないことから、意思の伝達をはじめいろいろな支障が生じ、自分で判断して意欲的に行動したり発言することにためらいが見られる。

そこで、写真や絵、新聞等の視覚からの情報を学習に取り入れ、身の回りのいろいろな物に興味・関心をもち、探求する意欲を育てていきたい。また、生活経験を言葉で表現する学習を通して、生活の中でも言葉を知ろうとする意欲を培っていきたいと考え、この題材を設定した。

3 目標

短期個別指導目標	題材における個別指導目標
<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞き取ることができる。 ・日常生活の出来事を話すことができる。 ・新しい言葉を覚え、使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達の話聞き、話の大体を理解することができる。 ・学校や身近な様子を自分の生活経験をもとに自由に話すことができる。 ・日常生活の中で、見落されている内容が分かり、文章を書く時に使うことができる。

4 指導計画（6時間扱い）

時間	第1時	第2時	第3時（本時）	第4時	第5時	第6時
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達の話聞いて学習内容を理解する。 					
	学校の生活の様子を話したり、文章で表現したりする。		町の身近な様子を話したり、文章で表現したりする。			公共施設について役割や利用の仕方を理解する。

5 児童の実態

氏名	性別	実態
A	女	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活においては、聞き取りにくい状態があっても特に本児は問題としていない。周りの状況や様子から判断をして行動している。 ・物事への興味関心は十分にあり、意欲も見られるが、生活的な知識や情報について、見落されている内容がある。 ・高度の難聴で発音は母音化されているものが多い。

6 本時の指導

(1) 目標

- 町の身近な様子について、先生の話の聞いたり思ったことを自由に話すことができる。
- 写真や絵を見て、文章で表現することができる。

(2) 展開

学習内容・活動	支 援 と 評 価
<p>1 あいさつをし、自由会話をする。</p> <p>2 本時の学習について知る。</p> <p>3 写真を見て、物の名前や場面の様子について話し合う。 (公園、商店街、自宅周辺の写真を活用して)</p> <p>1 写真に写っている様子を自由に話す。</p> <p>2 写真を見て、物の名前を書いたり文を作ったりする。</p> <p>4 なぞなぞ遊びをする。 (1) 機能、特性、色や形、使い方などを考えながらヒント文を作る。 (2) 問題を交互に出し合う。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の出来事について自由に会話し、健康の状態や聞こえの状態を把握する。 ・ 事前に本児や家族が撮った写真を活用し、身の回りのいろいろな物への興味や関心を高める。 ・ 写真にふき出しを使い、楽しく話ができる雰囲気を作る。 ・ 見たことはあるが名前を知らない物もあるので、その時はヒントやクイズを出すようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[評価] ・ 写真を見て、自由に話すことができたか。 (行動観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話がなかなか出てこないときは、あらかじめ説明文を用意し、読んで理解できるようにする。 ・ 書くことができない場合は、3つの中から正しいものを選択する。 ・ 助詞が抜けたり間違ったりした時は指摘をして正しく助詞が使えるように支援する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[評価] ・ 写真を見て文を作ることができたか。 (ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の理解しやすいことば、覚えさせたいことばを意図的にヒント文の中に使用する。 ・ 問題に注目して聞き取るために、テレビや雑誌等の中からも問題の材料を選ぶ。 ・ お互いに聞き取れないところは、文字を見て補う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[評価] ・ 楽しくなぞなぞ遊びができたか。(観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一生懸命できたことを誉め、聞くことや話すことに自信がもてるように配慮する。

(3) 言葉の表出を促進したい児童（小学校第4学年・通級指導教室）の事例

ア 実践の概要

(7) 指導計画を作成するにあたって

- プロフィールは前年度の担任，在籍校の担任，保護者など多方面から幅広い情報を得てよく話し合った上で作成した。
- 長期個別指導目標は児童の能力や学力を考慮に入れ，やや時間を要しても習得して欲しい課題を無理のない範囲で取り上げた。
- 特に教科学習については，基礎学力を身に付けて欲しいという保護者の強い要望もあり，1学年相応の学力の程度と診断して，1学年の教科書使用も取り入れた。
- 個別年間指導計画の作成にあたっては，児童にどの程度の時間を設定すれば目標を達成できるかの判断が難しいこともあり，月ごとの細分化を控えた。
- 短期個別指導目標・計画は達成状況が不十分でも，次の学期に継続できるように，ゆとりをもたせて大まかに設定した。
- 最終的には1年間で長期個別指導目標がほぼ達成できることを期待して，各個別目標を具体化した。

(イ) 実践にあたって・・・学習指導案の作成

- 題材における個別指導目標は，短期個別指導目標をより具体化したものである。ここでは児童が言葉を使用する上で，特に重要と思われる問題点を取り上げた。会話中，助詞が抜けたりして不明瞭な文になりがちなので，助詞の正しい使い方を指導目標に設定した。
- 説明的教材「とりとなかよし」は，文の構成を学習する上で，比較的取り組み易く，読み取りも容易であることから取り上げた。
- 二つの題材は文を作る上で関連があるために，4時間の指導計画の中に同時に組み入れた。
- 本時の学習内容・活動は児童の学習能力を考慮に入れ，時間的なゆとりをもたせた。
- 児童の間違いをあらかじめ予測できる箇所では，その手立てや支援を具体的に取り上げた。間違いやすい箇所は，何度も取り上げるにより，より一層印象づけ定着を図るようにした。
- 評価は文字カードやワークシートのみを重視するのではなく，児童の会話の内容や表情，作業の様子など，思考の過程を大切に扱うようにした。

(ウ) まとめと今後の課題

- 個別目標や計画を作成することにより，児童の個別の指導内容が明確になり，その児童に合った学習内容を調整しやすい。
- 評価の欄を設けたことにより，問題点や今後の課題が明確になる。
- プロフィールを作成するときには関係者と話し合いをもつが，その後は時間の都合上，連携が希薄になってしまう。関係者との協力をどのように仰いでいくかが今後の課題である。

プロフィール

(様式1)

記入者		〇〇 〇〇	記入日	平成9年〇月 〇日	
氏名	〇〇〇〇	学校名・学年	〇〇小4年	生年月日	昭和61年〇月〇日(10歳〇月)
保護者氏名	〇〇〇〇	住所	〇〇市〇〇町〇〇	電話	〇〇〇-〇〇〇〇
療育手帳	() 年 月 日 交付		身障手帳	種 級 年 月 日 交付	
障害名	言語発達遅滞		身体状況	成長ホルモン不全	
発作：無・有(回数：毎日・週・月 回位)			服薬：無・有1日 回(朝・昼・晩・就寝前)		
病院名・主治医 〇〇病院 〇〇医師			親の会活動 無・有()		
生 育 歴	胎生期(胎児・母体の異常等) 特に異常なし		乳児より現在に至るまで 就学前〇〇教室に相談(面接のみ)		
	出産時：熟産・早産() 体重1900g 分娩の異常(有・無) その他		〇〇小学校 通級指導教室(小1～) 心身の発達が遅れているため就学が猶予され、 1年遅れて〇〇小学校へ入学する。		
家 族 構 成	父 母	計 4人	家 庭 環 境	(親の職業、教育的理解等)	
	姉 (1人)			・父：〇〇〇 母：〇〇 大変教育熱心である。学習塾で週2回個別 指導を受けている。	
<p>学校生活の様子(学力、交友関係、性格、こだわり等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力は1年生の1学期程度であり、授業時はドリルやワークなどで個別に指導を受けている。 ・コミュニケーション能力が不十分なため、相手の話がよく理解できず、ときどき誤解を生じることがある。 ・基本的な生活習慣はよく身に付いており、身の回りはきちんとしている。 ・言葉がはっきりせず、行動が遅れるが友達と明るく過ごしている。 					
<p>諸検査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中ビネー知能検査 (平成8年度実施) IQ (42) ・S-M社会生活能力検査 (平成8年度実施) SQ (58) ・言語発達診断検査 (平成8年度実施) SA (5:1) SQ (50) ・WISC-R知能検査 (平成9年5月実施) VIQ (39) PIQ (39) IQ (35) 					
<p>本人・保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しでも学力が向上することを願っている。 					
<p>通常学級担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児に合った教育を心掛けていきたい。 ・本児の現状を保護者によく理解してもらえるよう連絡をとっていきたい。 					
<p>所 見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時々言葉が不明瞭になるので、発語明瞭度を高める指導も継続して進める。 					

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

4年〇組	氏名	〇〇〇〇	作成責任者	〇〇〇〇	作成日	平成9年〇月〇日
領域	指導目標					場
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の友達とよりよいコミュニケーションが図れるように交流を深めたり、仲よく生活したりすることができる。 ・家族の中で、興味・関心のある身近な話題や出来事を取り上げて楽しく話することができる。 (親子の会話の時間をできるだけ多くとる。) 					在籍校 家庭
教科学習	<ul style="list-style-type: none"> ・短文の読み書きや読解力を高めることができる。 ・簡単なたし算やひき算の計算ができたり、簡単な文章題を解くことができる。 					通級指導教室
養護・訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・語いを増やし、経験したことを相手によく分かるように話の区切りや発音に注意して話すことができる。 ・発語器官の機能を高め、発語明瞭度を高めることができる。 					通級指導教室

配慮事項

環境調整	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者と両親のよりよい関係を作り、本児の言葉の遅れについての実態を伝え、理解と協力を求める。 	家庭
	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の状態について、在籍校、在籍学級担任と共通理解を図り、本児の対応等について理解と協力を求める。 	在籍校
医療		病院

(作成スタッフ 〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇)

平成9年度 個別年間指導計画

(株式3)

4年○組	氏名	○○○○	作成責任者	○○○○	作成日	平成9年○月○日							
領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	場
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級の友達と交流を深めて仲よく生活する。 ・ 学級の中で自分の役割を理解して実行する。 ・ 集団の中へ積極的にかかわろうとする。 ・ 家庭内で楽しく話をする。 												在籍校 学級 学級 家庭
教科 学習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 短文の読み書きや簡単な文の読解力を身に付ける。 ・ 国語（1年上）を使用 -----→ 国語（1年下）を使用 -----→ ○ 簡単な計算ができる。 ・ 1位数+1位数, 1位数-1位数の計算 ・ 簡単な文章題 -----→ (1位のたし算, ひき算) 												進級指導教室 進級指導教室
養護・ 訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発語明瞭度を高める。 ○ 絵カードを使ったり, 言葉遊びをしたりして語いを増やす。 												進級指導教室 進級指導教室

配慮事項の計画

環境調整	<ul style="list-style-type: none"> ○ 母親との話し合い。 ○ 在籍学級担任との話し合い。(学期始め, 終わりに) 												進級指導教室 在籍校
医療													

平成9年度第1学期 短期個別指導目標・計画・評価

(様式4)

学年・組	4年 ○組	作成責任者	○ ○ ○ ○	作成日	平成 9年 ○月 ○日
氏名	○ ○ ○ ○	評価者	○○ ○○, ○○ ○○	記入日	平成 9年 ○月 ○日
学 校	特殊学級・通級指導教室		通常学級	評価	
	個別	小集団			
	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の類推ドリルや絵カードを使って、語いを増やすことができる。 ○ 		<ul style="list-style-type: none"> 濁音、半濁音、促音、長音、拗音、カタカナ、助詞の読み方、書き方ができ、短い文の中で使うことができる。 ○ 	<ul style="list-style-type: none"> カタカナの書き方と助詞の使い方がまだよく身に付いていないが、他は定着してきた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 国語（1年上）の文学的教材や説明的教材を読み、話の内容を大まかに読み取ることができる。 ○ 		<ul style="list-style-type: none"> 1年生程度の漢字の読み書きができる。 △ 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文の大まかな読み取りはできるようになってきたが、場面ごとの詳しい読み取りはまだできない。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 1位数+1位数、1位数-1位数の計算ができる。 △ 		<ul style="list-style-type: none"> 1位数+1位数、1位数-1位数の計算ができる。 △ 	<ul style="list-style-type: none"> たし算はできるが、ひき算はまだ抵抗があり、半具体物や指を使った数え方を練習中である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 構音器官の機能を高める訓練を通して発語明瞭度を高めることができる。 △ 		<ul style="list-style-type: none"> 友達に自分から話し掛けるなど積極的にかかわり、交流を深めることができる。 ○ 	<ul style="list-style-type: none"> 舌の操作がまだ不十分なため、発語が不明瞭になりがちである。 	
家	<ul style="list-style-type: none"> 食事などのだんらん時に、家族みんなで楽しく会話ができる。 ○ 				
庭					

※ 達成状況は、◎（十分達成）、○（ほぼ達成）、△（達成不十分）等の記号で記入し、達成不十分の項目については、具体的に記述する。

通級指導教室（言語障害） 養護・訓練学習指導案

指導期日・時間 平成9年〇月〇日〇校時

指導場所 ことばの教室

指導者 〇〇〇〇

1 題材 とりとなかよし

2 題材設定の理由

本児の障害は言語発達遅滞と診断されており、4年に在籍しているが、学力の実態は1年生程度であり著しい遅れがみられる。そのため、当教室では児童の学習能力を考慮し、言葉の学習教材の一つとして1年の国語の教科書を使用している。

本教材は入門期の説明的文章である。文章は大きく三つに分かれているが、どれもよく似た構造をもっており、読み取りも比較的容易である。各動物の文章の二行目は、「〇〇は、〇〇にすんでいます。」という、主語+修飾語+述語の関係になっている。この文と関係づけながら、文の構成について学習する。

文章は1文字ずつ読んで理解するのではなく、正しい助詞の使い方をし、1つのまとまりのある形をもつものとして理解することが必要であると思われる。そこで、助詞の使い方も合わせて学習し、整った話し方や整った書き言葉の文章を作る学習を通して言語発達の促進を図りたいと思い、本題材を設定した。

3 目標

短期個別指導目標	題材における個別指導目標
<ul style="list-style-type: none"> 言葉の類推ドリルや絵カードを使って語いを増やすことができる。 国語（1年上）の文学的教材や説明的教材を読み、話の内容を大まかに読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 積木やカードを操作して、助詞の正しい使い方を理解し、「〇は、〇を（に）しました。」の文作りができる。 説明的教材「とりとなかよし」を読み、鳥と仲よしの動物を絵と文から理解して、なぜそうなのか、わけを読み取ることができる。

4 指導計画（4時間扱い）

時間	第 1 時	第 2 時	第3時（本時）	第 4 時
活動	・積木やカードを操作して「は」、「を」の助詞の正しい使い方を理解する。		・絵カードを見て文章化する。	
内容	・「とりとなかよし」を通読する。	・それぞれの鳥の様子を話したり、ワークシートにまとめたりする。		・主語、述語、修飾語をつないで文を作る。

5 児童の実態

氏名	性別	実 態
A	女	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで身近な出来事を話そうとしたり、聞かれたことに対して簡単な受け答えをすることができる。しかし、助詞が抜けたり、前後の文の関係があいまいになり、話の内容が不明瞭になるときがある。 短い物語の文を読んで、大まかに粗筋をとらえることはできるが、場面ごとに順序よく読み取ったり、問いかげに正確に答えることが困難である。

6 本時の指導

(1) 目標

- いろいろな動作をしている絵カードを見て、言葉で表現することにより、助詞の使い方に慣れ、助詞を正しく使って話ができる。
- 問いや説明の文体を絵と文から理解して、なぜそうであるのか、読み取ったことをワークシートにまとめることができる。

(2) 展開

学習内容・活動	支援と評価
<p>1 始めのあいさつをする。</p> <p>(1) あいさつをし、月日、曜日を確認する。</p> <p>(2) 会話をする。</p> <p>(3) 本時の予定を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の顔を見て、元気よくあいさつができるようにする。 ・会話では、「いつ、どこで、だれと、何をした」ということを助詞の使い方に気を付けて話ができるように時々確認の言葉掛けをする。
<p>2 「アブラハムの七人の子」を歌と踊りで表現する。</p> <p>3 いろいろな動作をしている絵カードを見て文章にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほんをよむ。 ・おふろにはいる。 ・がっこうへいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて手足を大きく動かしながら、体全体を使って表現できるように指導者も一緒に大きな表現をする。 ・文章にして読んだ後、絵カードに対応した文字カードも用意し、助詞が入る部分に赤ペンで○印をつけて抜かしておき、どんな文字が入るか考えて書き入れるようにする。 ・「～を」や「～へ」の助詞の使い方を「～お」「～え」と話し言葉で書きがちなので、話し言葉と書き言葉の違いを再度取り上げて注意を促すようにしたい。
<p>4 「とりとなかよし」のそれぞれの鳥についてワークシートにまとめる。</p> <p>(1) 全文を音読する。</p> <p>(2) ワークシートにまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥の名前 ・住んでいるところ ・仲よしの動物 ・仲よしなわけ 	<p>[評価]</p> <p>助詞に気を付けて、絵カードに合う文を作ることができたか。(発表、文字カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助詞が間違っているときは、助詞の正しい使い方を再確認させて、正しい文章を提示する。 ・言葉がこもらないように、口をやや大きめに開けてはっきりと読むように促す。 ・書き始めがスムーズにいかず、戸惑いがみられる場合には、最初の鳥についてのみポイントを示しながら一緒にまとめるようにする。 ・他の鳥については励ましの言葉掛けをし、最後まで自力で取り組みるようにする。
<p>(3) まとめた内容について確かめる。</p> <p>5 終わりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめた内容の一部に間違いがあった時は、わけが書かれている文と挿絵とを再度確認して、訂正できるようにする。 ・主語+修飾語+述語の関係についても正しく表記されているか確かめるようにする。 <p>[評価]</p> <p>鳥と仲よしの動物について、絵と文から理解して、仲よしのわけを読み取り、ワークシートにまとめることができたか。(観察・ワークシート)</p>
<p>5 終わりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動でよかったところを称賛し、次の活動への意欲付けをする。

3 情緒障害特殊学級

(1) 作成マニュアル

ア 個別指導計画について

① プロフィール (様式1)

- ・関係諸機関、家族などから生育歴、医療歴、相談歴などについての情報を収集する。プロフィールの項目を保護者との初回面接などに利用する。
- ・各種心理検査を実施し、その結果と観察の様子や家庭・学校での様子から考察する。
- ・保護者、本人、通常学級担任の願いを記入する。
- ・所見には担当者が指導していく上での方向性をもたせて記入する。

② 長期個別指導目標 (様式2)

- ・スタッフ会議の話し合いで決定する。(校長、保護者、通常学級担任、養護教諭、担当者など)
- ・子供の将来についての見通しを考えながら、今年度中に達成可能と思われ、発達段階に合った目標と指導の場を領域別に決定する。
- ・領域は、「基本的生活習慣」、「社会生活」、「教科学習」、「運動機能」、「養護・訓練」が適当である。

③ 個別年間指導計画 (様式3)

- ・スタッフ会議で決定する。
- ・長期個別指導目標達成のための指導内容の順序を決定する。
- ・どの程度の段階を追ってステップアップしていくかは、本人の実態に合わせて検討し、決定する。

④ 短期個別指導目標・計画・評価 (様式4)

- ・スタッフ会議で、領域ごとの年間計画を受けてスモールステップで具体的に指導計画を作成する。
- ・総合的評価として、学期末の達成状況を記入する。「備考」には、次の学期の指導に役立つ情報を記入する。

イ 学習指導案について

- (ア) 短期個別指導目標との関係を明確にするために、題材における個別指導目標とあわせて記入する。
- (イ) 指導計画については、題材が長期にわたるものがあるので「継続観察指導」という欄を設ける。
- (ウ) 「支援と評価」の欄には、配慮事項についても記入し、正・誤反応に対する具体的な援助方法も明記する。
- (エ) 評価については、評価方法なども記入し、次時の指導につながるような評価事項を決定する。

(2) 言語表現力を高めたい児童（小学校第2学年）の事例

ア 実践の概要

(7) 指導計画を作成するにあたって

- プロフィール作成にあたっては、プライバシーの保護に配慮した。保護者との面談やA児の現在の様子とこれからについてのアンケート調査、通常学級担任も交えた三者面談などいろいろな機会をとらえて情報収集をした。
- パニックやこだわりなど、クラスでの生活に支障をきたすことが多いA児であったが問題行動の軽減にとらわれすぎない目標設定を心掛けた。
- 通常学級での生活や学習によりスムーズに参加するには、今どんな力が必要か、もう少しの力で、自力参加が可能なことは何か、基本的な生活習慣で、今、身に付けておかなければならないことは何か、などをポイントにして考えた。

(8) 実践にあたって・学習指導案の作成

- 短期個別指導目標に到達するためには、何を題材として使い、どんなステップで指導するのかを考えた。
- A児の得意なこと、興味のあること、好きな物などを課題やごほうびなどに取り入れて授業を組み立て、特にこれから伸ばしたい力についてはスモールステップを考え、それが題材における指導目標になる。
- 短文作りやじゃんけん、文による学習などは今までも繰り返し行ってきた課題であるが、いろいろなパターンでの学習を経験させることや小集団でのゲームへの橋渡しを考えての題材構成を考えた。
- 単語だけでの返答から文を意識した返答に変わりつつあるA児であるので、正答か誤答かの評価だけでなく、文にしようと考えているかななどの様子を観察することや答えるまでの間を十分にとってから支援することを考えた。また、1時間の学習中のいろいろな会話や応答でさまざまなやりとりをするように心掛け、パターンへのこだわりにならないようにしていきたいと考えた。

(9) まとめと今後の課題

- A児の場合、こだわりの変化や噛みつき・机倒しなどのパニックが頻繁にみられ、その対応に追われがちであったが、領域ごとの目標を設定することで当面の問題行動に振り回されることなく、計画的な指導ができるようになった。
- 将来を見通した目標を持つことで、学校や家庭で今何を大事にしていけばよいのかが分かりやすくなった。
- 通常学級担任や保護者との共通理解ができ、基本的な考え方や対応の仕方のばらつきが少なくなることで、A児をとりまく環境が安定したと思われる。
- 在籍児童全員の個別指導計画を作成するのはかなりの負担になる。作業の簡便化や他の書類との共通化などを考え、継続して使用していけるような工夫をしていくことが今後の課題である。

プロフィール

		氏名		〇〇〇〇		
生年月日	平成元年〇月〇日(8歳〇月)		記入日	平成9年〇月〇日	記入者	〇〇〇〇
保護者名	〇〇〇〇	住所	〇〇市〇〇町 〇〇		電話	〇〇-〇〇〇〇
療育手帳	() 年 月 日交付		身障手帳	なし		
障害名	自閉的傾向		身体状況	良性腫瘍(経過観察中) 脳波検査継続中		
発作: なし			服薬: 有 1日2回(朝・晩)			
病院名・主治医	〇〇病院 〇〇医師		親の会活動	なし		
生育歴	胎生期(胎児・母体の異常等) 異常なし		乳児より現在に至るまで(相談歴, 治療歴等) ・心身障害者センターのこたばの教室に通級 (3才~就学前まで)			
	出産時: 熟産 体重(2560g) 分娩の異常(なし) その他		・動作法教室(5才~現在も) ・本校情緒障害特殊学級での指導 1年時 週5時間 2年時 週6時間			
家族構成	父 母 姉(1人)	家庭環境	(親の職業, 教育的理解等) ・父親 〇〇〇 母親 〇〇〇 ・父親は協力的で本児を温かく見守っている。 ・母親は, 教育熱心で子どもの症状の軽減に努力を惜しまない。			
<p>学校生活の様子(学力, 交友関係, 性格, こだわり等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな, カタカナ, 1年生で学習した漢字などは読み書きできる。 ・繰り上がり, 繰り下がりのある2けたのたし算やひき算の計算ができる。 ・単語のみでの返答が多く, 独語やおうむ返しも多い。 ・体全体の緊張度が高く, つま先立ちで歩くことも多い。 ・のりのふたを閉めること, 鉛筆を削ること, 絵に色を塗ることなどにこだわる。 ・要求が通らなかつたりすると, 自分の手首をかじったり友達をかじったりする。ドアに突進したり, 机を倒したりすることもある。 						
<p>諸検査の結果(特記事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中ビネー知能検査(実施日 平成9年5月) IQ(85) ・S-M社会生活能力検査(実施日 平成9年5月) SQ(44) 						
<p>保護者・本人の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱やトイレなど, 言葉掛けがなくても一人でできるようになってほしい。 ・手伝いや掃除など, できることの種類を増やしたい。 ・文章を読んで理解する力を付けたい。 ・縄跳びや鉄棒なども練習させたい。 ・かじることは絶対やめさせたい。こだわりも軽減させたい。 						
<p>通常学級担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるはずのことをやらずにいることが多いので, きちんと取り組ませたい。 ・友達をかじることや机を倒すことなどの危険を伴う行動を減らしたい。 ・集団の中でいろいろな活動や学習の経験をさせ, 行動のレパトリーを増やしたい。 						
<p>所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで意味を理解する力を付けることは, 言葉の理解力を伸ばすこととともに個別指導を中心にしながら進めたい。 ・体全体を動かしながらいろいろな運動に取り組ませたい。 ・こだわりは, さまざまに変わってきているので様子を見たい。しかし, かじることに関しては家庭や通常学級と連携をとりながら対処し, やめさせたい。 ・より自発的な活動ができるような場の設定や内容の選択をして, いろいろな力を伸ばしていきたい。 						

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

〇〇小学校	2年〇組	氏名	〇〇 〇〇	作成責任者	〇〇 〇〇	作成日	平成9年〇月〇日
領域	指導目標						場
基本的 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・上ばきをきちんとはいていることができる。 ・衣服の前後，裏表を間違えずに身じたくや着替えをすることができる。 ・好き嫌いなく，何でも食べることができる。 ・ズボンの前だけをおろして用をたすことができる。 ・教師の指示を受けながら友だちと一緒に清掃ができる。 ・自分で使ったものは，きちんと片付けることができる。 						<ul style="list-style-type: none"> 通常 家庭 通常 家庭 通常 学校 家庭
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事がきちんとできる。 ・集会や教室以外の場の活動でも，指示に従って行動することができる。 ・サーキット運動などでは，決まりを守って運動することができる。 						<ul style="list-style-type: none"> 学校 通常 情緒
教科学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな，カタカナ，漢字の混じった言葉や文を正しく読んだり書いたりすることができる。 ・話を聞いたり，文章を読んだりして内容の大体を理解することができる。 ・上中下，左右，前後などの意味が分かり，区別することができる。 						情緒
運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の動きをまねて，簡単な体操ができる。 ・リズムカルに両足跳び，片足跳びができる。 ・縄跳びができる。 						情緒
養護・訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・よい姿勢で座り，教師に注目し，簡単な質問には正しく答えることができる。 ・教師や友だちが話している時は，黙って聞くことができる。 						情緒

(作成スタッフ 保護者 通常学級担任 情緒学級担当者)

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

2年 ○組		氏名		○○ ○○		作成責任者		○○ ○○		作成日		平成9年 ○月 ○日	
領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	場
基本的 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・上ばきをきちんとはく。 ・シャツの裏表やズボンの前後を間違えずに着替える。 ・給食に出されたものは、嫌いなものでも少しは食べる。 ・ズボンを全部おろさずに用をたす。 ・ズボンの前だけおろして用をたす。 ・ぞうきんかけや机運びをみんなと一緒にやる。 ・学習後、机の上を片付ける。 ・机の中を整理する 												通常 家庭 通常
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・教師とかかわりをもちながら好きな遊びをする。 ・小集団で簡単なルールのある遊びをする。 リレー遊び じゃんけんゲーム ・名前を呼ばれたら返事をする。 ・朝と帰りの挨拶をきちんとする。 ・友だちの名前を覚える。 ・教室以外の場でも集団を離れない。 ・勝手な行動をとらず 運動会に参加する。 												情緒 学校
教科学習	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく視写する。 ・漢字やカタカナを正しく読み書きする。 ・絵カードなどを見て短文を作る。 短文を書く。 ・文を読んで内容を理解する。 ・簡単な質問に答える。 ・お話の内容について質問に答える。 ・上中下を区別する。 ・左右を区別する。 ・前後を区別する 												情緒
運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達の動きをまねて動く。 ・音楽に合わせて簡単な体操をする。 ・輪跳びをする。 ・リズムカルに輪跳びをする。 (両足跳び, 片足跳び) ・長縄跳びをする。 												情緒
養護 訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度を身に付ける。 (着席, 姿勢, 注目, 黙って聞く) ・簡単な質問に答える。 (単語のみの返答から文章パターンでの返答に) 												学校

平成9年度第1学期 短期個別指導目標・計画・評価

学年・組	2年 ○組	作成責任者	○○ ○○	作成日	平成9年 ○月 ○日
氏名	○○ ○○	評価者	○○, ○○, ○○	記入日	平成9年 ○月 ○日
領域	指導目標	指導計画	評価		場
			達成状況	備考	
基本的 生活 習慣	・上ばきをきちんとはいていることができる。	・休み時間の終わりに言葉掛けにより自分で確認する。	△	靴下がぬれると脱いでしまう。	通常
	・衣服の裏表、前後をまちがえずに着替えることができる。	・言葉掛けだけで自分で確認する。	○	前後は間違ふ。声をかけると直すことができる。	通常 家庭
	・嫌いな物も少しは食べることができる。	・「いただきます」の後に言葉掛けだけで食べる。	△	気分好きな物も食べさせるともどす。	家庭
	・ズボンを全部おろさずに用をたすことができる。	・家庭で練習する。	△	以前よりは下げる量が少なくてすむ。	家庭
	・ぞうきんで床ふきができる。	・ぞうきんしぼりの練習を家庭で行う。	○	ぞうきんを固くしぼるのが難しい。	家庭 通常
	・机やいすを一人で運べる。	・持ち方や運び方など言葉掛けだけで運べる。	○	重すぎる物は避けたがる。	学校
・片付けができる。 学習後の片付け 遊びの後の片付け	・チャイムの合図などで片付けができる。 ・学習後については言葉掛けだけで片付けができる。	○	片付け方や場所が決まっているとスムーズにできる。		
社会 生活	・小集団で簡単なゲームを楽しむことができる。 ・じゃんけんができる。 ・先生の指示に従って集合や移動ができる。	・じゃんけんやリレーの方法などについては情緒学級で個別に練習する。 ・全体指示や個別の指示を受けて行動できる。	○ △ ○	勝ち負けの区別を間違ふ。	情緒 (個) (小集団)
教科 学習	・文字や行をとばさずに視写することができる。 ・絵カードを見て簡単な文を書くことができる。 ・上, 中, 下を理解する。	・プリントや板書などいろいろなパターンでの視写を練習する。 ・例文を参考にして文が書ける。	○ ○ △	助詞を意識して使うようになった。 上下の区別はできる。	情緒 (個)
運動 機能	・簡単な動きを模倣して手足を正しく動かせる。 ・両足や片足で輪とびができる。	・教師の言葉掛けを受けながら真似をして動く	○ ○	リズムカルな跳躍にはならない。	情緒
養護・ 訓練	・学習態度を身に付けることができる。 ・簡単な質問に答えることができる。	・よい姿勢で着席し、話し手に注目できる。 ・黙って話を聞くことができる。 ・日付、曜日、したことなどを答えられる。	○ △ ○	自分の番でないときにも返事をしたり、話したりする。 単語のみでの返答はできる。	情緒 (小集団)

※達成状況は◎(十分達成) ○(ほぼ達成) △(達成不十分) 等の記号で記入し、達成不十分の項目については、特に具体的に記述する。

情緒障害特殊学級 養護・訓練学習指導案（個別）

指導期日・時間 ○月○日 ○校時
 指導場所 ○○教室
 指導者 ○○ ○○

1 題材 短文作り すごろくゲーム

2 題材設定の理由

入学以来現在までの学校生活で、いろいろな経験を積み重ねてきたA児の言語理解力、言語表出力は少しずつ伸びてきて会話が成立する場面が増えてきている。個別の言葉による指示はほとんど理解できる。しかし、家族の間だけで通用する表現や幼児語の使用などがみられ、友達とのかかわりはまだ受動的な段階である。

そこで、ここでは、言語能力をさらに伸ばし、通常学級の学習で自力で参加できる場面を増やしたり周囲の人とのかかわりがもてたりするように、応答のパターンを広げる課題、動作語の理解を助ける課題文章の内容をつかむ課題を設定した。いろいろなパターンの学習を繰り返しながらA児の言葉の世界を広げ、これからの学校生活や家庭生活がより豊かに送れるようにさせたい。さらに、いろいろな活動を取り入れたすごろくゲームを取り入れ、学習したことの定着を図りながら人とのかかわりをもつ楽しさを味わわせたいと考えている。

3 目標

短期個別指導目標	題材における個別指導目標
<ul style="list-style-type: none"> 学習態度を身に付けることができる。 簡単な質問に答えることができる。 絵カードを見て簡単な文を書くことができる。 じゃんけんができる。 文章を読んで、内容の大体を理解することができる。 両足や片足で輪跳びができる。 片付けができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師に注目して話を聞くことができる。 尋ねられたことに「—です。」と語尾まではっきりさせて答えることができる。 絵カードを見て「誰が」「何をしている」のか話すことができる。 じゃんけんの勝ち負けが分かる。 文章の指示に従って行動することができる。 片足で連続した輪とびができる。（5回くらい） 学習後、使った物を片付けることができる。

4 指導計画

時間	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時 (本時)	第6時	継続観察指導
活動	あいさつ						
内容	簡単な会話						
	短文作り						
	文による応用学習			すごろく			
	輪とび（両足・片足）			ゲーム			

5 児童の実態

氏名	性別	実 態
A	男	<p>ひらがな・カタカナ・学習した漢字などは読み書きできる。しかし、文章の中でカタカナや漢字を正しく使うことや文を一人で組み立てることなどは難しい。また、音読はできても、文の内容を正しく読み取ることなどはできていない。</p> <p>日常よく使われる会話はパターン化させた形での返答になることが多く、単語のみでの返答やおうむ返しによるものも多い。返事は「はい。元気です。」がワンセットになって返ってくる。</p> <p>順番を待つ・リレーはタッチしてからスタートなど小集団で経験したことはだいたい守れる。しかし、じゃんけんのルールはまだよく分かっていない。相手が出したのを見てから同じものに変えたりすることもある。</p> <p>体全体の緊張度が高い。特に、足首や首、肩などは力が入っている。そのため、つま先立ちで歩いていることが多い。両足とびは足が揃いにくく連続して跳ぶことが難しい。</p>

6 本時の指導

(1) 目標

- 指示を理解し、自ら課題に取り組むことができる。
- 質問にきちんと答えることができる。
- 動作絵カードを見て、短文を作ることができる。
- ルールを守って、楽しくすごろくゲームをすることができる。

(2) 展開

学 習 内 容 ・ 活 動	支 援 と 評 価
<p>1 はじめの挨拶をする。 「○○さん」—— 返事をする。 起立 「これから○時間目の勉強をはじめます。」 礼 着席</p> <p>2 簡単な会話をする。 月 日 曜日 天気 学校名 学年 組 担任の名前 朝のことなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に気持ちを向けるために、はじめの呼名は教師が行う。 ・視線が合ってから挨拶を始める。 ・A児が大きな声で号令をかけられるように声を掛けたり、モデルを提示したりする。 ・あいさつをする間に児童の状態を観察する。 ・「— です」という言い方で答えられないときは少し間をおいてA児が気付くのを待つ。さらに、誤反応のときはもう一度質問を繰り返す。 ・正反応の時は、拍手や言葉による称賛をする。
<p>3 本時の学習の順序を知る。</p> <p>4 動作絵カードを見て、短文を作る。 ・動作絵カードを見てお話をする。</p> <p>・「～が……をしています」の言い方で話す。 いっしょに 交互にひとりで</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〔評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問に正しく答えることができたか。 (行動観察) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しが持てるよう課題をカードに書いて提示する。 ・「誰が 何をしているの」と問いかける。 ・正しく言えたときは、頭をなでたり言葉による称賛をしたりする。誤反応の時は、「何をしているの」と再質問する。 ・何をしているのかが音や身振りなどでA児なりに表現できたら、正しい言葉で返す。
<p>5 すごろくゲームをする。 ・やり方の説明を聞く。</p> <p>・ラッキーゾーンに止まったときの活動を相談する。</p> <p>・じゃんけんをして、順番を決める。</p> <p>・ゲームをする。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〔評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動作絵カードの場面を正しく表現することができたか。 (行動観察) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・さいころの目の数だけこまを進めること、ポイントのところではカードの指示に従うことをしっかりと約束する。 ・ラッキーゾーンでの活動はA児の好きな遊びとする。A児が決められないときは、教師がA児の好きな事の中から2つ提案しA児が選んで決める。 ・自分の番でないときも、すごろくに注意を向けていられるように言葉掛けをする。 ・ポイントでの文による指示は、まず自力で読んで反応をみる。誤反応のときは、もう一度読むよう声をかける。その後は教師が読んでやる。
<p>6 片付けをする。</p> <p>7 終わりのあいさつをする。 「きょうは何の勉強をしたのかな」 「これで○時間目の勉強を終わりにします。」</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〔評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守ってすごろく遊びができたか。 (行動観察) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「片付けをしよう」の声かけで動き出せないときは、再度言葉をかける。 ・A児の答えの中から、がんばった点を見つけ、賞賛する。

(3) 多くの人と会話ができるようにしたい生徒（中学校第3学年）の事例

ア 実践の概要

(7) 指導計画を作成するにあたって

- 対象となる生徒が「緘黙」である為、本人との面接からはプロフィール作成に必要な情報はほとんど得られなかった。そこで、保護者との面接の時に、プロフィールを活用すべく持参し、家庭での様子や教育方針、また家族の願いなどを詳しく聞き、その場でできる限り作るようにした。また、本人の願いは手紙形式の方法で書いてもらうことにした。

学校での様子に関しては、2年間持ち上がりの学級担任から、交友関係や、集団への適応能力、集団知能検査の結果など指導の重点となることを詳しく聞いた。

- 指導計画のポイントとなる「長期個別指導目標」は、本人が3年生ということもあり、1年限りでできることが前提となるが、無理な計画にならないように、また本人や保護者の希望を生かすように学級担任と話し合いをもって作成した。

それを基本に、「個別年間指導計画」を学期ごとに振り分け、1学期は本人の様子を観察しながら内容を加除した。また、年間を通して学習するものを、各領域ごとに1つに絞り込んでいった。「短期個別指導目標・計画」は、さらに具体的な事柄で表すよう努力した。

(4) 実践にあたって・・・学習指導案の作成

- 情緒障害児の指導の場合、1対1の形が基本的であるが、通級も含めて3人が同時に教室にいる時間を生かして、本児の成長に役立つような指導案を展開したいと考えた。三者三様なのだが、共通するものは「言葉」である。本児はかん黙だが、他の2名も言葉遣いが乱暴だったり、話すのを苦手としている生徒である。

そこで、言葉遊びや電話の活用を選択し、指導案の作成に入った。指導案作成の前段階で言葉遊びを取り入れて、本児にも抵抗なくこの題材（電話の活用）に触れてもらおうとした結果、効果があり、他の2名とは（教師の知らないところで）会話できるようになっていた。

- 指導計画はスムーズに進行し、本児も教師とあまり抵抗なく話すことができるようになってきた。「電話」という媒介に興味を示したのは、他の2名の後押しもあったが、本児の「話したい」という気持ちが強かったからと思われる。

(5) まとめと今後の課題

- この指導計画を作成するにあたり、初めての人でも系統的に指導計画が立てられ、修正がしやすいということに感心した。Aの指導計画もそうだが、学期途中でもできたことは計画を変え、一段上の目標にすることもできたし、無理と思われることはフィードバックして系統を変更し指導することが容易だった。また、作成スタッフが連携することで、混乱せずに指導に当たることができた。
- 今後の課題として、もう少し作業の簡素化や簡略化が必要である。また領域は別だが、似たようなことを書き込んでしまうこともあり、注意することが必要である。

プロフィール				氏名	〇〇 〇〇	学校・学年	〇〇中学校3年	
生年月日	昭和57年〇月〇日 (15歳〇月)			記入日	平成9年〇月〇日		記入者 〇〇 〇〇	
保護者名	〇〇 〇〇	住所	〇〇市〇〇〇〇 〇〇〇〇番地		電話	〇〇-〇〇〇〇		
療育手帳	() 年 月 日交付			身障手帳	種 級	年 月 日交付		
障害名	場面緘黙			身体状況	良好			
発作：無・有 (回数：毎日・週・月 位)				服薬：無・有 1日 回 (朝・昼・晩・就寝前)				
病院名・主治医			無		親の会活動			無
生育歴	胎生時 (胎児・母体の異常等) 異常なし				乳児より現在に至るまで (相談歴, 治療歴等) ・中学3年生で入級			
	出産時 (熟産・早産 (月) 体重 (2860g) 分娩の異常 (無) その他							
家族構成	祖父	祖母	父	母	家庭環境	(親の職業, 教育的理解等) ・両親とも会社員 (祖母が面倒を見る)。 ・姉とは仲がよい。 ・両親とも学校に協力的である。		
	兄 (人)		姉 (1人)					
	弟 (人)		妹 (人)					
	その他			計	5人			
<p>学校生活の様子 (学力, 交友関係, 性格, こだわり等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎, 基本的なことはきちんと身に付けている。社会科が好きで予習・復習もよくやる。 ・友人は少ないが, 休み時間などいつも一緒に遊んでいる。 ・素直で真面目な性格で, 言われたことは一生懸命やる。 								
<p>諸検査の結果 (特記事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中, ビネー知能検査 IQ (104) (平成9年7月実施) ・S-M社会生活能力検査 SQ (98) (平成9年6月実施) 								
<p>本人・保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の入試には面接があるので, 聞かれたことぐらひは答えてほしい。 ・人の目やその他の態度を気にする事なく, 誰とでも話せるようになりたい。 								
<p>通常学級担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解力があり, 先生の言うことや友達の話すこともよく分かる。それなのに, 自分の意見を求められると話すことができないのは残念だと思う。これまではなかったが, 友達との間に誤解が生まれてしまうことも心配されるし, 入試の面接などもあり, どんな相手とも話ができるようになってほしい。 								
<p>所 見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中, ビネー知能検査やS-M社会生活能力検査などの個別検査を行った結果, 個人的理解力は高いことが分かる。情緒学級の時間のカウンセリングだけでなく, 通常学級での社会科も担当しているので, 言葉を掛ける機会をできるだけ多くし, まず, 皆の前で返事をさせたい。また意見も発表し, 話し合いにも参加できるようにさせたい。 								

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

〇〇中学校	3年〇組	氏名	〇〇 〇〇	作成責任者	〇〇 〇〇	作成日	9年〇月〇〇日
領域	指導目標						場
基本的生 活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の挨拶ができる。 ・呼名に対し、返事をする事ができる。 ・食事の時の挨拶をきちんと言うことができる。 ・お礼、感謝の気持ちを言葉で表現することができる。 ・初対面の人やお客さんに挨拶をすることができる。 ・自分の思いや要求を言葉で伝えることができる。 ・丁寧な言葉を使うことができる。 						家 庭 通 常 全 全 通 常 情 緒
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や話合いの大切さを理解することができる。 ・友達に自分の考えを話すことができる。 ・遊びの約束などを自分から行うことができる。 ・教師と意識せずに会話することができる。 ・小集団において自分の意見を発表することができる。 ・学級で必要な意見や考えを述べる事ができる。 ・委員会、生徒会行事で意見を主張することができる。 ・弁論、スピーチコンテスト等に参加することができる。 ・会話によってコミュニケーションを図ることができる。 						情 緒 通 常 全 学 校 情 緒 通 常 学 校 学 校 全
教科学習	<ul style="list-style-type: none"> ・号令をかけることができる。 ・呼名や指名に対し、返事をする事ができる。 ・教科書などを音読することができる。 ・自分の考えや意見、主張を述べる事ができる。 ・質問や反対意見を述べる事ができる。 						情 緒 通 常 情 緒 通 常 通 常
運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動などを声を出して行うことができる。 ・決められた回数を行う時は、協力して数え合うことができる。 ・チームゲームの時は、大きな声で応援したり声を掛けたりして、コミュニケーションを図ることができる。 ・怪我や事故等に気付いた場合、自分で報告することができる。 						通 常 情 緒 通 常 通 常
養護・訓 練	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で楽しく話ができる雰囲気をつくり、会話や対話の範囲を広めることができる。 ・集団の諸活動を通して、対人関係を広げるために会話や対話の重要性についても理解する。 ・家族同様、関係する人たちと意識する事なく会話することができる。 						情 緒 学 校 全

(作成スタッフ)

保護者、通常学級担任、情緒障害担当

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

3年〇組	氏名	〇 〇 〇 〇				作成責任者	〇 〇 〇 〇				作成日	9年〇月〇〇日		
領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	場	
基本的生 活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 朝の挨拶が言える。 返事をする。 食事の挨拶を唱和する。 					<ul style="list-style-type: none"> お礼や感謝の気持ちを言葉で表現する。 会釈や挨拶をする。 				<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや感想を話す。 丁寧な言葉で話す。 			家庭 情緒 通常 全 通常 情緒	
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や会話、対話の大切さを理解する。 友達と会話を楽しむ。 自分から遊ぶ約束をする。 					<ul style="list-style-type: none"> 教師と自然に話す。 グループ活動時に自分の意見を発表する。 				<ul style="list-style-type: none"> 学級で意見や考えを述べる。 委員会や生徒会活動で意見を主張する。 弁論、スピーチコンテスト等に参加する。 			情緒 通常 全 学校 情緒 学級 学校 学校 全	
教科学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業の号令をかける。 呼名や指名に対し、返事をする。 教科書等を音読する。 					<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見、主張を述べる。 				<ul style="list-style-type: none"> 質問や反対意見を述べる。 			情緒 通常 情緒 通常 通常 学校	
運動機能	<ul style="list-style-type: none"> 準備運動や決められた数の運動を行う時は、声を出す。 					<ul style="list-style-type: none"> チームゲームやグループ活動の時は、応援したり声をかけたりして励まし合いながらコミュニケーションを図る。 				<ul style="list-style-type: none"> 怪我や事故などに気が付いた場合、速やかに自分で報告する。 			情緒 通常 通常 通常	
養護・訓 練	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で、会話や対話の範囲を広げる。 					<ul style="list-style-type: none"> 対人関係を広めるために、会話や対話が重要であることに気付く。 				<ul style="list-style-type: none"> 関係する誰とも自然に会話できる。 			情緒 学校 全	

平成9年度 短期個別指導目標・計画・評価

学年・組	第3学年〇組	作成責任者	〇 〇 〇 〇	作成日	9年〇月〇〇日
氏名	〇 〇 〇 〇	評価者	〇〇, 〇〇, 〇〇	記入日	9年〇月〇〇日
領域	指導目標	指導計画	評価		場
			達成状況	備考	
基本的生 活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 朝の挨拶ができる。 呼名, 指名に対し, 返事をする。 食事の時の挨拶を唱和する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おはようございます」が言える。 健康観察の時, 「はい」と返事する。 食事の時, 「いただきます」, 「ごちそうさま」が言える。 	<ul style="list-style-type: none"> △ ○ ◎ 	<ul style="list-style-type: none"> 学級での挨拶は声が小さく, 聞こえない時が多かった。 	家庭 通常 通常
社会生活	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や話合いの大切さを理解する。 友達に自分の考えを話し, 会話を楽しむ 自分から遊ぶ約束をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すことにより, 対人関係を広めたり, 深めたりする。 遊びや勉強の計画を立て, 皆に話す。 会話したり, 電話をかけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> △ ○ △ 	<ul style="list-style-type: none"> 会話する相手が通常学級の一部の友達だけだった。 電話はかけるより, かかってくる方が多かった 	情緒 通常 家庭 通常
教科学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業の時, 号令をかける。 呼名や指名に対し, 返事をする。 教科書などを音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> 当番の時, 号令(起立, 礼, 着席)をかける。 呼名や指名に対し, 必ず「はい」と返事をする。 日記や感想文を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ △ 	<ul style="list-style-type: none"> 「音読」は, 1対1の時だけできるが, 他のメンバーがいる時はできなかった 	情緒 通常 情緒 情緒
運動機能	<ul style="list-style-type: none"> 準備運動や決められた数を行う時は, 協力して声を合わせて行う。 怪我や事故などに気が付いた場合, 自分で報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> バドミントンや卓球ゲームでポイントを数え合う。 異変に気づき, 速やかに適切な処置をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ○ 		情緒 通常
養護・訓練	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で, 楽しく話ができる雰囲気をつくり, 会話や対話の範囲を広める。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム的な要素を取り入れた授業の中でのびのびと自分らしさを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分を取り囲む人たちとの会話は増えたが, まだ自発的とはいえない。 	情緒

* 達成状況は◎(十分達成), ○(ほぼ達成), △(達成不十分), △は備考欄に具体的に記入。

指導期日 ○月○日 ○校時
 指導場所 ○○○○教室
 指導者名 ○ ○ ○ ○

1 題材 正しい言葉遣い（電話を使って）

2 題材設定の理由

言葉は相手とコミュニケーションを図る手だてとして最も有効な手段である。マスメディアの発達に伴い、テレビ・ラジオの音声や雑誌等を媒体として、流行語はいち早く生徒たちの耳に伝わる。また、「ら」抜き言葉や平成語調といった新語も登場し、使用されている。
 本学級に在籍又は通級してくる生徒たちは、場面かん黙傾向や不登校気味であり、対人（特に友達との）関係がうまくいっていない者が多いが、上記の言葉は知っている。
 そこで、話すことに慣れ、相手との対応の仕方を考えるために電話を活用し、正しい言葉遣いを身に付けることができるよう、この題材を設定した。

3 目標

(1) 全体目標

- 相手に応じて適切な言葉遣いをすることができる。
- 日常生活の中で、有効に電話を活用しようとする態度を身に付けることができる。

(2) 個別目標

氏名	短期個別目標	題材における個別指導目標
A	・録音機など、言葉によってコミュニケーションを図る。	・教師と自然に話すことができる。
B	・自分から積極的に行動する。	・友達を誘うことができる。
C	・丁寧な言葉遣いを身に付ける。	・丁寧な言葉で対応ができる。

4 指導計画

時間	指導内容		
	A	B	C
1	・学習のめあてを知る。		
	・模擬電話の会話を聞く。	・模擬電話で会話をする。	
2	・電話応対の練習をする。		・丁寧語について学習する。
3	・先生と模擬電話で話す。	・模擬電話を使って、丁寧な言葉で話す。	
4	・丁寧な言葉で話す練習をする。		・会話を録音し、言葉遣いを確認する。
5			
⑥	・丁寧な言葉で先生と会話し録音する。	・役割を決め、交替しながら丁寧に会話する。	
7			
8	・学習した言葉を使って、電話をかけてみる。		
9	・電話の活用について話し合う。（自分の電話帳、公衆電話の使い方、エチケットなど）		
	・家庭生活での一般化を図る。		

5 生徒の実態

氏名	性別	学年	実態
A	男	3	・場面かん黙傾向にあり、人前ではほとんど話すことはない。 ・自分から電話することはほとんどないし、受け答えもしない。
B	女	1	・集団の中ではかん黙で、自分の意見を言うことができない。 ・電話の受け答えは一応できる。自分から電話することはほとんどない。
C	女	2	・社交的であるが、言葉遣いが乱暴である。 ・よく電話を利用している。

6 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標

- 電話を使用した時、相手に応じて適切な言葉遣いで話すことができる。
- 日々の生活で、有効に電話を活用しようとする態度を身に付けることができる。

イ 個別目標

A	・目上の人と電話を使って、話すことができる。
B	・いろいろな場面を想定して、電話の受け答えができる。
C	・丁寧な言葉で電話の受け答えができる。

(2) 展開

学 習 内 容 ・ 活 動			支 援 ・ 評 価
1 はじめの挨拶をする。 2 本時の学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ていねいな言葉を使って、電話で話そう </div>			<ul style="list-style-type: none"> ・Aが号令をかける。 ・聞こえるような声なら、誉めて励ます。 ・課題はBが読み、その後みんなで唱和する。 <p>評価</p> <p>めあてをきちんとつかみ、大きな声で唱和することができたか。(全観察)</p>
3 課題別に電話をかける練習をする。			<ul style="list-style-type: none"> ・二人組になり、それぞれ役割を決めて会話の練習をする。 ・Aには、教師が相手役になり、目上の人を想定して練習する。 ・緊張感がある時はリラクスマッサージをする。 <p>評価</p> <p>先生との会話でも緊張することなく話をすることができたか。(A行動観察)</p> <p>会話の内容を録音する。 WYP</p> <p>評価</p> <p>できるだけていねいな言葉で話すことができたか。(B・Cテープ分析)</p> <p>それぞれテープを聞き、感想を述べ合う。</p> <p>チェックカードで、できたところに○をつけ、誉めるようにする。</p> <p>立場を変えて行うことによって、両方の立場を理解させたい。</p> <p>評価</p> <p>役割を交替しても、自然に会話することができたか。(A行動観察)</p> <p>評価</p> <p>できるだけ丁寧な言葉で話すことができたか。(B・Cテープ分析)</p> <p>同じように、会話の内容を録音する。</p> <p>それぞれテープを聞き、感想を発表し合う。</p> <p>評価</p> <p>チェックカードが生かせるような活動していたか。(全カード)</p> <p>評価</p> <p>電話の活用や言葉遣いについて、学んだことを生かそうとする意欲がもてたか。(全発表、観察)</p> <p>・終わりのあいさつはAが行う。</p>
A	B	C	
<ul style="list-style-type: none"> ○先生からの電話を受け、それに対応する練習をする。 ・目上の人へのあいさつ ・相手に応じた話し方 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手や時間など、いろいろな場面を変えて電話をかける練習をする。 ・友人に ・先生に ・家の人の知り合いに 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉遣いを考えて、受け答えする。 ・「はい、○○です。」 ・「○○にかかります。」 	
○役割を交替して、練習する。			
<ul style="list-style-type: none"> ○先生に電話をかける練習をする。 ・挨拶 ・話の手順 ・電話の切り方 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手や時間など、いろいろな場面を変えて電話を受ける練習をする。 ・友人から ・先生から ・家の人の知り合いから 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉遣いを考えて、電話をかける練習をする。 ・「もしもし、○○ですが、□□さんは、いらっしゃいますか。」 ・「□□さんに用事がありますので、お願いします。」 	
4 その他、電話で困ったことなどがあれば話し合う。 ・伝言を頼まれた。			
5 本時のまとめをする。			

4 盲学校

(1) 作成マニュアル

ア 個別指導計画について

① プロフィール
(様式1)

<記入者：担任>

- ・これまでに収集した基礎資料をもとに記入する。
- ・不足の情報に関しては、連絡帳やその他の方法により確認をして記入する。
- ・保護者や担任の負担軽減のために、学年が替わるたびに重複した内容を記入しないように配慮する。

② 長期個別指導目標
(様式2)

<記入者：担任>

- ・長期個別指導目標の原案は、前年度の申し送り事項や資料をもとに作成する。
- ・できるだけ具体的で実現可能な目標とする。
- ・将来像を見通した長期目標を設定する。
- ・優先目標(○)と最優先目標(◎)とに分けて表記し、どのくらいの期間か、またどの教科で取り扱うかを必要に応じて明記する。
- ・保護者、寄宿舍等の連携が必要な部分については確認を行う。
- ・学部会等で確認し、教科・領域担当者との共通理解を図る。

③ 個別年間指導計画
(様式3)

<記入者：教科

・領域担当者>

- ・長期個別指導目標について共通理解を得た上で、教科・領域ごとに指導目標を設定し、単元・題材名とその期間、必要に応じて指導(学習)内容から成る個別年間指導計画を作成する。
- ・担任に1部コピーを提出し、担任との共通理解を図る。

④ 短期個別指導目標
・計画・評価
(様式4)

<記入者：教科

・領域担当者>

- ・各担当者が、教科・領域の年間指導目標を受けて作成する。
- ・作成に当たっては、単元、学期、月、週案が考えられるが、児童生徒の実態に合わせて適切な期間で考える。
- ・具体的な指導(学習)内容、手だて、児童生徒の評価や変容などを記録として残せるようにする。

イ 学習指導案について

- (ア) 単元・題材の個別指導目標は、単元・題材の全体目標及び短期個別指導目標をもとに設定し、児童生徒個々に明記する。その際に、短期個別指導目標のどの部分を、あるいはどの部分を重点的に本単元・題材で目標とするのかを押える。
- (イ) 本時の指導の展開においては個別指導目標を達成するための具体的な支援策を記述する。
- (ウ) 評価については、評価方法を記入し、できた場合、できなかった場合の支援策を記述することで、次時の学習へつながる評価が得られるようにする。

(2) 情報を適切に読み取る力を付けたい生徒（中学部第1学年）の事例

ア 実践の概要

(7) 指導計画を作成するにあたって

- 本児は、小学部5年の時、居住地にある小学校から本校へ転入してきた。視覚情報の入手は厳しい状態にある弱視児であるが、プロフィールからも分かるように年齢相応の社会生活能力があり、日常生活面では特に不自由さを訴えることはない。しかしながら、学習場面においては、漢字や図・絵などの資料を適切に認知できない、文章がスムーズに読めない、また、曖昧な見方に慣れてしまっていて正確にとらえようとする意欲や姿勢に欠けるといった実態があった。進路のことを考えて、両親もこの現実を不安に思い、何とか改善できないものかと、学校と共通の課題意識をもつようになった。
- プロフィールについては、母親や眼科の主治医、養護教諭から生徒の眼疾や見え方についての情報や所見を得たり、他の職員との情報交換を通して作成した。また、諸検査や保護者の願いなども、生徒の姿をより客観的に総合的にとらえ、指導の方向性を明確にするための資料となった。
- 長期個別指導目標の設定にあたっては、落ち込んでいる点の改善を図るといった点から、生徒の視力・眼疾や見え方の特徴を鑑み、視知覚訓練や視覚補助具の使用技術の習得により、視力を活用する方向で、正しく情報を見たりスムーズに読む力を付けていくのか、あるいは、音声や拡大機能の備わった最新の機器を最大限に利用することで視力を当てにしない方向で学習能率を高めていく方がよいのか大変迷った。最終的には、まだ物を見ることの訓練が十分なされていないという事実や発達段階における可能性、障害がある以上晴眼者より、より多くの労力が必要とされる現実に向き合ってがんばってほしいといった願いを込めて、前者を設定した。
- 長期個別指導目標が明確になったことで、担当教科において、目標を達成するためのステップ、指導事項や期間が個別年間指導計画上で整理され、さらに、段階的で具体的な指導目標、指導内容、支援の方法などが明らかになり、それらを短期個別指導目標・計画として設定することができた。

(1) 実践にあたって・・・学習指導案の作成

- 単元・題材の目標設定に当たっては、短期個別指導目標から重点的にあるいは継続的に指導すべき目標を、個別目標として取り上げた。担当する英語科の授業は、音声教材を主に展開できる教科ではあるが、絵などの資料を読み取って運用練習ができることを重点的な目標とした。
- 実際の指導場面における具体的な支援策は目標達成と関連して一貫性をもつものとしたがその方法は生徒の変容や評価によって常に工夫改善されるべきものと考えた。視覚補助具の利用や、視点についてアドバイスを与えながら、生徒が得た情報を確認し、繰り返し丁寧に読み取らせることで、自分なりのベストな見方を模索するための支援を行い、読み取ることへの意欲を高めたいと考えた。

(7) まとめと今後の課題

- 個別指導計画作成を通して、本児の姿をよりの確にとらえることができた。また、目標達成のために授業などの実際の指導の場で常に課題が意識され、活動内容や援助が吟味されることで、より適切な指導が行われるのではないかとと思われる。また、教科・領域担当者間で共通理解や情報交換が図られることにより、調和のとれた支援がなされ相乗効果が期待できると考える。
- 今後の課題としては、作成した個別指導計画に作成者なりの工夫・改善が加えられ、実際に担当者間で活用されることである。そして、担任や学部が変わっても、課題が引き継がれることで無駄なくステップアップした指導が行われるという点で児童生徒に還元されることである。

プロフィール

(様式1)

平成9年度 中学部 入学 ・ 第()学年転入学 ・ 第()学年編入				記	
生徒氏名	〇〇 〇〇 (男・女) 昭和59年〇月〇〇日生	保護者名	〇〇 〇〇	入	〇〇 〇〇
現 住 地	(〇〇〇-〇〇) 茨城県〇〇市〇〇 〇〇-〇番地 (電話〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇)				
家 族 構 成	氏 名	続柄	生 年 月 日	職業・勤務先	備 考
	〇〇 〇〇	父	昭和〇〇. 〇. 〇〇	会社員	
	〇〇	母	昭和〇〇. 〇. 〇〇	パート	
	〇〇	妹	昭和〇〇. 〇. 〇〇	平成9年度現在小学〇年	
身障者手帳	二種5級【番号(茨)〇〇〇〇〇】 (疾病による 平成 7年〇月 〇日交付)		入学前教育歴	〇〇市〇〇小学校入学 種〇年〇月 本校小学部転入学 種〇年〇月	
	療育手帳	諸 検査実施期日	検 査 結 果		
査 平成8. 5. 29		WISC-R知能検査 VIQ (89) PIQ (62) FIQ (74)			
	査 平成9. 10. 31	S-M社会生活能力検査 SA 13歳 0か月			

健 康 の 記 録	障害名	〇〇〇〇		視覚障害及び主な障害の疾病歴			
	視機能 眼疾・ 視力等	(〇〇〇〇〇〇〇〇〇)		年月日	歳/性別	治療状況診断	経 過
		遠距離視力	近距離視力	H4.0.0	〇〇眼科 〇〇先生	検診にて視力 障害を指摘さ れ、〇〇〇〇 〇〇〇〇と 判明。	経過観察を行っ ていたが、H7. 〇月 頃より視力低下が 著しくなる。 年1回(夏休み) 〇〇〇にて検査。
		右 0.04 右 左 0.04 左 両眼 0.05 両眼					
血液型	B	平熱	36.1				
継続治療 している疾病	病名			病院名	主治医		
	服用薬	朝 昼 晩 その他()		薬名()			

地域環境に関する記録				自宅周辺の地図(目標となるものを記入)	
自宅より学 校までの利 用交通機関 及び 所要時間	経 路	交通機関	所要時間		
	自宅~〇〇駅	自家用車	10分		
	〇〇駅~〇〇駅	電 車	10分		
	〇〇駅~盲学校	バ ス	25分		
所要時間	所要時間(片道)		時間	45分	
地域環境の 特徴及び 特記事項	幹線道路近くの集合住宅の1階に住んでいる。前方に小さな商店街、後方に住宅地が広がる。アパートの造りから私的に使える部屋はなく、常に両親の目の届く範囲内で行き届いた生活を送っている様子がうかがえる。休日は近所の友人と遊んだりしていたが、中学生になりみんな部活動で忙しくなったため、ひとりでTVゲームをして過ごすことが多くなった。家族で活動する機会を増やそうと、両親はいろいろと計画を立てている。				

保護者面談/家庭訪問の記録(保護者の要望)					
学年	期日	面 談 事 項	所 見	點 銘	面談者
中学部 一年	4/9	入学時面談 ・視覚障害の状態について ・中学部での学習・生活について (学習形態、部活動等) ・家庭での様子 ・学校への要望	・教科書を読むことが困難であり、すぐに目が 疲れてしまうので、今後の学習面に不安を抱 いている。小学部では、養訓の時間に点字につ いても学習していた。 ・運動することが大好きで、本人も得意として いるので、部活動に参加することをとても楽し みにしている。自力通学の点で、問題はない。 ・休日は、前籍校の友人と遊んだりしている。	〇〇	母
中学部 二年					
中学部 三年					

生徒の能力の分析		のりしろ																																																																																																																								
<table border="1"> <tr> <td>項 目</td> <td colspan="14">S-M社会生活能力検査 領域別社会生活年齢</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td> </tr> <tr> <td>歩行自立(SH)</td> <td colspan="14">_____</td> </tr> <tr> <td>移動力(L)</td> <td colspan="14">_____</td> </tr> <tr> <td>作業力(O)</td> <td colspan="14">_____</td> </tr> <tr> <td>食生活力(C)</td> <td colspan="14">_____</td> </tr> <tr> <td>集団参加(S)</td> <td colspan="14">_____</td> </tr> <tr> <td>自己説明(SD)</td> <td colspan="14">_____</td> </tr> </table>		項 目	S-M社会生活能力検査 領域別社会生活年齢															0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	歩行自立(SH)	_____														移動力(L)	_____														作業力(O)	_____														食生活力(C)	_____														集団参加(S)	_____														自己説明(SD)	_____														<p>総合所見(平成9年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単一障害 (使用文字…墨字) 裸眼では20ポイントの活字なら識別できるが、複雑な漢字については困難である。本人は28~32ポイントの大ゴシック体の活字を好むが、疲れるので文章を読むことに抵抗を示す。拡大読書器は進んで利用するが、弱視レンズの使用には慣れていない。 日常生活面においては、信号や標示等を見る際に視覚からの情報入手は難しいがそれらを補う知識・技能を獲得しているため、不自由さを訴えることはない。 集団活動においては、周りの様子をうかがいながら、みんなに合わせた行動がとれる。未経験の活動に対しては、不安を示す。
項 目	S-M社会生活能力検査 領域別社会生活年齢																																																																																																																									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																																																																												
歩行自立(SH)	_____																																																																																																																									
移動力(L)	_____																																																																																																																									
作業力(O)	_____																																																																																																																									
食生活力(C)	_____																																																																																																																									
集団参加(S)	_____																																																																																																																									
自己説明(SD)	_____																																																																																																																									
中学1年 中学2年 中学3年																																																																																																																										

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

中学部1年 場面	氏名	作成者	作成日
	○○○○	○○○○	平成9年○月○日
項目	学 校		家 庭
	指 導 目 標		目 標 等
視覚障害面	<ul style="list-style-type: none"> ◎拡大読書器や弱視レンズ等の視覚補助具の使用技術を身に付け、対象物や文字資料などの視覚情報を、適切に得ることができる。 ○視経験を拡大する。 ○不完全な視覚情報を聴覚その他の感覚を補助的に使って補おうとする姿勢や態度及び技能を身に付ける。 ○学習・生活場面において、適切な教材・視覚補助具の活用や援助を通して「見えにくい」ことからくるストレスを解放することができる。 ○眼疾の特性を知り、健康管理ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○TVゲームを長時間するなど、目を疲れさせるようなことは避けて生活することができる。 ○安全に気を付けて生活することができる。
教科学習面	<ul style="list-style-type: none"> ◎各教科の学習場面において、弱視レンズを意図的に訓練的に使わせることによりレンズを使ってスムーズに読んだり、文字を正確に書いたりできる。 ○適切な教材(拡大教材等)、視覚補助具などの活用により、自分なりに工夫して情報をとらえようとしたり、集中して課題に取り組もうとすることができる。 ○学習集団に変化をもたせることにより、より多くの刺激を受けて考え、行動したり、自分の考えを整理して話したりすることができる。 ○基礎学力をつける。 		<ul style="list-style-type: none"> ◎拡大教材、視覚補助具を利用して、自力で家庭学習に取り組むことができる。 ○家庭学習の習慣をつけることができる。
生活行動面	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りの整理・整頓がきちんとできる ○話を聞く時は、手遊びをせず、よい姿勢で聞くことができる。 ○依存的傾向が強いので、自分で考え行動することができる。 ○集団の中でも生き生きと自己表現ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ◎自分でできることは、家族を当てにせず、自分ですることができる。 ○姿勢に注意を払い生活することができる。 ○家族と共にいろいろな経験をすることができる。
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○本人の興味・関心や、得意とする面、よい点を認め、励ますことにより、自信を付けさせる。 		

◎最優先目標 ○優先目標

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

整理番号	⑨	教科・領域	英 語	作成者 (作成日)	○ ○ ○ ○ (平成9年○月○日)
学年	氏 名	学年	氏 名	指導者名	同 上
1年	○○ ○○				

教科・領域ごとの年間指導目標	<p>・できる。が。と。めることができる。</p> <p>・こまめな。高。めることができる。</p> <p>・すががき。で。意。得。と。と。と。の。習。こ。が。こ。へ。を。む。と。で。つ。習。す。こ。が。持。字。り。り。く。と。を。綴。た。し。書。し。味。て。し。知。て。る。興。じ。字。話。認。し。す。に。通。文。で。に。意。用。と。を。や。っ。確。注。活。な。動。音。使。止。に。を。化。活。発。を。を。を。ス。書。文。の。現。ン。辞。・。ソ。表。字。ラ。和。價。シ。て。し。の。や。・。ケ。い。習。句。字。報。活。二。つ。学。語。文。情。生。ユ。に。の。の。の。ミ。語。り。文。や。と。国。コ。単。た。英。り。な。外。の。英。し。の。ま。図。と。や。解。ル。き。・。徒。と。ト。理。へ。の。真。し。生。ッ。て。し。時。写。通。の。べ。い。文。く。・。を。他。を。ア。聞。本。書。ト。習。や。・。力。度。フ。を。書。を。ス。学。す。る。疲。態。ル。語。科。文。ラ。語。し。き。性。習。ア。英。教。英。イ。英。A。で。眼。学。</p>
----------------	--

学期	月	単元 / 題材名	学習内容 (言語材料等)
一 学 期	4月	<Hello, English> <こんにちは！>	簡単なあいさつ/身近な物の名前 アルファベット(文字の形と発音)/ <u>教室英語</u> <u>英語の歌</u>
	5月	<ようこそ, グリーン先生> <あれは工場> 《アルファベットゲーム》	自己紹介, 初対面のあいさつ/教科書の構成と登録補助員の活用 身近(離れた所)にあるもの/紹介の仕方 単語カード読み・英単語調べ
	6月	<グリーン先生の初授業> 《ALTとのお別れ会》 <これはだれ?>	一般動詞を用いた文/書く時のルール 別れのあいさつ/アイルランドの料理 Who, What, Howを含む疑問文/イラストの情報処理
	7月	<マリオの年齢は?> <今日は何曜日?> 《動作をしよう》	「～は～だ(形容詞)」という言い方 曜日の尋ね方とその答え方 簡単な動作の命令や依頼
二 学 期	9月	<部屋を見て推理しよう> <謎のマシン> 《Japanese Pop Music》	三単現の平叙文 " の疑問文・応答文, 否定文 歌謡曲の中の英語
	10月	<コロンの友達> <ここはどこ?あなたは誰?> 《ハロウィーン》	場所を尋ねる表現・場所や位置を示す表現 代名詞の目的格 ハロウィーンパーティーとゲーム
	11月	<今, 何時?> <未来の学校> 《ヨーロッパの国々》	天気や時刻に関する表現 Whoseを含む疑問文と応答
三 学 期	12月	<ある日曜の街> <エイリアン襲来?!> <ジョンの腕前拝見>	現在進行形の平叙文 現在進行形の疑問文・応答文 助動詞canの用法
	1月	<月世界より> <きのう英語を勉強した?> 《冬休みに何をした?》	英文の暗唱/英和辞書 規則動詞の過去形/英文日記の基本的な形式 日本やイギリスの冬休み
	2月	<帰還> <21世紀からのメッセージ>	不規則動詞の過去形 英文手紙の基本的な書式/ALTへの礼状 メッセージから考える
3月	<まとめと復習>	1年の復習	

<教科書からの題材> 《ALTとの授業における題材》

平成9年度 短期個別指導目標・計画・評価

(株式4)

				教科名	英語	
中学部1年	氏名	○ ○ ○ ○	作成者	○ ○ ○ ○	作成日	平成9年○月○日

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットや英単語を覚え、正しく読んだり、書いたりすることができる。 ・注意して聞き、英語の音声に慣れることができる。 ・覚えた表現を使って話すことができる。 ・教科書の資料を用いて運用練習ができる。 ・学習のパターンに慣れ、楽しく活動できる。
------	---

月	題材・目標・学習内容	指導・援助の手だて・配慮事項	指導の記録・評価
4月	<p><Hello, English></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットや身近な物の名前などの英語を聞く。 <p><こんにちは!></p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で簡単なあいさつ、自己紹介をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊びをせず、集中して聞くように配慮する。 ・十分に聞かせてから言わせ、また、それら一連の活動がスムーズにできるようにさせたい。 ・アルファベットの文字習得の初期段階なので、形や大文字・小文字のバランスに注意して繰り返し書かせ、やがて視力をあまり使わなくても書けるようにさせたい。 ・教科書の構成を理解することにより、見る箇所をすばやく絞り込むことができるようさせる。見る箇所によって適切な視覚補助具を使わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの物を英語で何というかわかっているが、発音やアクセントについては不十分であった。
5月	<p><ようこそ、グリーン先生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初対面のあいさつができる。 ・教科書の構成について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのもので積極的に表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の活字のQとQが、読み間違いやすい。文字を書く時に線のつながりが十分でないのでレンズを使って書くように進めるが、慣れないため嫌がる。 ・教科書の構成について知り、「題語句、本文、目標文、練習問題」などの指示にすばやく対応できる。
6月	<p><あれは工場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・This is～ That is～の言い方と使い分けができる。 《アルファベットゲーム》 ・アルファベットの文字で始まる単語探しゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとの活動は、学習したことを実際に使う場としたい。 ・アルファベットゲーム等を通じ、文字（綴り）と音（発音）の関係に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大読書器は自分から使おうとするが、手軽なレンズは面倒だと言って使おうとしない。読む活動には、大変な労力と集中力が必要とされることが観察により分かる。 ・ALTとの授業にも、緊張することもなく参加でき、ゲームで答えることができると、喜びを表現してくる。（中1～中3全員参加で） ・慣れないせいもあり綴りと発音の関係は難しい。丁寧に繰り返し指導する必要あり。アクセントのない単語は本当に通じないのか自主的にALTで試していた。
7月	<p><グリーン先生の初授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・語順を意識し、一般動詞を用いて自分の好みやすることを選んで言うことができる。 ・自分のことを紹介する英文を書く。 <p><これはだれ?></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wh-で始まる疑問詞を使って、尋ねたり、それに応じたりすることができる。 <p><マリオの年齢は></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことについて「～は～だ（形容詞）」と言うことができる。 <p><今日は何曜日?></p> <ul style="list-style-type: none"> ・曜日を尋ねたり、それに答えたりする言い方が分かる。 《動作をしよう》 ・簡単な依頼や命令を聞いて、動作をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある物、人物の一部分を見て全体をとらえる教材（資料）を利用しゲーム感覚ではあるが、正確に物を見ようとする態度を育てたい。 ・歌などを利用して覚えさせる。 ・Classroom Englishとして扱い慣れさせたい。 ・エクササイズ感覚で楽しく活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大まかにとらえることに慣れているため、資料をきちんと見ようとせず、適当に答える。資料の細かい点に注意を向けさせ説明を加える必要があった。 ・反復練習により、曜日を言ったり読んだりできるようになった。 ・音声中心に速いテンポで行われるために、注意して聞こうとする。

中学部 第1学年 英語科学習指導案

講師・囃 ○月○日(第○校時)
 指導場所 中学部 1年教室
 指導者名 ○ ○ ○ ○

1 題材 Unit 3 グリーン先生の初授業 (NEW HORIZON English Course 1)

2 題材設定の理由

中学部1年一般学級在籍者は1名で、小5の時に小学校から本校へ転校してきた準ずる教育課程の弱視生であるが、拡大教材文の読速度、弱視レンズなどの視覚補助具を使用しての文字や図などの資料の認知が十分でなく、これらを改善していくことが、教科学習を進める上で最優先される共通の課題である。

英語科では、英語の音声や文字学習の導入期にあたるこの時期に、単語カードを用いて視覚的ノイズを除去しアルファベットの文字を認知させたり、弱視レンズを使って正確にとらえさせるなど、生徒の実態に合わせて訓練的な活動を組み入れている。また、英語を使ってコミュニケーションする楽しさを味わわせることを目的としたALTとのTTによる中学1～3年合同の音声中心の授業を行ったりしている。題材については、トピック的な題材を設定するALTとの授業以外では、教科書の題材を中心に扱い、生徒自身がそれらの内容を適切にとらえ、活用できる力をつけていきたいと考える。

本題材では、一般動詞が導入されることにより、英文を構成する語の語順について注目し、直読・直解に慣れさせ、英語で相手のことを尋ねたり自分のことを表現できる範囲を拡大するとともに、視覚的な資料などを活用して運用練習ができるようにさせたい。

3 目標

(1) 全体目標

- 一般動詞を使って、自分の好きなこと、自分がすることを表現することができる。
- 自分のことを紹介するためのある程度まとまった英文を書くことができる。

(2) 個別目標

短期個別指導目標	題材における個別指導目標
○覚えた表現を使って話すことができる。 ○教科書の資料を用いて運用練習ができる。	○一般動詞を使って、自分の好きなことをすること、知ってることについて言ったり、尋ねたりするなど、口頭で表現できる。 ○教科書の構成を理解し、視覚補助具等を使って資料を読み取り、運用練習ができる ○英文の語順について知り、直読・直解できる。 ○英文の書き方の基本的なルールが理解できる。

4 指導計画 (6時間扱い)

- 第一次 一般動詞の平叙文、否定文の理解と運用…………… 2時間
- 第二次 一般動詞の疑問文とその応答文の理解と運用…………… 2時間(本時は1時)
- 第三次 書き方の基本的なルールの理解…………… 1時間
- 第四次 英語で自己紹介文を書く…………… 1時間

5 生徒の実態

氏名	性別	視力・使用文字	実 態
A	男	両眼 0.05 最大視認力 0.2(6cm) 墨字使用	「読む」、「書く」活動には目の疲れを訴え集中しないが、「聞く」能力は優れている。目標とする表現を覚えて、口ずさんでいるのを耳にする。教科書の本文の活字の大きさは28級あるため積極的にではないが読もうとする。学習した表現を使って自分が本当に表現したいことを言おうとする姿勢がみられる。

6 本時の指導

(1) 目標

- 「あなたは～を知っていますか」と尋ねたり，答えたりする言い方がわかる。
- イラストを見て，目標となる表現を使い，口頭で尋ねたり答えたりできる。

(2) 展 開

学 習 内 容 ・ 活 動	支 援 と 評 価
<p>1 始めのあいさつをする。 S: Hello, Ms. ～ . How are you? T: I'm fine, thank you. And you? S: Fine, thank you.</p> <p>2 英語の歌を歌う。</p> <p>3 目標文を聞く。 Do you know (the name of) this song?</p> <p>4 目標文を用いて，口頭で聞きたいことを自由に質問する。 Do you know? ? my birthday?</p> <p>5 目標文を読む。 (1) 一語一語レンズで確認して読む。 (2) 教師の後について声を出して読む。</p> <p>6 イラストを見て対話をする。 (1) 見た絵を言葉でスケッチする。 (2) 例にならって対話する。 (like, playなどの動詞を用いて) A: Do you play tennis? B: Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>7 本時のまとめをする。 (1) インタビューカードを作る。 (2) homeworkと次時の予定について聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定番の表現活動であるが，生徒からあいさつを始めることにより，コミュニケーションの際のタイミングを学ばせる。 ・ 簡単なフレーズを取り上げ，部分的に歌わせるようにする。英語のリズムや音声に慣れさせるとともに「声を出して英語の勉強だ。」といった気持ちを喚起させる。 ・ 人気のある歌謡曲の最初の部分を聞かせ，曲名や歌手名について知っているかどうか，英語で尋ねる。質問の意味が理解できないときは，目的語をかえて質問したり，knowの意味を与えたりする。「～を知っていますか。」と尋ねている表現であることがとらえられたか確認する。 ・ 表現に必要な未習の語については，その都度カードを与え，書き表すことにより，D o の存在とrising intonationを意識させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[評価] 「～を知っていますか。」と尋ねる言い方がわかり，それらの表現を使って聞きたいことが尋ねられているか。(発表)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を開き，目標文が載ってる箇所を捜しレンズを使って見るといった一連の動作を素早く行うことができるように促す。 ・ 書かれた文章で確認することにより音声を文字化する。教科書の活字のとりについては識別が難しいので，あらかじめ手を加えておく。 ・ 目標文の文字はサイズが小さいので，裸眼では見えにくいことを指摘し，レンズを使って見るように励ます。 ・ 応答文は比較的短いので，何度も声に出して言うことによりこの場で確実に覚えさせたい。 ・ イラストは，全体的にとらえる必要があるの で必要に応じて拡大読書器を使わせたり，内容を理解するための視点についてアドバイスを する。 ・ お互いに聞き合うことで，この活動が一方通行にならないようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[評価] イラストをもとに対話できたか。意欲的に 行っているか。(発表，観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達やALTに質問するために，質問事項を書き出させておく。 ・ 次回は，本文の読みを中心に行うことを話す。

7 聾学校

(1) 作成マニュアル

ア 個別指導計画について

- ・これまで収集した基礎資料をもとに記入する。
- ① プロフィール ・不足の情報に関しては、保護者や専門機関などへ確認をして記入する。

(様式1)

<記入者：担任>

- ・プロフィールをもとに、聴覚障害面・教科学習面・生活行動面の3領域について実態を踏まえながら、将来像を見通し、実現可能な指導目標（最優先目標、優先目標）を設定する。
- ② 長期個別指導目標

(様式2)

<記入者：担任>

- ・各担当で検討し、学年会、学部会などで確認し、共通理解を図る。
- ・保護者や寄宿舍と連携し、目標の共通理解を図り、家庭や寄宿舍で指導できることを確認する。
- ・長期個別指導目標をもとに、教科領域ごとに指導目標を設定し、個別年間指導計画を作成する。
- ③ 個別年間指導計画 ・担任に1部コピーを提出し、共通理解を図る。

(様式3)

<記入者：教科領域担当者>

- ・個別年間指導計画をもとに具体的に作成する。
- ④ 短期個別指導目標 ・目標の設定及び計画の期間については、単元、学期、月、週が考えられるが、児童生徒の実態に合わせ、最も適切な期間で作成する。
- ・計画・評価 ・学習内容・方法・手だて、評価・変容を記録し、次の指導計画に生かせるようにする。

(様式4)

<記入者：教科領域担当者>

- ・各担当が評価したものを担任が集約し、指導の成果を把握する。なお、評価する際には、短期目標・手だての評価、自己評価や保護者の評価、チェックリストによる評価などにも留意する。

イ 学習指導案について

- (7) 単元における個別指導目標は、単元の全体目標や関連領域の目標などを受けて、児童生徒の長期・短期個別指導目標と一貫性をもたせて設定する。その際、短期個別指導目標のどの部分を本単元で目標とするのかをきちんと押さえる。
- (イ) 短期個別指導目標と単元における個別指導目標について、短期として設定する期間より、単元を取り扱う期間の方が長期の場合は、単元の目標が大きくなってしまふことも考えられるが、これについては柔軟に対応する。
- (ウ) 本時の指導の展開において、集団指導の中での個別への配慮・支援を具体的に記述する。その際、できなかった場合の支援策も記述する。

(2) 意欲的にコミュニケーションさせたい児童（小学部第1学年）の事例

ア 実践の概要

(7) 指導計画を作成するにあたって

- 個別指導計画は、プロフィールをもとに具体化していった。聴覚の障害の程度はもちろんだが、そこから派生する二次的障害に着目して計画した。特に留意したこととして、言葉の遅れやコミュニケーションの障害、性格（長所・短所等を含む）や行動特性、そして本児の希望や保護者の願い等が挙げられよう。
- 本児はその障害の重さや家族構成等から、精神的な弱さがあり、言葉の獲得や定着のために重要な集団活動の場での積極的なコミュニケーションに課題がある。言語感覚や取り組みには素晴らしいものがあるだけに、これらの課題を解決することで、学習においても今以上の成果が期待される。もちろんそのためには、確かな発信方法の確立が不可欠であり、本児なりの発信手段の確立を目指しながら、集団活動の中で有為なコミュニケーションができるように配慮しなければならない。
- そこで今回は各科・統合的な指導である生活科を取り上げて、全人的な発達の観点から指導することとした。

(4) 実践にあたって……学習指導案の作成

- 実際の指導においては、特に具体的な活動の中で豊かなコミュニケーションが行えることに焦点をあてて学習指導案を作成し、指導した。指導の場は集団指導ではあるが、集団指導の中でいかに個に応じた指導を行うかが重要となる。
- 豊かなコミュニケーション活動を指導の中心とするということは、学習活動の中での様々なコミュニケーション場面で本児の発言を生かし、または各自の発言を本児が受け止め、応答することでさらに有為な話し合い活動に発展することにある。そのためには本児の実態を考慮し、言葉の表出においては聞き手に分かりやすく伝えるということ、受容においては理解しようという気持ちをもって聞くことを意識するように援助していった。
- 評価においても具体的な行動目標が達成できたかということだけにとらわれず、態度面での変容を重視するようにした。

(7) まとめと今後の課題

- 個別指導計画の利点は何と云っても、指導目標の明確化にある。このように個別指導計画があることで、集団の中において個々の児童の課題を明確にすることができ、個に応じた援助の方法が見い出され、発達の段階に応じた指導を行うことが可能となる。
- しかし一方で指導計画の個別化は、教職員の負担を増すということもまた事実である。負担を増すことで集団の指導がおろそかになってしまえば個別化の意味がなくなってしまう。これらを解決し、真の意味で個に配慮した指導を行うためには、指導の場の工夫や指導方法の工夫、例えばチームティーチングのより有機的な指導の在り方を研究するなど、また目標の重点化や指導内容の統合や精選などに留意することが今後の課題となるのではないかと考えられる。

プロフィール

(様式1)

氏名		〇〇 〇〇	部年	小学部1年2組	性別	男	生年月日	平成2年〇月〇日生	記入者	〇 〇 〇 〇	記入日	平成9年〇月〇日	保護者氏名	〇〇 〇〇	
現住所	〒 〒 電話														
障害名 診断名	聴覚障害(感音性難聴), 〇〇〇〇〇〇症候群							身障者 手帳	第1種2級 1〇34〇 交付 平成4・1・21						
家族構成	父, 母, 本児(小1)の3人家族														
生育歴 (疾患原因)	<ul style="list-style-type: none"> ・特に異常なし ・ワールデンブルグ症候群 														
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇メディカルセンター 														
入学前の 教育歴	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇県立聾学校〇〇〇分校 教育相談(平成5年9月~12月) ・本校教育相談(平成6年1月~3月 2ヶ月) ・本校幼稚部(平成6年~9年 3年) 														
疾病及び 健康面で 配慮すべ き事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 														
標準検査の記録															
	検査年月日	検査の名称	結果	検査者	備考										
幼稚部	8年6月11日	WPPSI	IQ(76) VIQ(61)PIQ(106)	〇〇〇〇											
	8年7月8日	絵画語い発達検査	VA 4歳2ヶ月	〇〇〇〇											
	8年7月8日	読書力診断検査	偏差値 63 評価点 4	〇〇〇〇											
聴力検査の記録															
学 年	検査年月日	聴力レベル (dB)													
		平均		左					右						
		左	右	250	500	1000	2000	4000	250	500	1000	2000	4000		
5歳児	8年12月17日	125	128	115	120	125	130	130	115	125	125	130	130		
1年	9年5月8日	123	124	115	120	125	120	125	110	120	125	125	125		
購入年月日	メーカー	機種		製造番号											
平成8年12月	リオン	HB75AL		6〇〇〇〇〇〇〇											
平成8年3月	ダナボックス	145DFS		R〇 〇〇〇〇〇											
補聴器装用時の聞こえの評価	補聴器を装用しても音のON・OFFが判断できる程度であり, 音の弁別ができる程ではない。しかし残存聴力を活用しようとする意識はあり, 言葉の受容は読話や手指サイン等視覚的な手がかりにより受容している。														
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に言語発達の遅れが見られるが, 主に指文字や文字から言葉を積極的に受容し, 覚えた言葉を使用しようとする意欲が高い。簡単な文章ならば, 読んで意味をとらえることもできるようになってきている。助詞や接続詞の誤りも多いが, 文章を書くことが好きで友達や教師と自分の経験したことを手紙でやりとりしたりする。 ・自然科学の分野に興味・関心が高く, 昆虫の飼育に熱心であり, また観察眼も鋭い。 ・数の取り扱いはやや苦手である。 														
行動特性	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく活発だが, やや自己中心的なところがある。聞こえにくいことの不安からか, ちょっとしたことでも落ち込んだり, 怒りっぽい等精神的に不安定になることがある。 ・物事に対する取り組みは非常に真面目で, 自主的・自発的に取り組める。 														
保護者の願 望 等	<ul style="list-style-type: none"> ・母親は本児の障害を素直に受け入れており, 親子の関係も非常に良い。また父親や祖父母も協力的であり, 本児の能力を最大限に伸ばしてあげたいと考えている。将来的には自分の障害を受け入れ, 障害に負けずに健常者の中で自立した生活が営めるようになってほしいと考えている。 														

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

部・年	小学部1年2組	氏名	〇〇 〇〇	作成者	〇〇 〇〇	作成日	平成9年 〇月〇日
項目	場面	学 校			家 庭		
		指 導 目 標 (指導の場)			目 標 等		
聴覚障害面		<p>◎聴覚に加え、口形、身振り、表情、手指サイン等の様々な手段から情報を得ようとする態度を確立する。 (学校生活全般)</p> <p>○補聴器の一般的な取り扱い方(ボリューム、スイッチの切り替え等)を理解し、操作できる。また大切に扱う気持ちをもつ。 (学校生活全般)</p> <p>○話し手の言葉に進んで耳を傾け、理解しようとする。またそれらに対し、自分なりに考えがもてる。 (学校生活全般)</p> <p>○聞き手を意識し、口形や補助的手段(身振り、表情、手指サイン等)を工夫して、聞き手に分かりやすく話そうとする。 (学校生活全般)</p> <p>○理解できない事や疑問に思ったことなど進んで質問することができる。 (学校生活全般)</p> <p>○発音に関する事。 (学校生活全般・養訓)</p>			<p>○特に聴覚口話による言葉の受容の態度を確立する。</p> <p>○保護者の援助のもと、適切に補聴器を使用・管理する。</p> <p>○はっきりと声を出し、助詞の欠落や構文の誤りに気を付けながら話す。</p> <p>○分からないこと、考えたことなど、何でも保護者と話し合う。</p>		
教科学習面		<p>◎簡単な文章等を読んで、内容を理解することができる。また内容を理解した上で考えたり、答えたりすることができる。 (教科学習全般)</p> <p>◎身近なことや経験を進んで話す。またある程度まとまりを考えて、文の形で話そうとする。 (国語・養訓)</p> <p>○話し合いの場面等では、進んで自分の考えを発表し、また他人の意見を踏まえてさらに考えを深めたり、考えを修正したりすることができる。 (教科学習全般)</p> <p>○平仮名、片仮名、一部の漢字が読め、また書くことができ、自分の身の回りのことや経験などを簡単な文章で書き表すことができる。 (国語)</p> <p>○数の取り扱いに関する事。 (算数)</p> <p>○様々な体験的活動に意欲的に取り組み、楽しさを味わうとともに、学習意欲を高める。 (生活科)</p>			<p>◎日常生活に必要な語いの習得に努める。</p> <p>◎学校での生活や学習について保護者と話し合い、伝えることの楽しさ、理解されることの喜びを味わう。</p> <p>○家庭学習に意欲的に取り組む</p> <p>○絵日記や手紙文を書くことで文章を書くことを楽しむ。</p>		
生活行動面		<p>◎場面によっては我慢したり、譲ったりすることを理解し、自己の気持ちがある程度コントロールすることができる。 (生活場面全般)</p> <p>○場面や状況における相手の気持ちを適切に推し量り、思いやりを持って接することができる。 (生活場面全般)</p> <p>○学年の友達や担任の教師ばかりでなく、上級生や担任以外の職員とも積極的に話し、自己の世界を広げようとする。 (生活場面全般)</p> <p>○自分の身の回りのことでできることは自分でしようとする気持ちを持ち、自立心を高める。 (生活場面全般)</p>			<p>◎家庭生活においても、できることは何でも取り組ませ、自立心を養う。</p> <p>○保護者だけでなく、親類や近所の友達など学校を離れた場面での交流を広げる。</p>		
その他		<p>○“〇〇〇〇”症候群により、明るいところではまぶしさを感じるので、自分の位置を工夫したり、帽子をかぶるなど工夫をする。</p>			<p>・採光における工夫と屋外での活動時の配慮をする。</p>		

◎ 最優先目標

○ 優先目標

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

教科・領域	生活	小学部1年	氏名	〇〇 〇〇	作成者	〇〇 〇〇	作成日	9年〇月〇日
-------	----	-------	----	-------	-----	-------	-----	--------

実 態	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学に関する事柄に関心が高く、特に昆虫や動物の知識は豊富である。自宅でもかぶと虫やくわがた虫、鈴虫などを熱心に飼育している。 ・一人っ子で兄弟とのかかわりがないこともあり、集団での遊びの中では遠慮したり、友達と争いが起こるとすぐに引いてしまったり、逆に大げさに怒ったりするなど、精神的にやや弱いところがある。 ・絵を描いたり、物を作ったりすることを好む。独創性があり個性的な作品を作る。 ・自分の経験したことは友達や教師に積極的に話す。
指導・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験的活動に意欲的に取り組み、楽しさを味わうとともに進んで活動しようとする。 ・経験した事柄を絵や文や劇などで表現し、内容を確かなものとする。またそうした表現活動の中で言葉の力やコミュニケーションの能力を高めていく。 ・身の回りの自然や社会に対する理解を深める。

学期	月	単元・題材	学 習 内 容 等
年 間 指 導 計 画	1 学 期	4 「校舎の中を探検しよう」 「新入生を迎える会」	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部の学習の場を探検し、小学生としての自覚と学習への意欲を高める。 ・入学した喜びを味わい、上級生や小学部の教員に慣れる ・恥ずかしがらずに、自分で考えた自己紹介をする。
		5 「春の遠足」	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館を見学し、自然に関する興味・関心を高める。またその経験を話し合ったり、作文を書いたりする。
		6 「きれいな花を咲かせよう」 「いきものともだち」	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔の種蒔きをし、観察記録をつける。 ・学校で飼育されている小動物を観察したり、絵を描いたりして、動物を大切にす。
		7 「学校探検」	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様々な場所を探検し、そこで働く職員の仕事などに関心をもつ。
指 導 計 画	2 学 期	9 「つくってあそぼう」 10 「いきものとなかよし」	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある物を利用して色々なおもちゃを作って遊ぶ。 ・牧場見学をし、牧場の様子、働く人の仕事などの理解を深める。また学習したことを文や絵でまとめる。
		11 「おちばがいっぱい」	<ul style="list-style-type: none"> ・公園などで自然の移り変わりを観察したり、落ち葉や木の実を集めて飾りやおもちゃを作る。 ・作った物を発表したり、楽しかった思い出を話し合う。
		12 「わたしのしごと」 「もうすぐお正月」	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の中における自分の役割を知り、自分できることは何でも自分です。 ・新年を迎えるにあたっての準備などについて話し合ったり、進んで家庭でお手伝いしたりする。
		3 学 期	1 「ふゆのあそび」 2 「もうすぐ2ねんせい」 3 「1年間の思い出」
備 考	(使用教科書・副読本・参考書など) 「たのしいせいかつ」 1年 (大日本図書)		

平成9年度 短期個別指導目標・計画・評価 (様式4)

生活科 短期個別指導計画	小学部1年2組	氏名	〇〇 〇〇	指導者	〇〇 〇〇
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験的活動に意欲的に取り組み、楽しさを味わうとともに進んで活動しようとする。 ・経験した事柄を絵や文や劇などで表現し、内容を確かなものとする。またそうした表現活動の中で言葉の力やコミュニケーションの能力を高めていく。 ・身の回りの自然、特に小動物や植物の世話をして大切にしようとする気持ちをもつ。 ・集団行動の様式を理解して、身近な公共施設の利用の仕方や態度を身に付ける。 				
指導課題	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の行動に左右されずに自分で考えて行動する。 ・5W1H (いつ、どこで、だれが、なにを、どうした、なぜ、どのように等)を意識しながら話し合ったり、経験した事柄を表現することができる。 ・相手に分かりやすいコミュニケーションに留意し、適時指文字や身振りなどを併用して分かりやすく伝えようとする。 ・興味・関心の高い自然科学分野の理解をさらに高める。 				
指 導 記 録					
指導期日	学習内容・方法・手だて		指 導 結 果 ・ 評 価		
4月	<p>「校舎の中を探検しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部の学習で使用される教室や施設を見学し、分かったことを話し合う。 <p>「新入生を迎える会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介の絵や文を考えて、自己紹介する。 ・上級生や先生方と仲よくする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・上級生の教室を訪問して、挨拶したり、知っている上級生と話をしたりと和やかに見学できた。 ・家庭科室や音楽室など初めて目にする特別教室に興味をもち、進んで質問することができた。 ・迎えられる側として、素直に小学部に入学したことに喜びを感じ、意欲的に話し合いができた。 ・自分のことを知ってもらおうとする気持ちももて、意欲的に自己紹介することができた。 		
5月	<p>「きれいな花をさかせよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝顔の種蒔きをして、成長の記録をつける。 ・学年の花壇を整備し花を植え、水をかけたりしながら、植物を大切に育てる。 <p>「春の遠足」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館を見学し、古代の動植物に興味・関心をもつ。 ・基本的な集団行動様式を理解し、楽しく遠足に参加する。 ・経験したことを絵や文で表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学の分野に興味・関心が高いこともあり、意欲的に取り組むことができた。 ・学校に登校してきた時や下校時に花壇や植木鉢に水をかけるなど、自主的に植物の世話ができた。 ・観察も細かなところに注目して観察できた。 ・恐竜に興味があり、恐竜の名前を覚えたり、分からないことを進んで質問したりと意欲的に見学できた。 ・集団行動の基本的な約束は理解できていたようであったが、気持ちが高揚するとやや自分勝手に行動してしまうことがあった。 ・事後の話し合いでも意欲的に発言し、絵を描いたり作文を書いたりすることができた。 		
6月	<p>「いきものともだち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の小動物を観察したり、飼育することで動物を愛護する気持ちをもつ。 ・校外学習に出かけ、小動物に触ったりえさをあげたりしながら動物と仲よくする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・鶏の観察をした後に、鶏に餌をあげるなど興味・関心が高まった。 ・近くの小動物公園に出かけ、リスやウサギに触れ温かさやか弱さに気がついた。障害のあるウサギを気にかけるやさしさも認められた。 ・事後の話し合いでも積極的に発言し、それらの経験を絵や文で表すことができた。 		
7月	<p>「学校探検」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部の学習で使用されない特別教室や事務室、食堂などの様子を見学する。またそこで働く職員の様子等についても理解を深める。 ・見学したことをまとめて学校の地図を作る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・理科室や技術室など普段目にするののない特別教室に興味をもち、どんな物があるのか意欲的に調べることができた。 ・食堂の調理員や事務職員の名前を覚えたり、挨拶をすることができた。 ・調べたことをまとめて、学校の地図を作ることができた。 		

小学部 第1学年 生活科学学習指導案

指導期日・時間：○月○日・第1校時
 指導場所（教室名）：1年2組教室
 指導者：T1：○○○○
 T2：○○○○
 T3：○○○○

1 題材 つくってあそぼう

2 題材設定の理由

小学校の低学年に新しくできた「生活科」は、より具体的な活動や経験を重視している。同様に、聴覚障害児教育においてもことばや思考力を育てる上で、具体的な活動や経験が重視されている。

聴覚障害児の言語発達を促進させるためには、できる限り具体的な場面で活動する児童の心の動きに合わせた言葉掛けを必要とし、またそのような活動場面で言葉を使いながら、言葉を獲得していくのである。このようなことから、聾学校においては単に「生活科」としてだけではなく、言葉の指導の場としても重要である。

生活科は1学年合同で行われる教科であり、制作や自然観察、散策など児童の興味・関心の高い活動が中心となっており、児童の活動への取り組みも非常に意欲的である。

本単元は、身近にある物や廃材を利用してのおもちゃ作りであり、材料を自分の家やその周辺に求めることで、自身の生活環境に目を向けることができるであろう。また、それらの材料で舟を作って遊ぶことで、水に浮かぶ物や浮かばない物がある事を理解し、浮力の基礎的な理解へとつながると考えられる。そしてよりよい物を作ろうとする意欲が、創意・工夫へとつながり、児童の自主的自発的な取り組みが期待される。児童が意欲的に取り組む活動の中では、活発なコミュニケーションも期待され、児童の言語発達にも大きく関与するのではないかと思う。

制作活動は、それ自体は個別的な活動になるが、全体での話し合いや鑑賞の時間等を適時設け、個別的な活動と集団での活動の有機的な融合を図っていきたい。

3 目標

(1) 全体目標

- 作りたいおもちゃを具体的にイメージし、イメージに沿った材料を集めたり、工夫して楽しいおもちゃを作る。
- 廃材や自然にある物を利用して、様々な活用の仕方があることに気付いたり、物を大切にしようとする意識を高める。
- 活動全般を通じて、友達や教師と話し合ったり、相談したりしながら豊かなコミュニケーションを行う。
- 自分達の作ったおもちゃのコンテストをして、お互いに工夫した点を発表し合ったり、質問したりしながら、作品を鑑賞する。

(2) 個別目標

氏名	短期個別指導目標	題材における個別指導目標
A	・話し手の言葉にきちんと耳を傾ける。 ・自然や社会的な事象に関心を高め、興味をもてる。	・活動全般を通じて、友達と仲よくやり取りができる。 ・身の回りにある物を利用して楽しく遊ぶ。
B	・話し合いの場面では、進んで自分の意見が発表できる。 ・自然や社会的な事象に関心を高める。	・活動全般を通じて、友達と楽しくやり取りができる。 ・身の回りにある物を利用して遊ぶことを理解し、工夫して遊ぶ。
C	・話し手の言葉にきちんと耳を傾ける。 ・自然や社会的な事象に関心を高め、興味をもてる。	・話し合いの場面では相手の話をよく聞き、それに対して応答しようとする。 ・身の回りにある物を利用して楽しく遊ぶ。
D	・話し合いの場面では、進んで自分の意見を発表できる。 ・自然や社会的な事象に関心を高める。	・友達の話をしっかり聞き、恥ずかしがらずに自分の意見を述べる。 ・身の回りにある物を利用して楽しく遊ぶ。

4 指導計画（10時間扱い）

- 第一次 水に浮かぶおもちゃを作ろう・・・4時間（本時は第1時）
 第二次 色々なおもちゃを作ってみよう・・・4時間
 第三次 おもちゃのコンテストをしよう・・・2時間

5 児童の実態

氏名	性別	平均聴力(dB)		実 態
		右	左	
A	男	74	78	あまり器用ではないが、兄とプラモデルを作るなどして、制作活動を楽しんでいる。物をピストルに見立ててのごっこ遊びなども好み、イメージは豊かである。口話で積極的にコミュニケーションを行う。
B	男	123	124	絵を描いたり、物を作ったりすることを好み、イメージに独創的なところがある。ある程度それらのイメージを具現化して作ることもできる。聴力は厳しいが、身振りや指文字を併用し、友達と積極的にコミュニケーションする。
C	女	108	112	手先が器用で、絵を描いたり、物を作ったりすることを好み、また丁寧に仕上げようとする。手本には忠実だがやや独創性に欠ける。友達とのコミュニケーションもやや一方的なところがある。聴力が厳しいので身振りや指文字を併用してコミュニケーションを行う。
D	女	92	98	絵を描いたり、物を作ったりすることは大好きだが、自分のイメージをなかなか具現化できずに作業に時間がかかる。友達の行動はじっくりと観察するが自分からかかわろうとする積極性に欠ける。主に口話でコミュニケーションを行う。

6 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標

- 本時の活動を理解し、自分の作りたい「水に浮かぶおもちゃ」をイメージすることができる。
- イメージしたおもちゃを具体的に絵に表す。

イ 個別目標

氏名	性別	本時の目標
A	男	○「水に浮かぶ物」を考えながら、自分の作りたい物を決める。 ○形や色など具体的に考え、作りたい物の絵を大まかに描く。
B	男	○「水に浮かぶ物」を考えながら、自分の作りたい物を決める。 ○作りたい物を詳しく絵に表し、その材料等についても考える。
C	女	○教師や友達の話を良く聞いて、本時の活動を十分に理解する。 ○形や色など具体的に考え、作りたい物の絵を詳しく描く。
D	女	○「水に浮かぶ」ということから考えて、自分なりに作りたい物を決める。 ○形や色など具体的に考え、作りたい物の絵を大まかに描く。

(2) 展開

学習内容・活動	支援と評価
1 本時の活動について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・箱の中に作品のサンプルを入れ、何が入っているかをヒントを基に考え、本時の活動について興味を高める。 ・個々の児童がクイズに正解したいという気持ちが高まりすぎて、友達の発言を聞かないということがないように、立って発言するなど配慮する。 ・イメージスケッチの具体的な手順を例を示しながら説明し、各自が自分なりの考えで描けるようにする。 ・Aはやや描き方が雑になるので、よく考えて丁寧に描くように助言する。 ・Bは活動を急ぐ傾向があり作業が雑になりやすい。あわてずに分かりやすいスケッチを描くように助言する。 ・Cは独創性に乏しく、例を真似ることが多いので、自分の過去の経験等を思い出させながら、自分なりの作品ができるように励ます。 ・Dは取り掛かりがマイペースなので、友達の前進などを参考に取り組むように助言する。 ・なかなか取り掛かれない児童に関しては、T1～T3が個別にかかわり、それぞれの考えを引き出すように働きかける。 ・早くイメージスケッチが完成した児童については、どのような材料を用い、またどんな道具が必要かを考えるように助言する。
2 自分の作りたい「水に浮かぶおもちゃ」を考え、絵に描く。	
3 各自の作品を発表する。または鑑賞する。	<p>【評価】</p> <p>○自分なりに考えて、イメージスケッチを描けたか。 (スケッチ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケッチの分かりにくい部分に関しては、修正する、簡単なメモを書くなどの助言をし、分かりやすいスケッチを心掛けさせる。 ・同じ「水に浮かぶおもちゃ」でもそれぞれが、色々な考え方を持っていることを発表し合う中で知り、お互いを認め合ったり賞賛し合ったりしながら、楽しく活動のできる雰囲気を作る。 ・Aは自分の発表には意欲的だが、友達の話を注意して聞くことが難しいので、誰の作品が楽しそうか指摘させたりしながら、注目できるようにする。 ・Bは友達に分かりやすいように、指文字などの補助手段のスピードや話し方に気を付けさせる。 ・Cは発表の中で質問をさせたりしながら、友達の発表に注目させたい。 ・Dは、分からないことは自分から聞けるように適時言葉掛け、知りたいことを自分で知ろうとする意欲を培う。 ・よく理解できない部分等については質問するなど、理解しようとする気持ちで話し合いをもたせる。 <p>【評価】</p> <p>○お互いのスケッチを鑑賞することができたか。 (行動観察)</p>
4 次時の活動を計画する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のスケッチの内容について質問し、理解の不十分な部分については再度本人に確認するなど助言をする。 ・次時の活動について予告し、必要な材料などを集めてくることを宿題として、活動への意欲を高める。 ・場合によっては家族と相談して考えてもよいこととし、児童の負担とならないように配慮したい。

5 肢体不自由養護学校

(1) 作成マニュアル

ア 個別指導計画について

① プロフィール 様式1)

児童生徒の全体像がイメージできるようにし、配慮点は特に注意して書く。今までの資料(体験入学の記録や教育相談の記録、指導要録等)を参考に記入し、他の記録簿と重なる場合は項目だけ記入し、詳細は該当する資料を参考にするように記入する。新しい情報が加わった場合は年度途中でも記入する。プロフィール～各個別指導目標につながることを考えながら書く。諸検査については、対象児の実態を反映し指導の参考となるものを選ぶ。(検査時は動きのある項目に留意する。)進路や将来像を書くと、現時点で何をすべきかが予想でき、個別指導計画を記入する上で参考になる。教育課程別の名称を欄外に入れるとわかりやすい。

② 長期個別指導目標 様式2)

年度末を見通して、中心に扱う目標をはっきりさせる。養・訓を主とした教育を対象とする場合(養・訓対象児と略)1年以上先を見通した目標を設定する場合もある。養・訓対象児は、項目を5つの柱(身体健康等)にすると課題や指導内容が書きやすい。準ずる教育(含下学年適応)の項目は各領域や教科名を具体的に書くよりも[教科面][生活面]などとまとめると書きやすい。精神薄弱を併せ有する児童生徒の教育は、精神薄弱養護学校の長期個別指導目標を参考にすると書きやすい。ただし、すべての教育課程で養護・訓練については、必ず書くようにする。

③ 個別年間指導計画 様式3)

週時程の名称を受けて書くと書きやすい。(例「かずの時間」など)その場合、教育課程上の名称をはっきりさせておくことが重要である。準ずる教育や精神薄弱を併せ有する児童生徒の教育は、項目に教科名や領域名を、学期毎の内容には単元名を書き、詳細については各教科毎の年間指導計画で記入するとわかりやすい。養護・訓練の対象児は、養護・訓練の5つの柱を書くとわかりやすい。(例からだの時間[運動・動作を中心にして]など)

④ 短期個別指導目標・計画・評価 (様式4)

学期中に伸ばしたいものや重点を置くものについてまとめると記入しやすい。特に準ずる教育や精神薄弱を併せ有する児童生徒の教育では全教科ではなく個別年間指導計画の中から重点的に指導したいものをまとめると書きやすい。「手だて」は教科の年間個別指導計画より個別に具体的に書く。

イ 学習指導案について

- (ア) 児童生徒の実態は、その授業をする上で必要と思われる実態を書くようにする。
- (イ) 展開の欄で、評価を個別に行うのならば、支援も個別に書くとわかりやすい。
- (ウ) 準ずる教育で、短期個別指導目標の欄は、学期に単元が多くある場合、その単元に関連する短期個別指導目標を中心にまとめると書きやすい。
- (エ) 養護・訓練対象児は、短期個別指導目標・単元における個別指導目標・本時の個別指導目標が長期にわたる指導が多いので、重複するところが多くなることが考えられる。
- (オ) 養護・訓練対象児は、学習指導要領における養護・訓練の5つの柱のうち何を中心にするのかを表題に書くとわかりやすい。例[養護・訓練学習指導案(環境の認知を中心にして)]

(2) 人や物へのかかわりを深めたい生徒（高等部第3学年）の事例

ア 実践の概要

(7) 指導計画を作成するにあたって

- 本児は、手足の拘縮や身体の側わんが見られるとともに、体温調節も不十分なため体調を崩しやすく、食事、排泄、移動なども全介助である。意思の伝達も、泣く・笑うなど、快・不快の表情は表すが、人を意識した意図的な要求や、自分から人や物にかかわろうとする意識は少ない。このような本児は、卒業後も、誰かしらの介助を受けることになるが、だからこそ与えられるだけでなく、主体的に生活することが大切になってくる。そこで、人や物に関心を持ち、自発的にかかわることが、生き生きとした生活につながるのではないかと考え、「いろいろな刺激を通して、人や物とのかかわりを深める。」という長期個別指導目標を設定した。
- 重度・重複教育の課程に在籍する生徒の場合、長期個別指導目標と短期個別指導目標における指導目標の部分は重なることが多いし、短期個別指導目標の学習のねらいも学期ごとに大きく変わることはなく、重複してしまうこともある。しかし、限られた場面だけでなく、いろいろな場面で課題を達成することが大切なので、方法や手段・場面設定などを変え、取り組むようにした。

(4) 実践にあたって……学習指導案の作成

- 学習指導案は、養護・訓練の環境の認知を中心に作成した。
- 評価については、表情や声、動きの変化を観察することによって行った。
- 活動では、常に教師のかかわりを大切にした。本児は言葉の意味を理解することは難しいが、話し掛けられたり、楽しい雰囲気の中では、声を出したりして楽しむ場面が増えてきたので、かかわりを楽しみながら活動できるように言葉掛けの支援を多くした。
- 本生徒は、一対一のかかわりを楽しむ段階であるが、集団活動の楽しさも味わわせたい。そこで一対一でのかかわりを大切にしながらも、集団で活動する場面を配慮した。そのことにより、直接かかわる教師以外の存在にも気付き、楽しさを感じ取ってほしいと考えた。

(7) まとめと今後の課題

- 個別指導計画を作成するにあたって、実態をもう一度確認し、目標や手だてを明確にしたことで、本児の課題やかかわり方もはっきりした。
- 高等部は教科担任制のため、担任と授業を担当する教師が共通理解をもって取り組むことが必要である。個別指導計画を作成し、一貫した指導を行うことは、生徒の課題達成に有効である。
- 個別指導計画を作成するにあたっては、教師の負担増にならないように、年間指導計画や通知票などとの有効的な結合を図ったり、活用しやすいように様式を変えるなど、柔軟に対応できるようにする必要があると思われる。

プロフィール

高等部 [重度・重複教育の課程]

氏名		〇〇 〇〇	生年月日	昭和〇年〇月〇日生	性別	女	学年学級	3年〇組
住所(連絡先)		〇〇市〇〇町〇〇		電話				
障害名	脳性まひによる体幹機能障害	手帳番号	茨 号一種1級 療育手帳A		補助具使用等	車いす		
障害部位(まひ等)・障害の現状(体調及び配慮事項)								
<ul style="list-style-type: none"> 四肢まひがあり、拘縮、側わんが見られる。 右肘関節が脱臼しているが、本人が痛がらない程度であれば動かしても差し支えない。 骨折しやすいので注意が必要。 								
生育歴(措置暦)及び病歴			検査結果			保護者の要望及び進路希望		
<ul style="list-style-type: none"> 出産時体重 2650g 3カ月 首がすわる 5歳 〇〇園入園 中学部3年 足大腿部を骨折 主治医：〇〇病院 〇〇医師			(遠城寺式) 移動運動 0:3～0:4 手の運動 0:2～0:3 基本的習慣 0:3～0:4 対人関係 0:3～0:4 発語 0:3～0:4 言語理解 0:2～0:3			<ul style="list-style-type: none"> 毎日を元気に過ごしてほしい。 介助を考え体重増加を抑えたい。 卒業後は療護施設又は在宅を希望している。 		
生命の維持と安全						基本的生活習慣(介助の度合い)		
発作の有無		疾病の状態と健康管理・その他				<ul style="list-style-type: none"> 普通食で一人分の量を食べる。唇が閉じずに食べ物をこぼしてしまうことが多い。 おむつ使用。大便是3～4日おきに浣腸使用。 食事、排泄、更衣、移動など、全介助。 		
<ul style="list-style-type: none"> 発作なし 脳波の異常もなし 		<ul style="list-style-type: none"> 体温調節が不安定なため、寒いと手足が冷たくなり、爪が青白くなる。 風邪を引きやすく、長引くことが多い。 						
投薬		体温 36度5分 身長 115, 0cm 体重 22, 6kg						
心理的適応				環境の認知				
対人関係	心理的不適応	意欲		触覚		聴覚		
<ul style="list-style-type: none"> スキンシップや言葉掛けの働き掛けに微笑み、反応する。 人見知りはしない。 				<ul style="list-style-type: none"> 胸や腹などのタッピングを好む。 足の裏の感覚が過敏である。 		<ul style="list-style-type: none"> 音楽には笑顔や声、両手足を動かすなど快の反応を示す。 		
				視覚		その他		
				<ul style="list-style-type: none"> 光に反応する。 追視はしない。アイコンタクトもなかなかとれない。 		<ul style="list-style-type: none"> 手で頭をかいたり顔をこすったりする。 		
運動・動作				意思の伝達				
<ul style="list-style-type: none"> あぐらで座位がとれるが、たいへん不安定である。 手足の拘縮や、身体の側わん予防のための配慮が必要である。 指はわずかに動くが物をつかむことはできない。 				<ul style="list-style-type: none"> 気分のよいときは「あー」という声を出したり笑ったりする。 痛みや嫌なときは表情や泣くことで不快感を表す。 人の声を聞き分けることは難しいが、人が大勢いる場所を好む。 				

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

高等部	〇年〇組	生徒氏名	〇〇 〇〇	作成者	〇〇 〇〇	作成日	平成9年〇月〇日
障害の 部位と 現状	四肢まひ 自力移動不可			ね ら い	・健康を維持・増進する。 ・いろいろな刺激を通して、人や物とのかかわりを深める。		
		実 態	課 題	指 導 内 容	評 価		
養 護 ・ 訓 練	食 事	・唇が閉じずに、食べ物をごぼしてしまふことが多い。	・食べ物をこぼさずに咀嚼し飲み込むことができる。	・唇を閉じるように促す。 ・姿勢に気を付ける			
	排 泄	・排尿量が少ない。 ・浣腸をしている。	・排尿量を増やす。 ・便秘を解消する。	・水分量を確保する ・腹部の運動をする			
	健 康	・温度変化によって体調を崩しやすい。	・体調を整えて生活することができる。	・衣服の調節や水分補給をする。 ・日光浴、外気浴などをする。			
	運 動 ・ 動 作	・身体の拘縮、側わんが見られる。	・拘縮、側わんを予防する。	・身体のリラクゼーションや姿勢変換を行う。			
	環 境 の 認 知	・音にはよく反応する。 ・注視、追視はほとんどしない。	・いろいろな感覚刺激を感じることができる。 ・注視する場面が増える。	・快の感覚刺激を行う。 ・快の状態や音を通して見ることを促す。			
	意 思 の 伝 達	・スキンシップや言葉掛けに笑顔で反応する。 ・笑ったり泣いたりすることで、快、不快を表現する。	・人とかかわりの中で感情の表出が増える。 ・いろいろな人とかわることができる。	・一対一でかわる場面を多くし、わずかな反応にも丁寧に応じる。 ・特定の人だけでなく、たくさんの人とかかわる。			
そ の 他	・卒業後は療護施設又は在宅を希望している。	・欲求を声や動きで表現することができる。	・表情などに変化の見られた時は、繰り返すようする。				

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

高等部	○年○組	生徒氏名	○○ ○○	作成者	○○ ○○	作成日	平成9年○月○日
指導 目標	(1)身体の変形や拘縮を予防し、健康を維持し増進する。 (2)人とのかかわりを深め、感情を表情や発声で表出することができる。 (3)いろいろな刺激を受けとめる力を付け、自発的な動きを表出することができる。						
項目(日課表)	1 学 期		2 学 期		3 学 期		
養 護 ・ 訓 練	養・訓1	(身体の健康を中心にして) 検温, 健康観察 _____→ 整容(顔, 手) _____→ 排泄 _____→ 朝の会(あいさつ, 呼名) _____→					
	養・訓2	(環境の認知を中心にして) ローリングシーソー, エアートランポリン, ブランコ, ボールプール _____→ 小麦粉粘土, 水遊び, 光遊び, 人形劇 _____→					
	個別課題	(運動・動作を中心にして) 身体のリラクゼーション, 両手足の屈曲, 伸展 _____→ 姿勢変換 _____→					
	養・訓3	買い物, 外出, お菓子作り, 玩具遊び _____→					
体 育	プール(温水) _____→ トランポリン, マット, キャスター, ボール _____→						
音 楽	リズム運動(全身, 上肢, 下肢, 手指, 足) _____→						
美 術	作品作り(新聞紙, 色紙, 段ボール, 水彩, 紙粘土, 土粘土, 木材) _____→						
評 価							

平成9年度 第1学期 短期個別指導目標・計画・評価

(様式4)

学部・学年	高等部 ○年○組	作成者名	○○ ○○	作成日	平成9年○月○日
生徒氏名	○○ ○○	評価者名		記入日	
指目	(1)体調を整えて生活することができる。				
	(2)人とのかかわりを深め、快、不快の表出が増える。				
導標	(3)快い素材の物に触れることで、物に気付き、自発的な動きを表出することができる。				
指導にあたって参考となる事項			健康上配慮する事項		
<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的刺激よりも聴覚的刺激によく反応し、快、不快の表出をする。 ・学習時はクッションチェアや三角マットを使用すると安定する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・手足の拘縮があり骨折しやすいので伸展には注意が必要である。 ・温度変化によって体調を崩しやすいの配慮が必要である。 		
項目	学習のねらい		手だて		評価
養護	身体健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を維持・増進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検温や健康観察を行い、体調にあわせて活動に取り組む。 ・温度変化に合わせて衣服の調節や水分補給を行う。 		
	排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄リズムを改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹部の運動をする。 ・水分補給をする。 		
訓練	運動・動作	<ul style="list-style-type: none"> ・リラクゼーションできる時間を増やす。 ・身体の変形、拘縮を予防する 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の各部位の緊張の弛緩を行う。 ・関節の可動域を広げる運動を行う。 ・姿勢変換に心掛け、同じ姿勢を避ける。 		
	環境の知	<ul style="list-style-type: none"> ・触感覚への刺激を通して自発的な動きを表出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦粉や水などでいろいろな感触を味わわせ、自ら指で動かすことを促す。 		
	意思の達	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな感覚、運動刺激や人とのかかわりを通して豊かな表情や発声を表出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・快の状態を把握するとともに言葉掛けを多くしながらできるだけ快の状態を設定する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の楽しい雰囲気の中で人とのかかわりを深める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて歌ったり語りかけたりしながらかわる。 		
その他					

高等部 養護・訓練学習指導案（重度重複教育の課程）

指導期日 平成9年〇月〇日 第3, 4校時
 指導場所 第1プレイルーム
 指導者名 〇〇〇〇(T1) 〇〇〇〇(T2)
 〇〇〇〇(T3)

1 単元名 さわってみよう

2 単元設定の理由

本学習グループは、1年生4名、3年生1名の計5名で構成されている。生徒の実態を見てみると、人からの働きかけに笑顔を見せたり声を出したりするなどの反応は見られるが、自分からかわることは少ない。また、座位保持や移動だけでなく、物を握ったり離したりすることが難しい生徒もいる。

本単元で扱う小麦粉は、水を加えることによって、さらさらの状態から小麦粉粘土までいろいろに変化していく様子を感じることができ、自分の快い感触を見付けやすい素材である。また色や形も自由に変えることができ活動に広がりをもてるものである。そこで、教師と一緒に小麦粉で楽しく活動することによって、人や物とのかかわりを深め、自発的な動きを引き出したいと考え、本単元を設定した。

そして、与えられるだけでなく、外界からの刺激を受け止め働きかける力を身に付け、卒業後の生き生きとした生活につなげたい。

3 目 標

(1) 全体目標

- 小麦粉に触る活動を通していろいろな感触を味わうことができる。
- 教師や友達と一緒に活動する中で人とかわる楽しさを味わう。

(2) 個別目標

氏名	短期個別指導目標	単元における個別指導目標
A	・自分の意思を、分かるように態度で伝えることができる。	・教師とのやり取りを楽しみながら活動することができる。
B	・触感覚刺激を通して、気持ちを動作や表情で表すことができる。	・手を動かして、小麦粉の感触を味わうことができる。
C	・リラックスして活動に参加することができる。	・リラックスした状態で小麦粉に触ることができる。
D	・呼びかけに動作や表情で答えることができる。	・教師とのかかわりを楽しみながら活動することができる。
E	・触感覚刺激を通して、気持ちを動作や表情で表すことができる。	・指を動かして、小麦粉の感触を味わうことができる。

4 指導計画（16時間扱い）

	第一次(1時間)	第二次(3時間)	第三次(6時間)	第四次(6時間)
粉にさわろう				→
水を加えてみよう				→
色を加えてみよう				→
形をつくらう				→

5 生徒の実態

氏名	性別	実 態
A	女	手の力が弱くしっかり握ることは難しいが、興味のある物には手を伸ばして触ろうとする。簡単な内容であれば「イエス」「ノー」の意思表示ができる。
B	女	座位はとれないが、物を握ったり離したりすることができる。言葉掛けに表情や声で応える場面が増えてきた。
C	男	座位はとれないが右手で物を握るときがある。言葉掛けに表情で応えることができるが、発作が頻繁にあり緊張していることが多い。
D	女	右手で物を握ったり離したりができる。左手は拘縮が進んできている。人に興味があり、関心を引くような行動をとることが多い。
E	女	座位はとれないが指をわずかに動かすことができる。言葉掛けに声を出すなど、かかわりを楽しむ場面が増えてきた。

6 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標

- 小麦粉のいろいろな感触を味わうことができる。
- 教師とのかかわりを楽しみながら活動することができる。

イ 個別目標

- リラックスした状態で小麦粉に触れることができる。 (C)
- 小麦粉の感触を十分に味わうことができる。 (B, E)
- 教師の呼びかけに応えることができる。 (D)
- 教師と一緒に色や形などのやりとりをしながら活動することができる。 (A)

(2) 展開

学習内容・活動	支援と評価
<p>1 はじめのあいさつをする</p> <p>2 本時の学習内容を知る。</p> <p>3 小麦粉にさわる。</p> <p>(1) 小麦粉だけで</p> <p>(2) 水を加える ・べたべた</p> <p>・ぐにゃぐにゃ ・とろとろ</p> <p>(3) 色を加える ・好きな色を選ぶ</p> <p>(4) 形を作る (作品作り)</p> <p>・握る ・まるめる ・ちぎる ・つぶす</p> <p>4 できあがった作品を觀賞する。</p> <p>5 おわりのあいさつをする。</p> <p>・片付けをする ・あいさつをする</p>	<p>・あいさつを代表者の合図に合わせて行い、始まりを意識できるようにする。</p> <p>・Cはリラクステューチャーを、B、Eは三角マットを使用し、活動しやすい姿勢を整える。</p> <p>・小麦粉や水の量は、生徒の手の動きや反応によって変えるようにし、なるべく快の状態が多く活動できるようにする。</p> <p>・A、Eは指の力が弱いので、粉が堅くならないようにする。Eは物を握ることが困難なので、普段物に触れることの少ない指先から手のひらまで、十分小麦粉に触り、物が触れる状態を感じることができるようにする。B、Dは動きが大きくなり、粉が飛び散っても自由な活動として認める。</p> <p>[評価]</p> <p>・小麦粉のいろいろな状態を感じ、手を動かすことができたか。(行動観察、全員)</p> <p>・表情や発声で気持ちを表すことができたか。(行動観察、A、B、D、E)</p> <p>・手を動かさないときは、言葉掛けをしながら手を添えて一緒に動かすようにする。</p> <p>・表情や動きに変化が見られたときは、言葉掛けや一緒に楽しむことで反応を返していく。</p> <p>・違いが分かりやすいようにはっきり違う色を用意する。(赤、青、黄)</p> <p>・自分の色だけでなく、言葉掛けをしながら見やすい位置に提示することで、友達の色にも気づくようにする。</p> <p>[評価]</p> <p>・色の選択を表情や動きで表現することができたか。(行動観察、A)</p> <p>・色の違いに気付くことができたか。(行動観察、D)</p> <p>・色をよく見ることができたか。(行動観察、全員)</p> <p>・なかなか見ようとしなないときは、言葉掛けをしながら提示する位置を変えたり一緒に触ったりすることで、見ることを促す。</p> <p>・Aに表情の変化の見られないときも、焦らずゆっくり待つようにする。</p> <p>・今、何を作っているのかなどの言葉掛けを多くしながら一緒に形を作っていくようにする。</p> <p>・Aは何を作るのかの意思表示ができるように言葉掛けをする。Cはリラックスできる状態であれば形作りにはこだわらない。B、Dが自由な活動を好む場合はそれを認める。Eは食べ物が好きなので、一緒に作りながら「おいしそうだね。」などの言葉掛けを多くし、楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>[評価]</p> <p>・作りたい形を伝えることができたか。(行動観察、A)</p> <p>・手の動きや表情に変化が見られたか。(行動観察、B、D、E)</p> <p>・Aは色のときと同様、ゆっくり待つようにする。</p> <p>・動きや表情に変化が見られたときは、同じ活動を繰り返すようにする。</p> <p>・T1は作品を見やすい位置に提示し、一人ずつゆっくり説明する。そして、自分の作品のときは教師と一緒に手を挙げるようにし、自分や友達の作品に気付くようにする。</p> <p>・あいさつを代表者の合図に合わせて行い、終わりが意識できるようにする。</p>

7 病弱養護学校

(1) 作成マニュアル

ア 個別指導計画について

- ① **プロフィール**
(様式1)
記入者：担任
- ・これまでに収集した基礎資料をもとに記入する。心理的な問題をもつ児童生徒については、情報が得られた時点で記入する。
 - ・長期に在籍する児童生徒については、必要に応じて新しいプロフィールを作成する。
- ② **長期個別指導目標**
(様式2)
記入者：担任
- ・プロフィールをもとに、将来像を見通し、実現可能な目標を設定する。
 - ・1年未満で転出すると思われる児童生徒については、予想される期間での目標を設定する。
 - ・教科領域等担当者と十分に情報交換し、学部会などで共通理解が図れるようにする。また、保護者や病院との連携を図る。
- ③ **個別年間指導計画**
(様式3)
記入者：教科領域等
担当者
- ・当該学年の年間計画によらず、指導する児童生徒について個別年間指導計画を作成する。在籍予定期間が1年未満の場合は、その期間期間での指導計画とする。
 - ・作成にあたっては、児童生徒の実態、学習空白や進度の遅れなどに十分に配慮し、無理のないものとする。
 - ・担任に1部コピーを提出し、共通理解が図れるようにする。
- ④ **短期個別指導目標**
・計画・評価
(様式4)
記入者：教科領域等
担当者
- ・各担当者が個別年間指導計画をもとに具体的に作成する。
 - ・目標の設定および計画の期間については、学期・単元・月・週などが考えられるが、児童生徒の実態に合わせ、最も適した期間で作成する。
 - ・評価および課題については、目標の達成状況についても記入し、次の指導計画に生かせるようにする。
 - ・担任に1部コピーを提出し、共通理解が図れるようにする。

イ 学習指導案について

- (ア)短期個別指導目標は、様式4における各単元の目標をもとに設定する。
- (イ)単元における個別指導目標は、単元の全体目標および短期個別指導目標をもとに設定する。この際、その単元の関連領域における達成度も考慮して、目標の設定にあたる。
- (ウ)本時の指導の展開においては、個別目標を踏まえ、それらを達成するための支援策をより具体的に記載する。
- (エ)指導形態が複式授業の場合は、個別の学習指導案となることも考えられる。

(2) 学習空白を補いながら自己解決力を高めたい生徒（中学部第2学年）の事例

ア 実践の概要

(ア) 指導計画を作成するにあたって

- 本児は小学校段階において未就学期間が4年3か月間あるため、社会的な経験が乏しく、各教科における学習空白も多い。このような実態を踏まえ、学級における人間関係と生活経験の充実、基礎学力の拡充を目指し、長期個別指導目標（様式2）を作成した。
- 数学科における個別年間指導計画（様式3）の作成にあたっては、以下の2点について特に配慮した。
 - ①学習空白を補いながら、当該学年の学習内容と本児の学習内容ができるだけオーバーラップするようにした。これは、昨年度までは個別指導を行ってきたが、本児の希望により、今年度から当該学年の授業の中で一緒に学習することとなったためである。
 - ②例えば、「1次方程式」と「1次不等式」のように、本来、異なる学年の学習内容であっても、両者の関連性が強く、継続して学習したほうが有益であると考えられる場合、継続して学習できるような指導計画とした。
- 様式4の短期個別指導目標および計画の作成にあたっては、各単元の目標をもとに、本児の実態を考慮した個別目標を設定するとともに、指導・支援の手だてを考えた。

(イ) 実践にあたって・・・学習指導案の作成

- 本生徒は当該学年の授業の中で、一緒に数学を学習しているため、授業形態は複式となる。そのため、学習指導案は個別のものとした。実際、本児が「1次不等式」を学習しているときには、他の生徒たちは「連立方程式」を学習していた。
- 単元における個別指導目標は、本児の実態および短期個別指導目標をもとに、単元の目標の達成を目指して設定した。
- 本時の学習内容は、本児が「1次方程式」の既習内容を活用し、自分の力で解ける課題とした。また、意欲的に取り組めるよう考慮した。
- 学習内容・活動の流れは、複式形態の授業であることから、本児と他の生徒との授業内における時間的なバランスに配慮しながら作成した。
- 展開における支援については、必要以上の支援は本生徒の自己解決意欲を減退させると考え、必要最小限の支援を適切に与えることができるよう留意した。

(ウ) まとめと今後の課題

- 学習空白や進度の遅れをもって転入してくる生徒に対して、個別指導計画を作成することは、限られた少ない時間で目標を達成するために有益であり、適切な指導につながると考えられる。
- 個別指導計画の作成にあたっては、生徒の実態把握が重要であり、在籍期間が短期の生徒もいることから、いかに早くそして正確に生徒の実態をとらえていくか、また、その方法の検討が今後の課題である。

(様式1)

プロフィール

記入者		〇〇〇〇	記入日	平成9年〇月〇日
中学部第2学年	氏名	〇 〇 〇 〇	生年月日	昭和〇〇年〇月〇日
保護者氏名	〇 〇 〇 〇	前籍校	本校 小学部	
住所	茨城県〇〇郡〇〇町〇〇〇〇〇〇〇〇		電話	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇
診断名	歩行障害(廃用性萎縮による)	(主治医)	〇 〇 病院	〇 〇 医師
(入院)	年 月 日	(入院予定期間)	なし	転入年月日 平成6年7月〇日
(経過・相談歴等)				
<ul style="list-style-type: none"> 家庭の事情により、小1年～小5年6月まで未就学。中学進学にあたり、精神科医の面談を受ける。廃用性萎縮による歩行障害は改善されたが、5年間の生活状況が、本生徒の精神発達面に与えた影響や社会性の乏しさ、生活経験の不足などから本校中学部進学となる。 				
(家庭環境)				
<ul style="list-style-type: none"> 父母は離婚。兄弟は姉と弟2人(異父兄弟)がいる。姉は母親姓、本生徒は父親姓を名のするなど複雑。現在は姉と共に養護施設より通学している。 				
(禁止・制限・奨励事項…運動・食事等)		(諸検査の記録等)		
特になし		S-M社会生活能力検査(H6.6) 5～6歳 身辺自立;5:5 移動;3:9 集団参加;4:2 作業;5:10 意志交換;3:4 自己統制;5:8 S-M社会生活能力検査(H8.10) 8～9歳 身辺自立;7:0 移動;8:4 集団参加;7:11 作業;12:0 意志交換;8:4 自己統制;7:10		
(欠席状況等)				
小1年から小5年6月まで未就学。以後風邪などによる欠席以外、目立った欠席はない。				
(学習状況) 学習空白、定着度、指導における配慮事項等				
国語：漢字もよく覚え、音読は上手である。人物の心情も読みとれるようになった。 社会：情報量が多く、理解しきれない。苦手意識が強い。 数学：個別指導で計算力はついてきたが、小さなミスをすることが多い。 理科：実験や観察は好きであるが、結果の理解は難しい。 英語：学習空白はない。英検5級。 その他：短期間で学習空白を克服していった努力には素晴らしいものがあつた。				
(生活状況)				
<ul style="list-style-type: none"> 生活全般において少しずつ積極性が見られるようになってきた。社会性・常識性の乏しさはだいぶ改善された。特定の友人とのかかわりが強く、様々な面で影響を受けている。 				
(特技・得意なこと・好きなこと)				
<ul style="list-style-type: none"> 身体を動かすことが好きである。 				
(保護者・本人の願い…進路も含めて)				
<ul style="list-style-type: none"> 高等学校進学を希望している。 				
(備考)				
<ul style="list-style-type: none"> 徒歩通学 				

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

中 学 部	第 2 学 年	氏名 ○ ○ ○ ○	作成日	平成9年○月
			作成者	○○○○
項 目	指 導 目 標			
教 科 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係にも配慮し、当該学年での一斉指導を行う。各教科とも基礎学力が不十分なため、個別に配慮しながら学力をつけていく。 ・数学については、昨年度は個別指導を行っていたが、本人の希望により今年度より当該学年の一斉指導の中で学習する。学習は中学1年の内容を継続して行う。 			
特 別 活 動 学校生活全般	<ul style="list-style-type: none"> ・学級での係活動や委員会活動、クラブ活動、行事などの係の仕事を通して、自分で考えたり、活動したりできる。 ・季節感や社会情報、生活情報を提供する場として整えられた学級環境の中で自然や社会に対して関心をもつことができる。 ・学校生活全般を通して、趣味を広げ、特技を深めることができる。 ・日常の動作など女子としての意識をもち、行動することができる。 			
養 護 ・ 訓 練	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で心身を解放することができる。 ・集団で諸活動をすることにより、対人関係を広げることができる。 ・軽運動を通して、体力の増進を図る。 			
そ の 他				

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

教科・領域	数 学	中学部第2学年	氏名	〇〇〇〇	作成者	〇〇	作成日	9年〇月
-------	-----	---------	----	------	-----	----	-----	------

実 態 ・ 配 慮 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な四則計算はできるが、小さな間違いが多くみられる。 ・長さ・面積・体積などの単位は理解しているが、単位間の換算は完全ではない。 ・図形に関する内容に学習空白が多い。 ・数学的な考え方や表現・処理が不得意である。 ・本人の希望で今年度より当該学年の一斉指導の中で学習することとなる。基本的には中学1年の内容を継続し、個別の課題で学習を進める。また、必要に応じて関連事項を取り入れ、指導に当たる。
指 導 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・数の計算とともに文字式を含む計算を適切に処理することができる。 ・数学的な考え方をを用いて、課題を解決することができる。 ・数量、図形などについての知識を深め、活用することができる。

	期	月	題 材・単 元	学 習 内 容 等
年 間	1 学 期	4	正の数, 負の数	正の数・負の数の四則計算の方法とその規則
		5	文字と式	文字式の意味/1次式の四則計算の方法
		6	1次方程式, 1次不等式	等式の性質/1次方程式の解き方 不等式の性質/1次不等式の解き方
		7	式と計算	単項式と多項式/同類項/単項式の乗法・除 多項式と数との乗法/式の利用
指 導 期	2 学 期	9	量の変化と比例, 1次関数	座標/比例・反比例の関係を表す式とグラフ 1次関数のグラフ/直線の式
		10	平面の図形, 立体の図形	図形の基礎/図形の移動/作図 空間図形の基礎/立体の展開図・切断・投影
		11	平行線と合同	角と平行線/図形の合同
		12	三角形と四角形	二等辺三角形・直角三角形の定義と性質 平行四辺形の性質/平行線と面積
計 画 期	3 学 期	1	相似と比	相似な図形/三角形の相似条件 図形と比/中点連結定理/重心
		2	統計	資料の整理と比較/数の表し方
		3	連立方程式	連立方程式とその解/連立方程式の解き方
備 考	(使用教科書・副読本・参考書等)			

平成9年度 短期個別指導目標・計画・評価

(様式4)

教科・領域	数 学	第2学年 第1学期	氏名 ○ ○ ○ ○	作成者	○ ○
				作成日	9年○月○日

月	単元・学習内容・目標	指導・援助の手だて, 配慮事項	評価・指導の記録, 課題等
4	<p>[正の数, 負の数]</p> <ul style="list-style-type: none"> 正の数, 負の数の計算とその規則 ○正の数, 負の数の計算の意味を知り, その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を使って考えさせる。 小数, 分数を含む計算については基本的な計算方法を確認してから指導にあたる。 代数和や項という概念については丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 有理数の概念を負の数まで拡張することができた。 乗法, 除法は確実にできるが, 加法, 減法はさらに指導が必要である。 分数の計算はあまり得意ではない。
5	<p>[文字と式]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字式の意味 1次式の計算 ○文字や文字式の働きとその表し方, 計算の方法を理解し, それらの計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字表現の必要性和有用性を考えさせる。 文字式の活用の中で, 面積・体積などの公式についてもふれる。 かっこの意味とはずし方については, 項の考えをもとにして説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を含む式も四則計算ができることを理解した。 学習内容の定着に時間がかかる。 計算の方法は理解しているが, 単純な計算ミスが多く見られる。
6	<p>[1次方程式]</p> <ul style="list-style-type: none"> 等式の性質 1次方程式の解き方 ○等式の性質を使った1次方程式の解法を理解する。 <p>[1次不等式]</p> <ul style="list-style-type: none"> 不等式の性質 1次不等式の解き方 ○不等式の性質を使った1次不等式の解法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 移項を単なる手段としてとらえるのではなく, 等式の性質をもとにして考えさせる。 方程式を解く中で文字を含む式の計算方法の定着を図る。 やや複雑な計算も, 既習内容を活用すれば解けることに気付かせる。 1次不等式については, 1次方程式と比較しながら, その類似点と違いを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 移項を等式の性質をもとにして理解できた。 自分の学習記録を参考にすることができた。 1次方程式と1次不等式の類似性に気付いた。 1次方程式と1次不等式の解き方は理解できたが, 複雑な計算が含まれると間違いも増える。 文字を含む式の計算はさらに練習が必要である。
7	<p>[式と計算]</p> <ul style="list-style-type: none"> 単項式と多項式 同類項 単項式の乗法と除法 式の利用 ○単項式, 多項式の簡単な四則計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字と式との関連性を確認させる。 学習内容が計算中心であるため, 課題を工夫し単調にならないよう配慮する。 比の概念については, 基礎から指導に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> 項の概念を理解し, 単項式と多項式を区別することができた。 文字を数字と同じに扱うことに慣れてきた。 反復練習することにより, 定着が図られてきている。

中学部 第2学年 数学科学習指導案

指導期日・時間 ○月○日(○)第○校時
 指導場所 中学部2年教室
 指導者名 教諭 ○○○○

1 単元 1次不等式

2 単元設定の理由

前単元の方程式では、等式の性質や移項の考え、方程式の解き方を学ぶとともに、かっこのあるものや係数が小数や分数であるものなど、いろいろな方程式を学習してきた。これらの学習をもとに、本単元の不等式へと結びつける。そして、方程式や不等式を変数 x についての条件を表す式という見方でとらえさせ、方程式と不等式を統一的に見ることができるようにし、方程式や不等式についての理解を一層深める。また、計算の手順を流れ図に表す中で、問題解決の手順を考察、整理し、流れ図を用いて手順を明確化することのよさにも気付かせる。さらに、実際的な問題解決場面において、不等式を進んで活用しようとする態度を育てる。

3 目 標

(1) 全体目標

不等式とそれを解くことの意味を知り、不等式の性質を使った1次不等式の解法を理解し、それに習熟するとともに、それらを実際的な問題の解決に応用することができる。

(2) 個別目標

氏名	短期個別指導目標	単元における個別指導目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数、負の数の計算の意味を知り、その計算ができる。 ・文字や文字式の働きとその表し方計算の方法を理解し、それらの計算ができる。 ・等式の性質を使った1次方程式の解法を理解する。 ・不等式の性質を使った1次不等式の解法を理解する。 ・単項式、多項式の簡単な四則演算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの数量の間の大小関係は不等式で表されることを知り、不等式を解くことの意味を理解する。 ・不等式の性質を調べ、その性質を理解するとともに、それらの性質を使って式を変形することができる。 ・不等式の性質や移項の考えを使って不等式を解く方法を理解し、1次不等式を解くことができる。 ・いろいろな形の1次不等式を解くことができる。

4 指導計画（8時間扱い）

第一次 不等式・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
 第二次 1次不等式の解き方・・・・・・・・・・ 6時間（本時は第3時）

5 生徒の実態

氏名	性別	実 態
A	女	<p>歩行障害</p> <p>小学1年～4年まで未就学のため、学習空白がある。昨年度までは個別指導を行っていたが、今年度より本人の希望により当該学年の授業の中で学習している。学習は個別に年間指導計画を立て、それに沿って進めている。</p> <p>前単元では、等式の性質や移項の考えを用いて方程式を解くことができたものの、やや複雑な計算を必要とする問題では計算ミスが多く見られた。また、知識の定着には時間がかかる。</p>

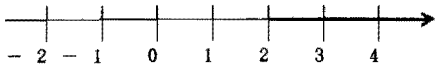
6 本時の指導

(1) 目標

- 「移項する」ことの意味を理解し、それを用いて、両辺が1次式である不等式 $ax+b < cx+d$ を能率的に解くことができる。

(2) 準備・資料 数直線のプリント, 練習プリント

(3) 展開

学習内容・活動	支援と評価
<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1次不等式 $2x+5 > 11-x$ を解いてみよう。</p> </div> <p>2 自分の力で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不等式の性質をもとに考える。 ・移項の考えをもとに考える。 ・1次方程式の解き方をもとに考える。 $2x+5 > 11-x$ $2x+x > 11-5$ $3x > 6$ $x > 2$ <p>3 自分の解き方を説明する。</p> <p>4 解の集合を数直線上に表す。</p>  <p>5 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① $4x-9 > 2x+11$ ② $9x-15 < 6x$ ③ $7+2x < -x+1$ ④ $14-3x > 6-x$ <p>6 1次不等式の解き方をまとめ、次時の学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容を確認する。 ・既習内容を活用して、どのようにすれば解くことができるのか考えさせ、見通しをもたせる。 ・必要に応じて、不等式の性質、移項の考えを確認するように促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・式の書き方を簡略化すると、不等式の性質も忘れられやすいので、順序よく計算するように助言を与える。 ・計算途中で符号の間違いが見られたときには、移項の考えを確認するよう示唆する。 ・計算に戸惑うようであれば、$2x+5 = 11-x$ を提示し、この方程式の解き方が参考にならないか、ヒントを与える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のもつ知識を活用して、課題の不等式を解くことができたか。(ノート) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・式の変形とそこで使った性質を確認する。 ・不等式における移項を、方程式における移項と対比させ、その類似性に気付かせる。 ・数直線のプリントを配付し、$x > 2$ が何を表しているのかについて、その範囲を数直線上に表すことで、より深い理解を促す。 とで、より深い理解を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題プリントを配付し、自分の力で解かせる。 ・必要に応じて、係数が負の数のときは不等号の向きが変わることに注意するよう言葉掛けをする。 ・不等号の性質のどれを使ったかを質問する。 ・符号、計算に間違いが見られたときには、ヒントを与え、自分でなぜ間違ったかを考えさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次不等式の解き方をまとめることができたか。(ノート) </div>

8 精神薄弱養護学校

(1) 作成マニュアル

ア 個別指導計画について

① プロフィール

(様式1)

- ・担任が、児童生徒の実態把握をする。
- ・障害、発達の状態、保護者の願い等について多角的、客観的に把握する。

② 長期個別指導目標

(様式2)

- ・プロフィールに基づき、担任が1年間の目標を設定する。
- ・児童生徒に身に付けさせたいこと、さらに伸ばしたいこと、改善を図りたいことなどから目標を設定する。
- ・保護者と話し合いをもち、家庭で目標としたいことを記入すると共に、目標についての共通理解を図る。
- ・目標の中から、最優先目標・優先目標を決定し、さらに指導の場や集団について検討する。

③ 個別年間指導計画

(様式3)

- ・指導形態別に指導目標を設定する。
 - ・担任、授業担当で指導目標を確認し、共通理解をはかる。
 - ・単元・題材や活動内容あるいは段階的な指導内容を記入する。
- ※全指導形態について記入するのが無理な場合は、最優先目標・優先目標に深く関係するものについて記入する。

④ 短期個別指導目標 ・計画・評価

(様式4)

- ・個別年間指導計画に基づき、短期（長くても学期単位）個別指導目標を設定する。
- ・段階的な指導計画や指導の手だてを考え、実践する。
- ・指導の記録を指導の経過及び結果にまとめる。
- ・児童生徒の学習の評価及び指導の評価を行い、指導の反省及び課題に記入する。
- ・保護者との話し合いをし、指導内容の検討・修正を行う。

イ 学習指導案について

(ア) 指導目標の設定について

個々の短期指導目標から単元（題材）の構成を考え、単元（題材）における具体的な指導目標を設定する。

(イ) 本時の指導・展開における支援と評価について

支援策や評価については、個に応じて具体的に記述する。学習活動を通し児童生徒が目標を達成するために、教師がどんな支援をすればよいのかという観点に立ち、課題ができた時、できなかった時の具体的な手だてについて記入する。

(2) 友達や教師とかかわりがもてるようにしたい生徒（中学部第3学年）の事例

ア 実践の概要

(7) 指導計画を作成するにあたって

- 本児のプロフィールを作成するにあたっては、保護者との連携をとりながら、生徒の生育歴など家庭での様子を踏まえ、学校側でも指導の記録などを参考にして実態を把握した。
- 長期個別指導目標は、プロフィールに記入された7つの領域の実態を踏まえて、1年間を見通して達成可能と思われる目標について設定した。また、個々の目標がどの授業形態で達成できるかということも具体的に表記した。
- 個別年間指導計画では、学校の年間計画に基づいて、授業の形態に合わせて大まかな個別の目標を設定し、計画を一覧できるような形式でまとめた。
- 短期個別指導目標・計画はできるだけ具体的に記入し、日々の実践にすぐつながるようにした。指導の経過及び結果、指導の反省及び課題についても具体的に詳しく記入することでより丁寧な指導につながるようにした。

(イ) 実践に当たって・・・ 学習指導案の作成

- 短期個別指導目標の指導計画と、単元の位置づけを考慮し、さらに生徒の実態を合わせてねらいを設定して、学習指導案を作成し、授業へと展開していった。
- 実践の際には、指導者が個別のねらいを把握して、集団の授業の取り組みの中でどのように個別の支援ができるか配慮した。本児については、集団の中で自己表現することが難しいのでより表現しやすい場面をどう設定するかを配慮した。

(ウ) まとめと今後の課題

- このような個別指導計画を作成することによって多様化する個々のニーズが明確になり、授業を実践する上でも個に応じた指導を具体化・現実化することができた。
- 学校生活全般にわたって個に応じたねらいが提示されることによって、担任だけでなく、授業に携わる関係者間で生徒の共通理解が図りやすくなった。そのために、生徒個々の実態を理解することはもとより、どのような観点をもって授業を展開するか計画し易くなった。
- 次年度への引き継ぎの際にも有効な参考資料になり、生徒の学習の経過を知ることのできるため、指導のステップの継続を図り、新たな指導計画へと発展させるための手がかりになると考えられる。
- 個別指導計画を作成し、日々の実践に運用していこうとするためには、学校の現状を踏まえながら学校全体で取り組む体制づくりをしていくことも急務である。学校が個々のニーズに応じて、質の高い教育を実践するためにも、この個別指導計画に基づく指導の実用化が期待される。

プロフィール

		記入者	〇〇 〇〇	記入日	平成9年 〇月 〇日
氏名	〇〇 〇〇	学年	中・3	生年月日	昭和57年 〇月 〇日
障害名	精神薄弱, 場面かん黙			性別	男
家庭の状況 家族構成	父, 母, 祖父, 祖母, 姉の6人家族。〇〇市内の農村地域に住んでいる。両親共に, 本児に関して熱心にかかわっている。家では, 自転車乗りや, その手入れをしていることが多い。家に居るときは父母とよく会話をしている。				
生育歴 (相談歴)	S 63. 4月 H 元. 4月	〇〇 〇〇	幼稚園入園(障害に気付く) 養護学校小学部入学		
これまでの指導 指導目標及び達成度	以前から, 場面かん黙の状態がみられ, 学校ではほとんど会話がなく, 2年前には登校をしぶり長期欠席の時もあった。学校場面など集団の中では, 過度の緊張のためか黙ってしまうので, リラックスした状態でかかわりがもてるようにしていきたい。				
諸検査	S-M社会生活能力検査 SQ=43 SA= : (H 9. 3月)				
実 態	健康・体力	中学部になってから身体的な成長が顕著で, 思春期における体の成長に本人も戸惑っている。ともなって, 登校をしぶる要素にもなっていたようである。 粗大な動きでの体力はあるが, 微細な動きの器用さに欠ける。			
	基本的生活習慣	身辺処理は自立。 挨拶, 返事をはじめ会話によるコミュニケーションが難しい。			
	意志交換能力	会話による表現がほとんどないので, 相手に何かを伝えることがうまくいかない。日常的な会話は, 大體理解できる。また, 指示に応じて行動することもできる。			
	集団参加能力	大集団になると, 緊張感が強くなる。どちらかという小集団にいた方が, リラックスした状態でいられる。 集団の中でのコミュニケーションはみられないが, 集団行動には参加できる。			
	作業能力	絵や文字を書いたり, はさみを使うなどといった手先を使う作業では雑な面がある。農園芸班での活動では, 得意な草取りには集中し熱心に取り組むが, 本児が好まない作業では, 慣れるまでに時間を要する。			
	知的能力	言葉は分かることが多いが, 学校では発語があまりみられない。簡単な文字や見慣れた文字の識別はできるが, 文字を書くことは困難でなぐり書き程度である。数も, 数概念の確立はしていないが, 日常的な活動での簡単な数の対応はできる。			
	情緒・情操	自分の体のことが気になったり, 他人の視線が気になることが多い。 大人になりたいというような意識が強い。			
行動特徴	ごくまれに, 攻撃的な行動をとることがある。 家庭では, 特に母親に対して, 言葉や行動で攻撃的にかかわってくることもある。				
保健・医療情報	特になし				
保護者の要望 本人の願い	家庭では, 母親に対する攻撃に対してどのようにかわるかということを考えている。また母親は, 進路を考えるにあたり, 社会性も身に付けたいと思っている。知的な面では, 自分の名前程度は書けるようにという願いである。本人は, 大人への憧れが強くなる上での男性を意識しているところがある。進学も考えているようである。				

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

中学部3年〇組	氏名	〇〇〇〇	作成者	〇〇〇〇	作成日	平成9年〇月 〇日
場面 領域	学 校			家 庭		
	指導目標及び指導の場(個別または集団)			目 標		
健康・体力	〇題材に合わせていろいろな動きを体得する。 体調に合わせて運動に参加できる。 (体育 集団) ・体調によって遅刻が多いが、遅くなってもすぐに学習に参加できる。 (日生 個別)			・体の不調を訴えて登校に支障があることがあるので、リズムのある生活を送ることができる。		
基本的な生活習慣	〇少しずつでもかかわりを広げて挨拶や返事ができる。 (日生 個別)			・家庭などで挨拶ができる。		
意志交換能力	◎自分の気持ちや感じたことを表現できる。 (日生 個別) 〇交友関係を広め、多くの友達とかかわることができる。 (日生・特活 集団・個別)			・家族の人に気持ちを伝えることができる。 ・家族は本人の話に耳を傾けて、なるべく受け入れるようにする。		
集団参加能力	〇大きな集団でも緊張せずにリラックスした気持ちで学習に参加できる。 (作業・体育・音楽 集団) ◎クラスでは、あらゆる機会を捉えて教員や友達とかかわることができる。 (日生 個別)			・リラックスできる雰囲気大切にできる。		
作業能力	〇手先を使う作業を丁寧にできる。 (作業・生単・職家など 集団) ・農園芸班で、不慣れな仕事でも集中力を維持できる。 (作業 集団)			・家の掃除や畑仕事など、手伝いすることができる。		
知的能力	・なぐり書きや、簡単な線や形をなぞったり色を塗ることができる。 (国語・美術 個別) ◎選択したり指差しなどの方法で自己表現ができる。 (国語・日生 個別) ・形や色の弁別、数の基礎学習ができる。 (数学 集団・個別) ・金銭の取扱いに慣れる。 (数学・生単 集団・個別)			・買い物などを通して、物を数えたり、金銭を扱うことができる。		
情緒・情操	〇周囲の視線などが気になって感情的になることがあるが、自分でコントロールできるようになる。 (学校生活全般 集団) ・絵や形を描き、自由に表現できる。 (美術 個別)			・家で生活の中で会話を通して自分の感情を伝えることができる。		

◎最優先目標

○優先目標

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

中学部3年〇組		氏名		〇〇〇〇		作成者		〇〇〇〇		作成日		平成9年〇月 〇日	
場	学級	学 部			学 年			グ ル ー プ			家庭		
領域	日生	作業	生単	職家	体育	国・数 課題別	音楽	美術	特活				
目 標 月	何らかの方法で教師や友達とかかわることができる。	不慣れな仕事にも集中できる。	学習の中で自己表現ができる。	手先を使う作業を丁寧に行う。	体の動きを体得したり、体調に合わせて運動に参加できる。	選択したり指差しなどの方法で自己表現ができる。	リラックスした気持ちで学習に参加できる。	絵や形を描き自由に表現できる。	交友関係を広め多くの友達とかかわることができる。				
4	<ul style="list-style-type: none"> 着替え 朝の会 帰りの会 給食 清掃等 	<ul style="list-style-type: none"> 春蒔き野菜を作ろう 収穫祭 秋蒔き野菜を作ろう 収穫物の販売 収穫祭 堆肥作りをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学年 運動会をがんばろう 校外学習 校外宿泊学習 1学期のまとめ 作品展について 働く人々 修学旅行 いいとみ祭 2学期のまとめ 交歓会をしよう もうすぐ卒業 1年間のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 手作りにチャレンジ 働くということ 休日の過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> ランニング(通年) 陸上 運動会の練習 陸上 水泳 水泳 ボール運動 器械体操 表現運動 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間集め 形、色、絵、数字、平仮名、片仮名等 書いてみよう 線、形、平仮名、片仮名、数字、カード等 ゲーム カルタ、福笑い、ビンゴ 	<ul style="list-style-type: none"> 明るい声でハーモニ 日本の音楽を聴いて表現しよう 心を合わせてハーモニ 	<ul style="list-style-type: none"> 水彩画 友達運動会、静物 工芸、折り紙 お面 いとみさいのポスター 年賀状 卒業記念品制作 作品見学 地域公民館 	<ul style="list-style-type: none"> 集会活動(通年) 杉竹割り 				
5													
6													
7													
9													
10													
11													
12													
1													
2													
3													

平成9年度第1学期 短期個別指導目標・計画・評価

部・年・組	中学部3年〇組	作成者	〇〇〇〇	作成日	平成9年〇月〇日
氏名	〇〇〇〇	評価者	〇〇〇〇	記入日	平成9年〇月〇日
指導形態(単元・題材名)	日常生活の指導(朝の会をしよう)				
指導期間	平成9年4月8日(火)～7月18日(金)				
指導目標	・身振りなどで、かかわりをもつことができる。				
指導計画			指導の手だて及び教材・教具		
4月	・教師とともに活動に参加することができる。	・当番になった日には、教師とともに朝の会の進行をして、言葉が出しにくい場合は身振りなどで伝えるようにする。 ・他の生徒が当番の際は、指名された時に挙手や握手を通して、かかわりがもてるように促す。			
5月～6月	・大まかに活動の流れをつかみ、友達とのかかわりをもつ。	・当番の際は、教師の声に合わせて、できるだけ一人で進行の位置について活動できるようにする。 ・出欠の確認など、指名されたら握手などをして友達とかかわる場面を徐々に増やしていく。			
7月	・場に応じたかかわりをもつことができる。	・当番の際は、進行の場面に合わせて指差しや身振りで表現できるように、教師が声を掛けて支援する。 ・返答をするときにも、自分なりに身振りなどを工夫して友達と気軽な雰囲気がかかわれるようにする。			
指導の経過及び結果					
4月	・進級したばかりで、新たなクラス的环境を受け入れることにも戸惑いが感じられる。まだ、緊張感が強く感じられ、表情にも硬さが見られる。なるべく本人の意図を考慮し、教師が支援して友達と				
5月	のかかわりをもてるようにしてきた。				
6月	・朝の会で、1日の自分の目当てを考えて発表する場面では、自ら掲示物を指さすといった行動が見られるようになってきた。				
7月	・まだ、本人が意図したことの全てが表現できているわけではないが、身振りで表現しようとする場面が出てきた。理解できたことに対しては、片手で親指を突き出すような身振りをしたり、違うことに対しては、手で×印を示したりしている。 ・表情にも穏やかさがみられるようになり、身振りで表現しようとすることも習慣化してきた。自分が当番の時には、名前を呼ばれると自覚して、自ら当番の位置につくようになった。				
指導の反省及び課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・1学期間で新しいクラス的环境にも慣れてきたようである。まだ自分から動作や言葉で積極的に表現する場面はみられないところである。今のところ、言葉を表現手段とするよりもクラスの教師や友達とかかわる体験を豊かにして信頼できる関係づくりを目指した。安心できる人間関係を基本に、本人が安心できる環境の条件が整えば、言葉の方も出てくる機会があるかもしれない。今後は、教師や友達とかかわることに自信をもたせて、より積極的にかかわり合いがもてるようにしていきたい。 					

中学部 第3学年1組 日常生活の指導学習指導案

指導期日・時間 7月〇日 第1校時
 指導場所 第3学年1組教室
 指導者名 〇〇 〇〇 (T1)
 〇〇 〇〇 (T2)

1 単元 朝の会をしよう

2 単元設定の理由

中学部3学年1組は、男子3名、女子3名の計6名の生徒が在籍している。生徒集団の特徴としては、人とかわらうという意識が少なく、集団としてのまとまりをもちにくい生徒たちである。コミュニケーションの面において、個人差はあるものの5名については言葉による会話ができるが、場面かん黙の1名については、学校生活全般において、ほとんど話をしたことがない。

朝の会については、毎日当番になる生徒を交替しながら、年間を通して同じ活動内容を展開している。継続した学習によって、自主的に活動できるようになることを目標に取り組んでいる。

このような活動を通して、人とかわかる経験を重ねながら集団としての意識をもたせるとともに、1日の見通しをもつことでその日の学習活動の意欲を付けたいと考えている。

3 目標

(1) 全体目標

○今日の学習内容について知り、1日の学習活動への意欲をもつことができる。

○主体的に、教師や友達とかかわりをもつことができる。

(2) 個別目標

氏名	短期個別指導目標（1学期）	単元における個別指導目標
A	・話をよく聞いて活動に参加できる。	・1日の見通しをもって、めあてをもつことができる。
B	・落ち着いて活動に参加できる。	・1日の活動について理解することができる。
C	・緊張せずに場に応じた行動がとれる。	・場に応じたかかわりをもつことができる。
D	・自分の気持ちを表現できる。	・1日の見通しをもって、めあてをもつことができる。
E	・場に応じた行動がとれる。	・1日の活動について理解することができる。
F	・集中して活動に参加できる。	・はっきりとした声で会話のやりとりができる。

4 指導計画（105時間取扱い：本時は39時）

内容	第1学期	第2学期	第3学期
朝の会	朝のあいさつ、朝のうた、出席調べ、今日の日付・天気、 今日の予定、みんなのめあて、先生の話、終わりのあいさつ		

5 生徒の実態

氏名	性別	学年	実 態
A	男	3	・自ら表現することは苦手だが、簡単な会話をしたり見通しをもった行動がとれる。
B	男	3	・落ち着きのない行動が目立つが、簡単な会話はできる。
C	男	3	・場面かん黙のため、ほとんど言葉がない。身振り手振りが表現手段になっている。
D	女	3	・簡単な会話はできるが、言葉で気持ちを表現することは難しい。
E	女	3	・活動に集中できないことがある。不明瞭な発音だが簡単な会話はできる。
F	女	3	・不明瞭な発音だが簡単な会話はできる。集中力が散漫なことが多い。

6 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標

○今日の学習内容について知ることができる。

○教師や友達とかかわりをもつことができる。

イ 個別目標

- A：今日の学習活動を知り、学習への意欲をもつことができる。
- B：今日の学習活動を知ることができる。
- C：当番としての場に応じた行動がとれる。
- D：今日の学習活動を知り、学習への意欲をもつことができる。
- E：今日の学習活動を知ることができる。
- F：みんなに聞こえるように元気な声で受け答えできる。

(2) 展開

学 習 内 容 ・ 活 動	支 援 と 評 価	準 備 物
<p>1 朝の会をはじめめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 起立して朝のあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当番が朝の会の開始時間に気付かない時は、T1が言葉掛けをして気付かせる。 ・ 生徒たちは、席について当番の号令を待つ。 ・ 当番のCが前に出て、号令をかけて朝のあいさつをする。T1が補助につき、行動を促す。 ・ Cの声が出ないときには、身振りや手振りで表現するようにする。T1はCの行動に説明を加えて補助する。 	
<p>2 朝の歌をみんなで歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今月の歌を歌う。 ・ 着席する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラジカセをかける係のEが、カセットテープを入れて曲をかける。 ・ みんなで歌い、歌詞の覚えられない生徒や歌うことが難しい生徒は、身振りでも構わないことを知らせ、T1とT2も大きな動きで生徒を促す。 ・ 楽しい雰囲気をつくる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○場面に自発的に参加できたか。 ○体の緊張がほぐれたか。 (行動観察) </div>	<p>ラジオカセットテープ</p>
<p>3 出席調べをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当番のCが、生徒を一人ずつ呼び、健康の確認をする。発声がない場合には、指差しをしたりして生徒を一人ずつ指名し、握手をする。T2は生徒たちの間の席に着席し、生徒の役を演じて手を出して握手を誘うなど行動のモデルを示す <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当番としての場に応じた行動がとれたか。 C (行動観察) </div>	
<p>4 今日の日付、曜日を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当番のCが、日付ボードを指差ししながらみんなで日付を読んで確認する。 ・ Cが、みんなに今日の天気を問い掛けて、天気を確かめる。言葉での問い掛けが難しい時はT1がCの行動を補助する。 	<p>カレンダー 日付ボード 日付カード</p>
<p>5 今日の予定を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当番が今日の予定表を指す。 ・ 当番が示したところをみんなで読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cが、今日の予定表を間違えずに指差せるようにT1はヒントを与えるなどして考えさせる。 ・ T2も、生徒たちとともに声を合わせ、みんなで読み上げられるようにする。 	<p>今日の予定表</p>
<p>6 みんなの目当てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日、特にどの授業をがんばるか目標をもつ。 ・ 目当てが決まった生徒は、自分の名前カードを今日の予定表の欄に貼ってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cが、今日の予定表の授業の欄を指し、目当てが決まった生徒は該当する授業のところで返事や挙手をして知らせるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分で目当てを考えられたか。 (行動観察) </div>	<p>名前カード</p>
<p>7 先生の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T1は、前に出て今日一日の学習活動などについて話をする。 ・ 各自席に着いて話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T2は、生徒たちとともに席に着いて生徒役を演じ、生徒が話に集中できるように話題に誘う。 ・ T1は、各自の目当てを確かめながら、一日の学習活動を説明する。 	
<p>8 終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒たちは、終わりのあいさつをして、朝の会を終える。 	

(3) 意思の伝達能力を高めたい生徒（高等部第3学年）の事例

ア 実践の概要

(7) 指導計画を作成するにあたって

- 高等部は、家庭生活や社会生活に入る前の最後の学校生活であり、高等部の3年間の生活が充実・発展して社会生活に自然につながる事が大切である。そのためには、卒業後の進路を踏まえたアセスメントが不可欠になる。
- 本児は、高等部の3年生で、卒業後は一般事業所への就労を希望しており両親も願っている。2年次に障害者職業センターで実施した職業能力適性検査の結果では、条件付きではあるがセクションI（雇用）と判定された。しかし、現場実習の評価では、技能面での問題はないが、態度面での課題として、指示に対する返答がないこと、挨拶や報告等が自主的に行えないこと、気が向かないときは問い掛けを無視してしまうこと等が指摘された。学校や家庭の生活においても、担任や友達、母親等の特定の相手や慣れた集団以外では同様の態度が見られることが多く、その要因としては、就労に対する意識の低さ、家庭生活での過保護、話すことへの自信の欠如が考えられる。
- 最優先目標を次の二点に絞り、各教科の担当者と検討して、意思の伝達能力を高めたいと考えた。
 - ①自分の考えや気持ちを相手に分かるように話すことができるために、基本的な構文力を養わせること。
 - ②卒業後の生活について具体的に考えることで、就労意識を高めながら基本的な作業態度の育成や情緒面での安定を図ること。
- 短期個別指導目標におろしていく際は、長期個別指導目標を達成させるためのスモールステップとすることで、各教科・領域の具体的な指導の方向性が明らかになるように配慮した。

(4) 実践にあたって……学習指導案の作成

- 高等部の場合、学部縦割りの授業形態が多く、その授業の指導目標は複数の生徒に共通するところがある。しかし、個々の実態が異なるため、具体的な指導の手だては違ってくるので配慮した。
- 教科領域を合わせた作業学習等の場合には、国語や数学の基礎的教科の指導内容を実際に活用する機会として取り上げることも大切で、個々の目標をしっかりと押さえると共に、個別年間指導計画で各教科の指導内容を把握しておくことが必要である。

(7) まとめと今後の課題

- 本児の個別指導計画の作成を通して、同じ学年の教員はもとより高等部教員全員の共通理解が必要となり、それができて初めて成り立つものであることを痛感した。
- 共通理解を図ることで生徒個々の目標を達成するために最適な指導の場が確保でき、さらに教科間の指導内容に関連性をもたせることで学習の定着や深化がより期待できるという利点があげられる。
- 学部縦割りの授業形態が多い高等部であればこそ、個別指導計画の必要性は高いといえる。しかしながら、本校の高等部のように生徒数がかかなり多くと、教員の負担増加に伴った弊害予想されるため、学校全体で組織的に運用していくことが望ましいと思われる。

プロフィール

		記入者	〇〇 〇〇		記入日	平成 9年 〇月 〇日	
氏名	〇〇 〇〇	学年	高3年	生年月日	昭和54年 〇月 〇日		
障害名	精神薄弱		性別	女			
家庭の状況 家族構成	父(〇〇〇〇勤務), 母(〇〇〇〇), 姉(大学生・別居), 弟(本校中2), 本人両親共に過保護で放任主義的。家事等の手伝いはあまりさせていない。父親との会話がない様子。自室で好きな音楽を聴いたり, 雑誌やテレビを見て過ごすことが多い。						
生 育 歴 (相 談 歴)	S61.4月〇〇小学校入学, 小学3年生より特殊学級へ通級(国語・算数) H4.4月〇〇中学校入学(特殊学級), H7.4月〇〇養護学校高等部入学						
これまでの指導 指導目標及び達成度	コミュニケーション能力の向上を目標に, 学級活動での発表等の場面を中心に指導してきた結果, 学級では改善されてきている。		諸 検 査	田中ビネー知能検査 I Q=(42)(H9.4月) S-MHI知能検査 S Q=(80) SA=(10:5)(H8.3月) 職業能力適性検査セクション=I(H8.11月) 療育手帳=B(H8.3月)			
実	健康・体力	身長・体重共に標準値で, 運動や作業等の活動をするにあたっての支障はない。関節可動域・体位・動作にも特に制限はない。スイミングクラブに通っていたことがあり個人メドレーができる。野球が好きで, ソフトボール等の球技が得意である。					
	基本的生活習慣	身辺処理は自立している。挨拶や返事が習慣化されていない。					
	意志交換能力	簡単な日常会話は可能だが, 発音が不明瞭で声が小さい。環境に慣れるまで時間がかかり, 緊張して受け答えができなくなってしまう。語りが少なく, 自分の気持ちや感情を相手にうまく伝えることが難しい。					
	集団参加能力	体を動かすことが好きで, 休み時間には上級生や下級生とバスケットボールやバドミントンを活発に行っている。集団生活に必要なきまりを守って行動できる。					
	作業能力	〈作業班〉 1年次:組立班(木工作业), 2年次:農業班, 3年次:木工班 被服等の細かい作業は苦手であるが, 粗大活動を伴う作業では, 指示された仕事に真面目に取り組むことができ, ほぼ正確に行える。飽きてくると, 仕事が雑になる。 〈現場実習〉 1年次:スーパーで野菜の袋詰め, 2年次:食品会社で不良品の選別等 3年前期:養鶏場で卵の選別, 各実習先の評価は, 一様に挨拶や指示に対する返答がないことを指摘しており, 対人関係面での課題が見られる。					
態	知的能力	小学1年生程度の漢字の読み書きができる。主語・述語・目的語を使って経験したことを文章化できるが, 助詞の使用は間違いが多い。2桁の加法, 減法ができるが繰り上がりや繰り下がりでの間違いが多い。					
	情緒・情操	人見知りをしたり, 気が向かないときには問い掛けを無視することもあったが減ってきている。好きな球技の試合で負けると悔しくて泣いてしまうことがある。					
	行動特徴	自分でできそうなこと, 分かっていることに対しては積極的に取り組むことができる初めてのことや納得できないことには身構えてしまい, 行動に移せないことがある。机上での学習より全身を動かす学習活動を好む。					
保健・医療情報	脳波にてんかん波が出ているために服薬はあるが, 発作は起きたことがない。 通院3カ月毎(〇〇短大付属病院, 〇〇市立病院)						
保護者の要望 本人の願い	気が向かないときは, 返事もせずに自室に閉じこもってしまう等の精神面での幼さを改善してほしい。誰にでも大きな声で挨拶したり, 受け答えをしてほしい。 進路希望先としては, 一般事業所で接客等の対人関係を重視しない職種。						

平成9年度 長期個別指導目標

(様式2)

高等部3年〇組	氏名	〇〇 〇〇	作成者	〇〇 〇〇	作成日	平成 9年 〇月〇日
領域	場面	学 校			家 庭	
		指導目標及び指導の場（個別または集団）			目 標	
健康・体力		<ul style="list-style-type: none"> ・目標タイムを設定し、自主的に持久走を行うことができる。（体育・集団） 			<ul style="list-style-type: none"> ・休日に自宅周辺をジョギングする。 	
基本的生活習慣		<ul style="list-style-type: none"> ○誰に対しても大きな声で挨拶や返事をする事ができる。（学校生活全般・個別） ・話を聞く上で、マナー等の基本的な態度を身に付けることができる。（学級） 			<ul style="list-style-type: none"> ・家の人や近所の人に自主的に挨拶ができる。 	
意志交換能力		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや気持ちを相手に分かるように、順序だてて話すことができる。（特活、国語・集団） ・大きく口を開けて、はっきりと発音することができる。（音楽・集団） 			<ul style="list-style-type: none"> ・学校での出来事を具体的に話すことができる。 ・近所の家にお使いに行くことができる。 	
集団参加能力		<ul style="list-style-type: none"> ・同じ活動で慣れた集団であれば、リーダーシップを取ることができる。（生単・集団） ・球技のルールを覚えたり、ポジションを考えたゲーム運びをすることができる。（体育・集団） 				
作業能力		<ul style="list-style-type: none"> ◎基本的な作業態度を身に付ける。（作業・集団） ○働くことに対する意識を高め、卒業後の生活について具体的に考えることができる。（生単・集団） 			<ul style="list-style-type: none"> ・掃除、夕食の準備や片付けの手伝いをする事ができる。 ・簡単なおかずを作ることができる。 	
知的能力		<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の計算や時計の見方を覚える。（数学、作業・集団） ◎基本的な構文力を身に付ける。（国語・集団） 			<ul style="list-style-type: none"> ・近所のスーパーで簡単な買い物をする事ができる。 ・その日の出来事を日記に書くことができる。 	
情緒・情操		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の相手や場所等の環境に左右されずに、行動することができる。（学校生活全般・個別） ・意に添わないとき等には、断る理由を述べる事ができる。（国語、生単、特活・集団） 			<ul style="list-style-type: none"> ・父親とキャッチボール等をして遊んだり、会話を増やす。 	

◎最優先目標

○優先目標

平成9年度 個別年間指導計画

(様式3)

部・年・組		高等部3年〇組		氏名	〇〇 〇〇	作成者	〇〇 〇〇	作成日	H9年 〇月〇〇日
場	学 級	学 部				家 庭			
類 種	特 活	生活単元	国 語	数 学	作 業 学 習				
目 標	自分の考えや気持ちを、相手に分かるように、順序だてて話すことができる。	働くことに対する意識を高め、卒業後の生活について具体的に考えることができる。	基本的な構文力を身に付ける。	日常生活に必要な数量・時間・金銭等の基礎的能力を伸ばし、活用することができる。	基本的な作業態度を身に付ける。	基本的な生活力を高めると共に、家族の中で役割意識をもつことができる。			
4	【朝の会・帰りの会】 ・挨拶や返事、今日の献立、学習予定を大きな声で発表する。 ・今日の出来事や感じたことを三語文程度で発表する。	【自分発見】 ・自己理解 ・他者理解 【仕事と経済生活①】 ・家族の仕事 ・現場実習 ・卒業生の進路と仕事 ・働くって何？ ・将来の仕事 ・施設見学 【仕事と経済生活②】 ・給料と生活 ・金融機関の利用の仕方 ・貯金 ・家計簿の付け方 【社会のしくみ】 ・私たちの権利 ・公共施設の利用 【余暇活動】 ・お金の遣い方 ・趣味 ・校外学習の計画 【私の進路】 ・仕事、夢、生活、目標 ・3年生の進路	【ことば遊び】 ・なぞなぞ、諺、反対語等(通年) 【昔話を 読もう】 ・疑問の代名詞(5W)の理解と応答 ・助詞の使い方 ・指示語 【ニュース+スターになろう】 ・5W1Hの理解と応答 ・接続詞 ・伝聞の助動詞 【詩を書こう】 ・副詞 ・比喩的表現 ・形容詞 【手紙を出そう】 ・手紙文の形式 【履歴書を書こう】 ・履歴書の形式	【数量】 ・加法 ・減法 【単位】 ・長さ ・重さ 【お金】 ・金種と数え方 ・お金の計算 ・買い物学習 【時間】 ・時計の見方 ・時間の計算 ・時刻表の見方	【すのこ】 ・基本的な木工具の名称、使い方 ・挨拶、返事 ・話を聞く態度 【コルクボード】 ・作業工程の理解 ・電動工具の使い方 ・限定された場面での報告 【プリンター】 ・流れ作業 ・責任感 ・協調性 ・報告(誰に対しても自主的に行える) ・わからないときの質問の仕方 【掛け時計】 ・作品を販売する上での話し方等	【掃除】 ・風呂 ・自分の部屋 【調理】 ・簡単なおかず ・準備 ・片付け 【宿題】 ・日記 【挨拶】 ・家の人 ・近所の人 【買い物】			
5									
6									
7									
8									
9	【朝の会・帰りの会】 ・今日の出来事等を助詞に気を付けながら発表する。 【H・R】 ・簡単な話し合いの司会が行える。								
10									
11									
12									
1	【朝の会・帰りの会】 ・会の進行を大きな声ではっきりと行える ・今日の出来事等を5W1Hを意識して発表する。								
2									
3									

平成9年度第1学期 短期個別指導・目標・計画・評価

部・年・組	高等部3年〇組	作成者	〇 〇 〇 〇	作成日	平成9年 4月 〇日
氏名	〇 〇 〇 〇	評価者	〇 〇 〇 〇	記入日	平成9年 7月 〇日
指導形態	作業学習(木工)	単元・題材	バザーに出品する作品を作ろう		
指導期間	平成9年 4月21日(月) ~ 平成9年 7月16日(水)				
指導目標	・限定された場面での報告が自主的に行える。				
指導計画			指導の手だて及び教材・教具		
4月～ 5月	<ul style="list-style-type: none"> 自分の仕事を理解し、完成までの見通しをもつことができる。 特定の相手に4つの場面で「〇〇が終わりました。」と、自主的に報告することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ①型どり後 ②糸のこで切断後 ③サンドペーパーで磨いた後 ④完成したとき 	<ul style="list-style-type: none"> 作業工程表に報告する場面と内容を明記しておき作業開始時に説明する。 一つの場面でも自主的に報告できた場合は称賛する。 作業日誌を記入することで自己評価させると共に報告できなかった場面については次時に行えるよう励ます。 全部の場面で自主的に大きな声で報告することができたら、称賛がなくてもできるようにする。 糸のこの刃が折れた際は、報告の仕方について指導するが表情や態度で訴えた場合でも受け入れる 			
6月	<ul style="list-style-type: none"> 報告する相手を変えても、4つの場面で自主的に報告することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇教諭(担任), △△教諭(同一学年), □□教諭(他学年)の順番で、毎時間変えていく。 			
*第3・4週に現場実習実施					
7月	<ul style="list-style-type: none"> 突発的な場面で報告することができる。 糸のこの刃が折れた時に「糸のこの刃が折れました。」と、自主的に報告することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告できないときは、どうしたのか尋ねる。 自主的に報告できたら称賛する。 自主的にできない時や、声が小さいときは気づかない振りをする。 			
指導の経過及び結果					
<p>5月中旬… 報告する場面が増えてきて、電動工具の音が飛び交う中でも聞き取れるくらいに声も大きくなってきた。称賛する度に笑顔で「はい。」という返事が多くなった。作業日誌での自己評価も正当なものに近づき、報告漏れの場面を思い出せるようになった。</p> <p>下旬… 4つの場面全部において報告できる日が増えてきた。称賛する回数を減らしても態度面での変化は見受けられない。本時の反省や感想を発表する時にも、大きな声で言えるようになり内容も多くなってきた。糸のこの刃が折れた時は「これ。」と言って、折れた刃の一部を見せに來たり「折れた。」と言って知らせることができた。</p> <p>6月上旬… 相手によって報告の仕方にむらが見られ、作業能率にも影響した。特に、糸のこ刃が折れた時の意志表示ができなくて自分の力で直そうとしてしていたことがあった。</p> <p>7月中旬… 報告する相手が担任以外でも抵抗がなくなってきたのか、糸のこの刃が折れた際も自主的な報告ができるようになってきている。</p>					
指導の反省及び課題					
<p>毎時間同じ内容の報告を決まった場面で特定の相手にすることは、かなり定着してきたようである。特にコルクボードの作業工程を覚えて一人で完成させることができた5月上旬からは、徐々に報告漏れが減り、作業に対する取り組みもより意欲的になったようである。報告する相手を変えた当初の反省から、担任以外の時は称賛する回数を増やす等の支援を行いながら徐々に態度面でのむらを改善させていった。</p> <p>しかし、6月下旬の現場実習の評価には十分な成果が現れなかった状況を考えると、今後も引き続き指導していく必要性を感じる。2学期以降は、困った時等のより実践的な場面を多く取り入れたい。</p>					

高等部 全学年 作業学習（木工班）学習指導案

指導期日 平成9年5月〇日（〇） 第2～4校時
 指導場所 高等部木工室
 指導者名 〇〇 〇〇T1, 〇〇 〇〇T2, 〇〇 〇〇T3

1 単元名 バザーに出品する作品を作ろう

2 単元設定の理由

木工班は、1年生4名、2年生1名、3年生5名の10名で構成されている。生徒の実態は、作業を進める上で常に指示や何らかの支援を必要とする生徒から、作業内容に興味を持って自主的に取り組む生徒と幅が広く、技術的にも個人差が著しい。そのため、教材の選定に当たっては、生徒個々の実態や能力に合った作業内容が豊富にあり、作業工程を細分化できること、生徒の力だけで完成度の高い製品が作れるような補助具の開発が可能であること等を考慮した。ここで取り上げた「すのこ」は、作業工程が少ないため見通しが持ちやすく、同じ長さの板を補助具にセットしていくというパターン化した作業のため、反復練習による技能の向上が図りやすい等の利点があり、年間計画の柱として位置づけている。また、「コルクボード」は、指先の巧緻性や微妙な力加減等のより高度な作業技術の習得をねらって取り上げている。障害の程度に関わらず、生徒一人ひとりに「できた」という喜びを感じさせることで、意欲的に取り組む態度を養わせると共に、作業学習に必要な基礎的な能力や態度を身に付けさせていきたいと考えた。さらに、自分で作った作品を多くの人に見てもらったり販売することで、働くことの喜びや楽しさも味わわせることができることを期待して、本単元を設定した。

3 目標

- (1) 全体目標
- 自分の仕事を理解し、意欲的に取り組むことができる。
 - 働くことへの関心を高め、社会自立に向けて基礎的な態度を身に付ける。
 - 電動工具や手工具の操作能力を高めると共に、安全に対する態度を身に付ける。
- (2) 個別目標

氏名	短期個別指導目標（1学期）	単元における個別指導目標
A	完成までの見通しを持ち、積極的に取り組める。	すのこの作り方を理解し、たくさん作ることができる。
B	自分の仕事に分かり、集中して作業に取り組める。	すのこ作りの一部を丁寧に作ることができる。
D	完成までの見通しを持ち、積極的に取り組める。	すのこの作り方を理解したくさん作ることができる。
E	自分の仕事に分かり、集中して作業に取り組める。	すのこ作りの一部を丁寧に作ることができる。
H	作業に必要な報告や挨拶返事が自主的にできる。	限定された場面で自主的に報告したり挨拶や返事ができる。
I	自主的に取り組み、正確に作業を行うことができる。	作業に関わる単位を理解し、活用することができる。

4 指導計画（100時間）

第一次	バザーに向けて計画を立てよう。	2時間
第二次	制作の準備をしよう。	4時間
第三次	出品する作品を作ろう。（本時は第34～38時）	86時間
第四次	たくさん販売しよう。	8時間

5 生徒の実態

氏名	性別	諸検査	併せ有する障害名・状態像	学習に対する実態
A	男	IQ (33) SQ (45)	・ 仕事内容や指示を理解することができる。 ・ 緊張すると吃音になることがある。	すのこ 小 ・ 作業内容を理解して正確に取り組んでいる。 ・ 周りの人と協力して作業を進めることができる。
B	女	IQ (56) SQ (40)	・ 言葉で気持ちを伝えることができる。 ・ 周りを気にし過ぎる。	・ 指示によって金槌や鋸を使えるが、技術的にまだ未熟な面がある。
D	男	IQ (56) SQ (78)	・ 場面緘黙 ・ 意思の伝達や作業報告、挨拶等、ほとんどの場面で声を発することが難しい。	すのこ 大 ・ 作業内容を理解して取り組んでいる。 ・ 釘打ち、電気ドリルでの穴開け等、正確に作業ができる。
E	女	IQ (45) SQ (79)	・ 興味本位の行動が見られるが、場の状況を考えて自分を抑えようと努力することができる	・ 指示によって金槌や鋸を使えるが、技術的にまだ未熟である。
H	女	IQ (42) SQ (80)	・ 簡単な日常会話が可能だがごく身近な人に限られる。	コルク ボード ・ 作業工程を理解し意欲的に取り組んでいる。 ・ 糸のこではぼ線の通りに切ることができる。 ・ 報告は自主的に言えることが増えてきている。
I	女	IQ (68) SQ (92)	・ 学校生活全般において意欲的に活動している。	・ 作業工程を理解し意欲的に取り組んでいる。 ・ 糸のこではぼ線の通りに切ることができる。 ・ 四則計算がほぼ正確にできる。

6 本時の目標

(1) 目標

ア 全体目標

- 自分の仕事を理解し、意欲的に取り組むことができる。
- 作業に必要な挨拶、返事、報告等を行うことができる。

(2) 展開

学習内容・活動	支援と評価	準備・資料
1 はじめの挨拶をする。 2 本時の作業内容を知る。 (1)作業の内容を聞く。 3 班毎に作業を開始する。 (1)作業工程の確認をする。 (2)個人目標を確認する。 (3)道具・材料を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・入室するときに大きな声で挨拶をした生徒を賞賛する。 ・作業分担表に注目させて、生徒個々の作業内容について説明する。 ・注意事項が思い浮かばないときには、T2がヒントになるような発言をする。 ・C・M・Nが自分の持ち場へ移動することが難しい場合にはT2・T3が声をかける。 ・作業工程表で報告する場面と内容を確認させるようにする。 ・自分の目標を意識していない生徒には、指示をして確認させる。 ・準備物が適切でない場合は、友達のと比べて間違いない気付くようにする。 	作業分担表 名前カード 作業工程表
<すのこ(大)班> T2担当 A③④⑤, B③⑤, C①②		
①鋸で板を切る。 ・板を用意し、線を引く。 ②電気サンダーで板の両面を磨く ③補助具に板をセットし、ボンドを付ける。 ・板の間にスポンジを入れる。 ④電気ドリルで穴を開ける。 ⑤金槌で釘を打つ。 ・完成したら報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・Cが板を運ぶ際に、他の生徒の安全に気を配るように言葉をかける。 ・切る板と見本の板を合わせる際に端をきちんと揃えてから線を引いているか確認し、注意を促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[評価] 線の通りに鋸で切ることができたか。 C (見本との比較)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・見本と同じ長さであれば賞賛し違う場合には鋸の刃を傾けないように指示をする。 ・板の全面が均一に磨けているか手で触って確認するように声をかける。 ・Bがボンドを付ける際は、事前に印を書いておく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[評価] 積極的に板をセットしたり、ドリルでの作業が行えたか。 A B (指示の数)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Aが電気ドリルを板に当てる際に、角度が垂直になっているか確認し、安全面には十分配慮する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[評価] 金槌で釘を曲げないように打つことができたか。 A B (曲げた釘の本数)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Bが正確に打てたら賞賛し、自信を持たせながら正確に打てるように支援する 	鋸 見本の板 電気サンダー ボンド 電気ドリル すのこ制作機 道具(大小) 金槌 釘
<すのこ(小)班> T3担当 D③④⑤, E③⑤, F①②,		
<コルクボード班> T1担当 G①~⑥, H①~⑥, I①~⑥, J①~⑥		
①型どりをする。 ・型どり後報告する。 ②糸のこで切断する。 ・切断後報告する。 ・刃が折れた場合は報告し、交換する。 ③サンドペーパーで磨く。 ・磨き終えたら報告する。 ④ガスパーナーで焼き付ける。 ⑤布で磨く。 ⑥コルク板をボンドで貼る。 ・差し金で計測する。 ⑦鉛筆立て用の木片をボンドで付ける。 ⑧スタンドをボンドで付ける。 ・完成後報告する。 4 班毎に後片づけをする。 5 本時の反省をする。 ・作業日誌に記入する。 ・感想を發表する。 ・先生の話を聞く。 6 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・型どり後に見本品と比べて違う場合はやり直しをするように促し、正確さを要求する工程であることを説明する。 ・糸のこで切る場合は、板をしっかりと押さえると共に、余分な力を入れて刃を曲げないように注意を促す。刃が折れた際に、コンセントを抜き忘れた生徒には指示をする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[評価] ・糸のこで線の通りに切ることができたか。 G, H, I, J (見本との比較)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Hの自主的な報告を期待するが、戸惑っている場合はどうしたのか尋ねて報告を意識させる程度にとどめる。 ・磨くときは、表面だけでなく裏面もきれいに磨かせるようにする。 ・磨くときは必ずT1がつき、安全面に配慮すると共に、均一に焼くためのポイントを説明する。 ・板の下部に差し金を当てる際は垂直か、左右2カ所を計って線を引いてから貼っているか、Iの目で確かめる。 ・H, Jの差し金には、6cm5mmの位置に印を付けておく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[評価] ・板の下部から6cm5mmの位置にコルク板を貼ることができたか。 G, I (実測)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Hには、3つ目の場面までは報告ができては称賛しない。4つ全ての場面で報告できたときは大いに称賛する。 ・Jには、自主的にできたときは全て賞賛し、もっと大きな声で言えるように励ます。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[評価] ・4つの場面で自主的に報告することができたか。 H, J (行動観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・電動工具のコンセントを抜き忘れている場合は指示をする。 ・自分の班の片づけが終わったら木工室の掃除を行わせる。手際よく片づけられない時は指示や援助をする。 ・JにはT1が、B・CにはT2が、E・FにはT3が、評価の項目について具体的に説明する。 ・班毎に一人ずつ発表させるが、がんばっていたところを称賛し本時の個人目標にそった評価を付け加える。 ・退室の際は、大きな声で挨拶するように言葉を掛けて促す。 	電動糸のこ 紙ヤスリ ガスパーナー 布 ボンド 差し金 木槌 作業日誌

第5 研究のまとめ

1 研究の内容

個に応じた指導への関心が高まる中で、平成7・8年度に「個に応じた指導方法に関する研究」を進め、そこで個別指導計画のモデル（4様式）を提示した。本年度は、この提示を受けて「個別指導計画に基づく指導方法の在り方」という研究テーマで実践的研究を進めてきた。障害種別に事例を選び、提示された4様式にそって実際に個別指導計画を作成した。そして具体的な指導方法を検討して学習指導案の中で指導目標の具現化を図った。指導方法の検討に当たっては、特に以下の観点を大切に検討を行った。

- ① 短期個別指導目標と単元・題材の指導目標の一貫性
- ② 児童生徒の主体性を引き出す支援の在り方
- ③ 集団指導の中での個に応じた具体的支援の在り方
- ④ 評価の在り方（形成的評価の重視、できた時とできなかった時の支援策の明記など）

2 研究の結果

個別指導計画から学習指導案までの一貫した研究を進めたことで以下の成果があった。

- (1) 個別指導計画から学習指導案まで一貫して作成して検討を進めた結果、個別指導計画に基づく指導方法を具体的に実践に生かす手順を把握できた。
- (2) 個別指導計画を生かした指導方法を検討し、学習指導案の中で具現化できた。
また、具体的に実際の事例を基に個別指導計画を作成し、指導方法を検討して学習指導案を作成した研究協力員からは、以下のような感想が述べられた。
- (3) 個別指導計画を作成することで、児童生徒の気が付かなかった部分が見えて指導に役立った。
- (4) 指導の方向性が明確になり、また年間の見通しが立てられ、系統的な指導ができるようになった。
- (5) 一人一人の具体的な目標が明確になり、集団指導の中でも個に応じた配慮ができるようになった。
- (6) 学習活動の途中での評価の観点が明確になり、的のあった支援ができるようになった。また、児童生徒の小さな変化が見えるようになった。
- (7) 指導にかかわる関係者の話し合いで資料が提示しやすくなり、共通理解を図る上で役立った。

3 今後の課題

- (1) 個別指導計画の作成や具体的指導にかかわる関係者（教師、保護者など）の連携について
指導目標や指導方法の検討や具体化に当たって共通理解が重要になってくるので、ケース会議の進め方やチーム・ティーチングの在り方など関係者（教師、保護者）の連携について検討する必要がある。
- (2) 個別指導計画作成のシステムの効果的な運用の在り方について
個別指導計画作成のシステムは、学校などでかなり弾力的な運用が可能であるが、学校内でどこまで形式の簡略化、統一化が可能なのか、また従来の児童生徒の記録や提出物との関連をどう付けるかなど効果的な運用の在り方を究明する必要がある。
- (3) 個に応じた指導方法の究明について
個別指導計画は作成するだけでなく、いかに活用するかが重要である。そのためにもより適切な指導方法の在り方をさらに究明する必要がある。

以上のような課題を今後実践を通してさらに究明し、個に応じた指導が充実するようにしていきたい。

「個別計画に基づく指導方法の在り方」

1 研究協力員

<特殊学級グループ>

精神薄弱特殊学級

北浦町立武田小学校	教諭	磯山才子
新治村立藤沢小学校	教諭	須藤京子
潮来町立潮来第二中学校	教諭	山下たい

難聴・言語障害特殊学級

ひたちなか市立東石川小学校	教諭	高岡典子
五霞町立五霞西小学校	教諭	生井洋子

情緒障害特殊学級

つくば市立並木小学校	教諭	中山世宇子
岩井市立岩井中学校	教諭	関根賢一
三和町立三和東中学校	教諭	町田裕行

通級指導教室

波崎町立波崎東小学校	教諭	糸賀磨須美
------------	----	-------

<特殊教育諸学校グループ>

盲学校

県立盲学校	教諭	桜井靖子
-------	----	------

聾学校

県立水戸聾学校	教諭	橘育代
県立霞ヶ浦聾学校	教諭	本橋源己

精神薄弱養護学校

県立水戸飯富養護学校	教諭	鈴木健一郎
県立内原養護学校	教諭	牧山和佳子
県立結城養護学校	教諭	大森保徳

肢体不自由養護学校

県立水戸養護学校	教諭	佐藤則子
県立下妻養護学校	教諭	笹川聡

病弱養護学校

県立友部東養護学校	教諭	森正貴
-----------	----	-----

2 茨城県教育研修センター

所長	増田一也
次長	稲葉節生
特殊教育課長	浅野敬繁
指導主事	石田隆雄
指導主事	樋口隆史
指導主事	飯塚裕治

研究報告書第32号

特殊教育に関する研究
個別指導計画に基づく指導方法の在り方

それぞれの障害に配慮した
個別指導計画の実践事例集

平成 9 年 度

平成10年3月発行

編集・発行 茨城県教育研修センター

茨城県西茨城郡友部町平町字山ノ神1410番地

TEL 0296 (78) 2121 (代表)